



CE 9.4

Cisco Webex 会議室シリーズ ユーザ ガイド

Touch10 を使用するシステム

内容

このユーザ ガイドの内容

この目次のすべての項目はハイパーリンクになっており、該当記事に移動できます。

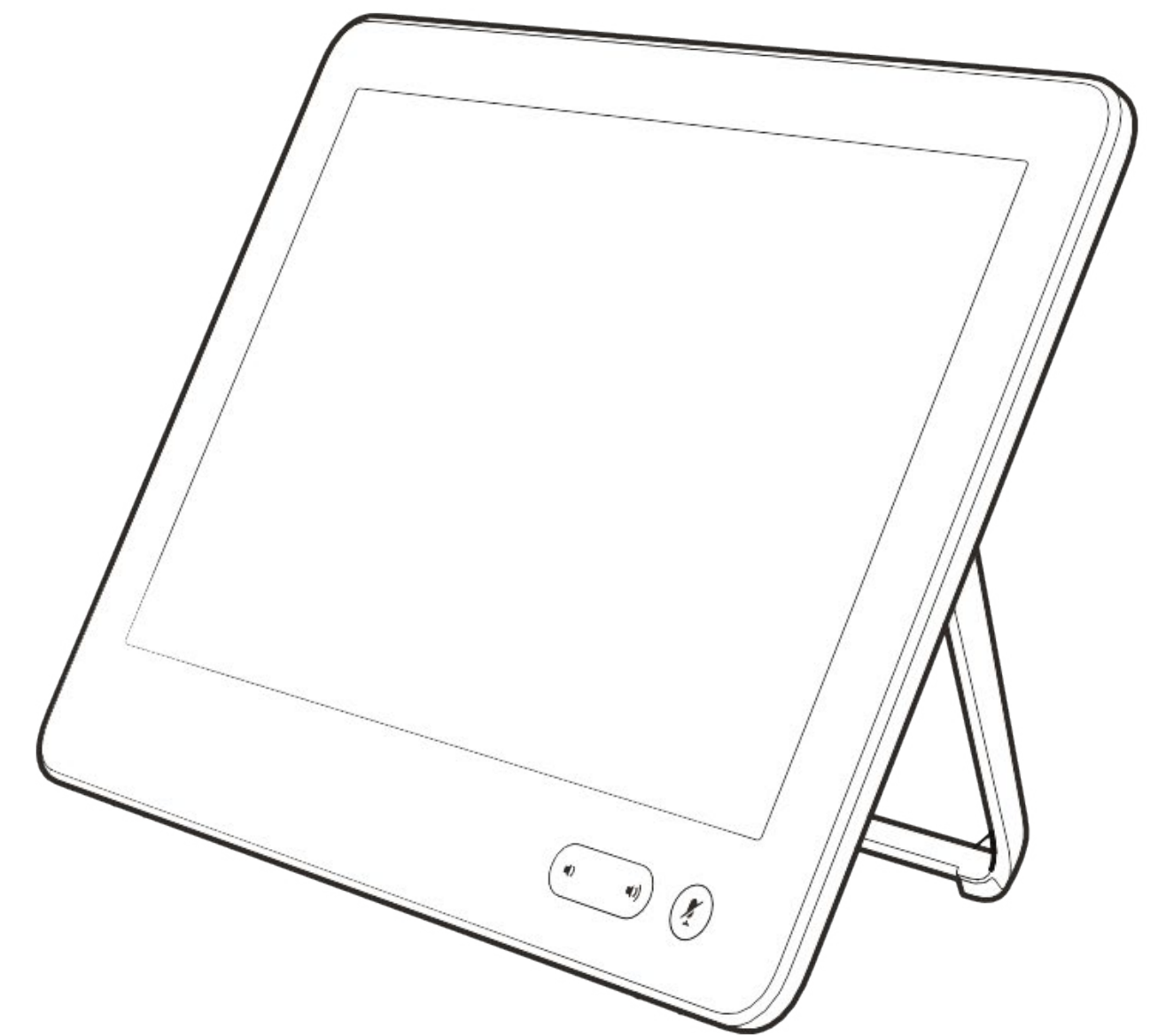
章間で移動するには、サイドバーのアイコンをクリックしてください。

注意 このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。

ビデオ会議：概要	
ベスト プラクティス	4
その他のヒント	4
資格情報を使用してログオンする	5
エクステンション モビリティについて	5
ビデオ電話	
連絡先リストから発信する	7
連絡先のリストについて	7
発信する前に連絡先を編集する	8
エントリ編集について	8
名前、番号、または IP アドレスを使用して発信する	9
発信について	9
受信 – 非通話時	10
着信があった場合	10
通話中に別の通話に応答する	11
着信があった場合	11
通話の切断	12
切断について	12
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	13
保留について	13
対応中の通話の転送	14
転送について	14
応答不可をアクティブ化する	15
応答不可について	15
すべての通話の自動転送	16
通話の転送について	16

通話中にキーパッドを表示する	17
通話中のキーパッドの使用	17
既存の通話に参加者をさらに追加する	18
ビデオ会議について	18
電話会議から参加者を切断する	19
ビデオ会議について	19
Intelligent Proximity	
シスコの Proximity の超音波信号	21
Proximity について	21
コンテンツ共有	
通話中にコンテンツを共有する	23
コンテンツの共有について	23
非通話時にコンテンツを共有する	24
ローカル コンテンツの共有	24
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	25
プレゼンテーション レイアウトについて	25
スケジュールされた会議	
スケジュールされた会議に参加する	27
会議への入室	27
コンタクト	
お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ	29
連絡先リストについて	29
通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する	30
お気に入りについて	30

誰かを非通話時にお気に入りに追加する	31
この機能について	31
カメラ	
カメラ設定の表示	33
カメラ操作について	33
カメラ位置プリセットの追加	34
カメラ プリセットについて	34
カメラ位置プリセットの編集	35
プリセットの編集について	35
スピーカー トラッキング	36
スピーカー トラッキングについて	36
プレゼンタートラッキング	37
プレゼンタートラッキングについて	37
自分のカメラを操作する	38
プリセットの編集について	38
自画面の管理	39
プリセットの編集について	39
自画面 PiP のサイズを変更する	40
自画面のサイズを変更する理由	40
自画面 PiP の移動	41
自画面を移動する理由	41
遠端カメラ制御	42
カメラ操作について	42
設定	
設定にアクセスする	44
バージョン情報管理	44



ビデオ会議：概要

ベスト プラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

会議室において

- すべての発表の音声拾われるよう、マイクをテーブルの前方に設置します。システムの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上離し、テーブルの正面からは 30 cm (1 フィート) 以上離します。平らな面に設置してください。
- 指示用のマイクは、ビデオ システムから離れた場所に向ける必要があります。
- マイクは、常に見える場所に置いておくようにしておきます。

- 常に、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなどのノイズ源から離れた場所にマイクを置いてください。これらのノイズ源からの雑音は、遠隔地の出席者には、予想以上に大きく聞こえます。
- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーに近くなるように、または指定されたコントローラに近くなるように参加者を配置します。
- ホワイトボードを使用する場合は、ホワイトボードがメイン カメラと専用のホワイトボード カメラから見えるようにすると、リモート参加者にとってより良い会議に見えます。放送会社は通常、このようにしてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように視聴者に見せています。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。

- 最も自然なミーティング環境を確保するには、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください（可能な場合）。遠くにいる会議の相手とアイコンタクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。これは、ビデオ システムの自画面機能を使用して確認してください。自画面には、遠隔地の相手がシステム（発信ビデオ）から見る内容が表示されます。
- コンテンツを共有する場合、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本のビデオ ストリームを使用します。プレゼンテーション用とプレゼンター（またはプレゼンター グループ）用です。小規模のシステムの場合、プレゼンテーションと発表者のどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。

その他のヒント

カメラ プリセットの使用

Cisco TelePresence システムでは、ズームおよびカメラの向き（パンと傾斜）を事前定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。カメラ トラッキング機能付きのシステムではこの操作は不要です。

スピーカーの音量

オーディオ システムでは、モニタに内蔵されたスピーカか、Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。

システムによっては、モニタのリモートを使用してボリュームを調整し、デフォルトのボリュームを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタには、非常に簡単に使用できる、画面上のメニューがあります。このようにモニタを設定する方法については、該当するユーザ ガイドと管理マニュアルを参照してください。

概要

資格情報を使用してログオンする

エクステンション モビリティについて

会議室や静音室にある、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) で実行中のビデオ システムには、自身の資格情報でログインすることができます。

こうすると、CUCM は、自分宛ての着信をすべてそのビデオ システムにルーティングします。

エクステンション モビリティからログアウトすると、[発着信履歴 (Recents)] の一覧はシステムからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

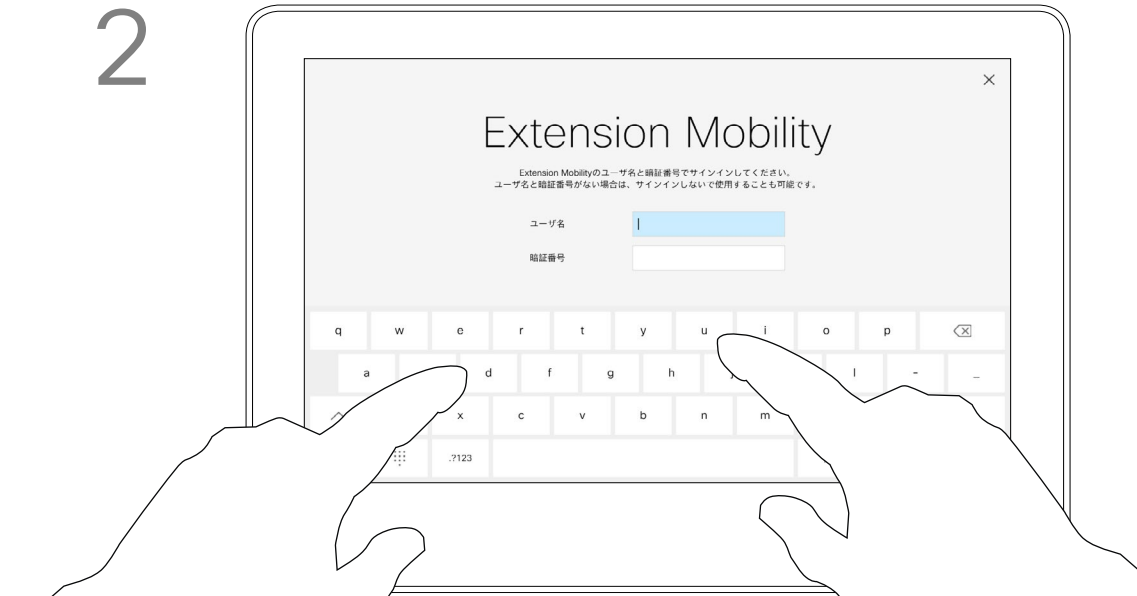
1



エクステンション モビリティ対応システムには、追加のボタンがあり、自分の資格情報を使用してシステムにサインインできます。

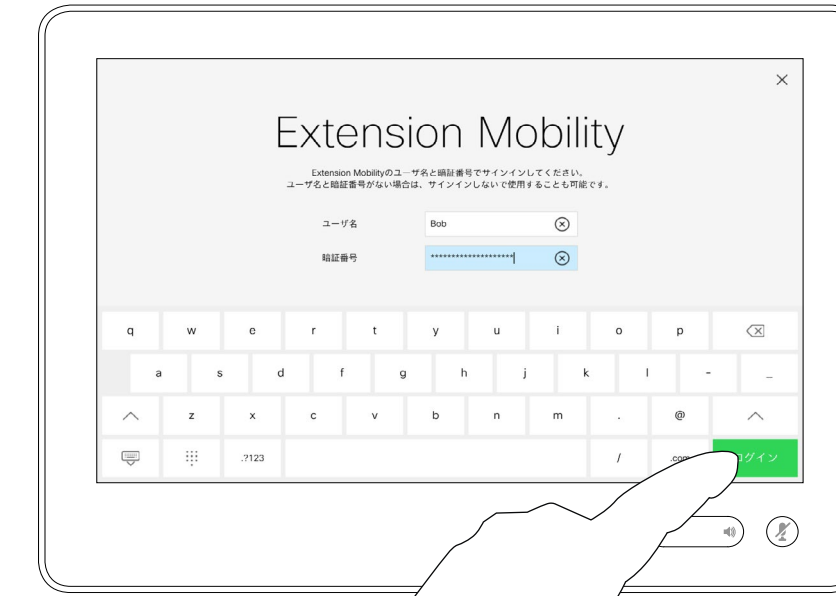
[エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] ボタンをタップします。

2



ユーザー名と PIN コードを入力します。

3

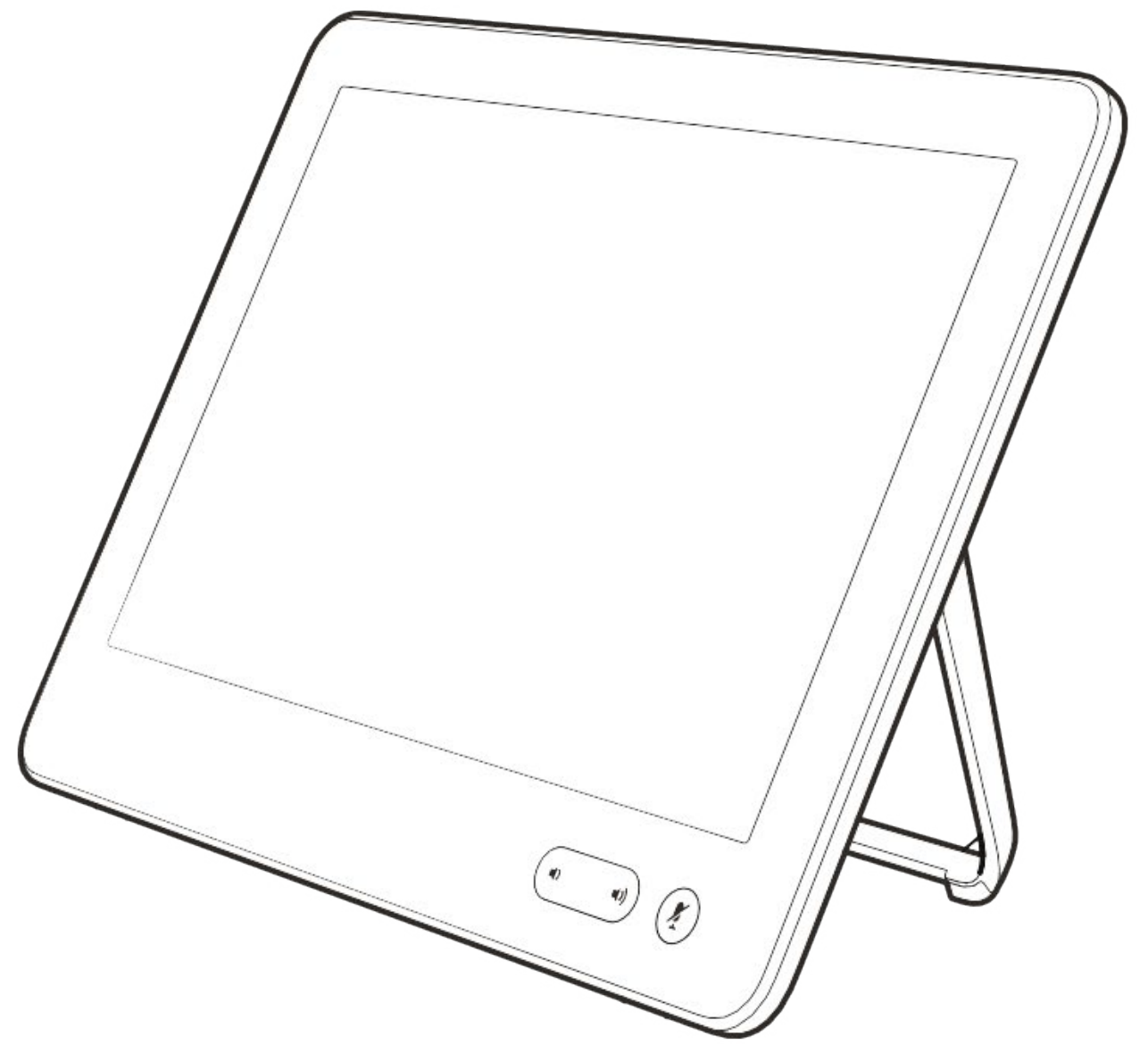


図のように [ログイン (Login)] をタップします。

4



サインアウトするには、[サインアウト (Sign out)] をタップします。



ビデオ電話

ビデオ電話 連絡先リストから発信する

連絡先のリストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

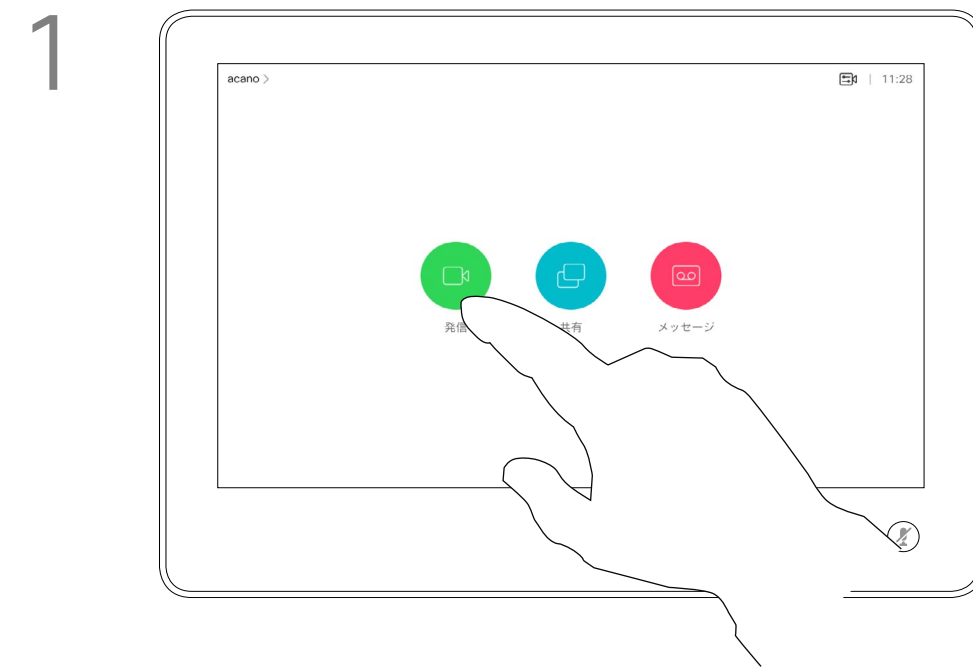
[お気に入り (Favorites)] 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要があります。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

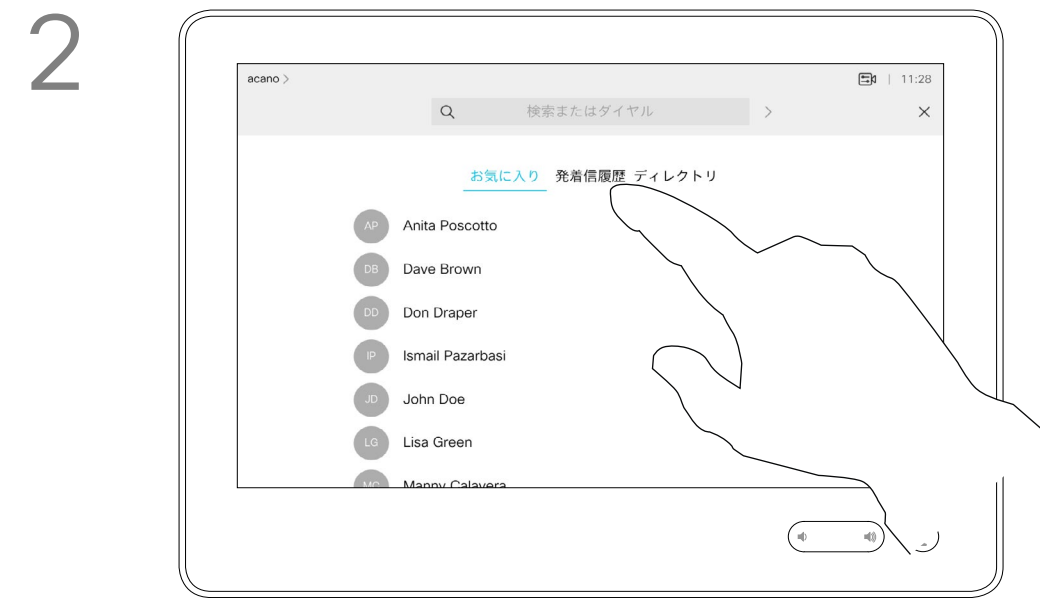
[発着信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

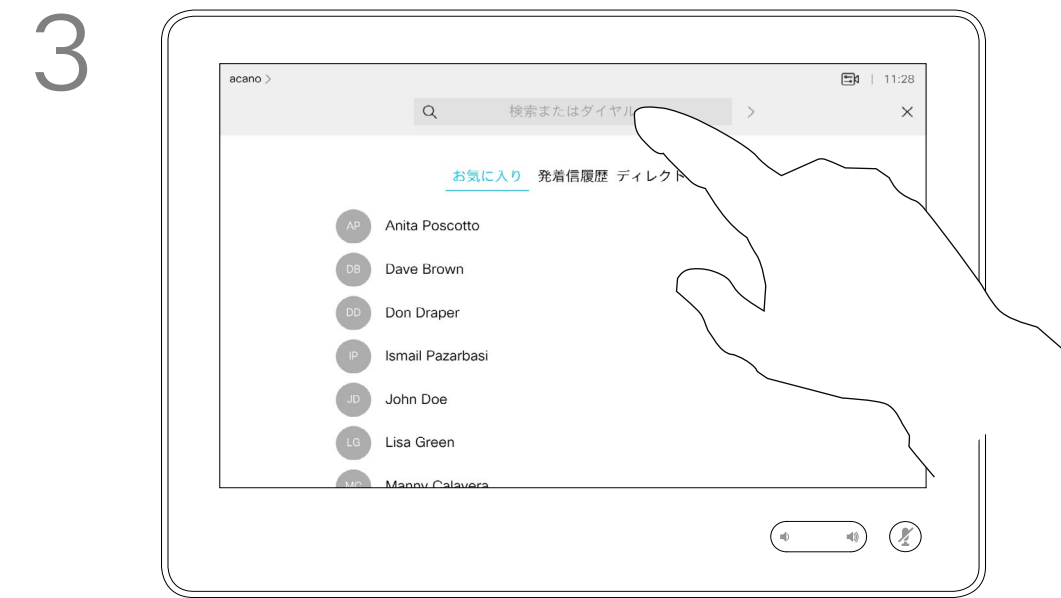
- 名前、番号、または IP アドレスをキー入力できます。これにより、すべてのリストが検索されます。
- [お気に入り (Favorites)]** のリストにエントリを追加したり、通話前にエントリを編集したり、帯域を変更したり、エントリを **[発着信履歴 (Recents)]** から削除したりすることができます。



【発信 (Call)】 ボタンをタップします。



特定のリスト (お気に入り、ディレクトリ、または発着信履歴) で誰かを検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールしてエントリを探します。



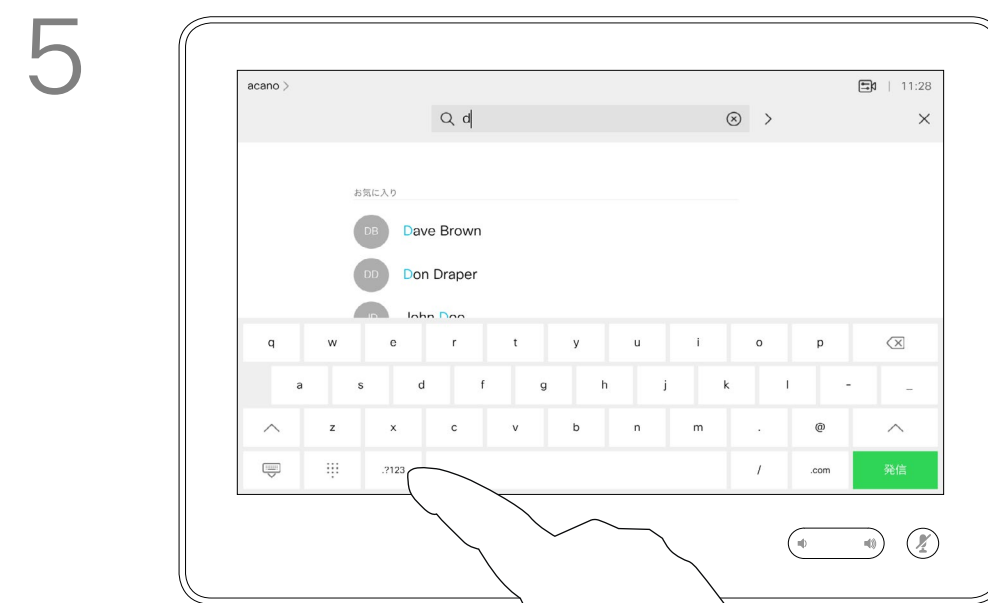
または、[検索またはダイヤル] フィールドをタップします。仮想キーボードが呼び出され、すべてのリストでエントリを探すことができます。



名前、番号、または IP アドレスをキー入力します。

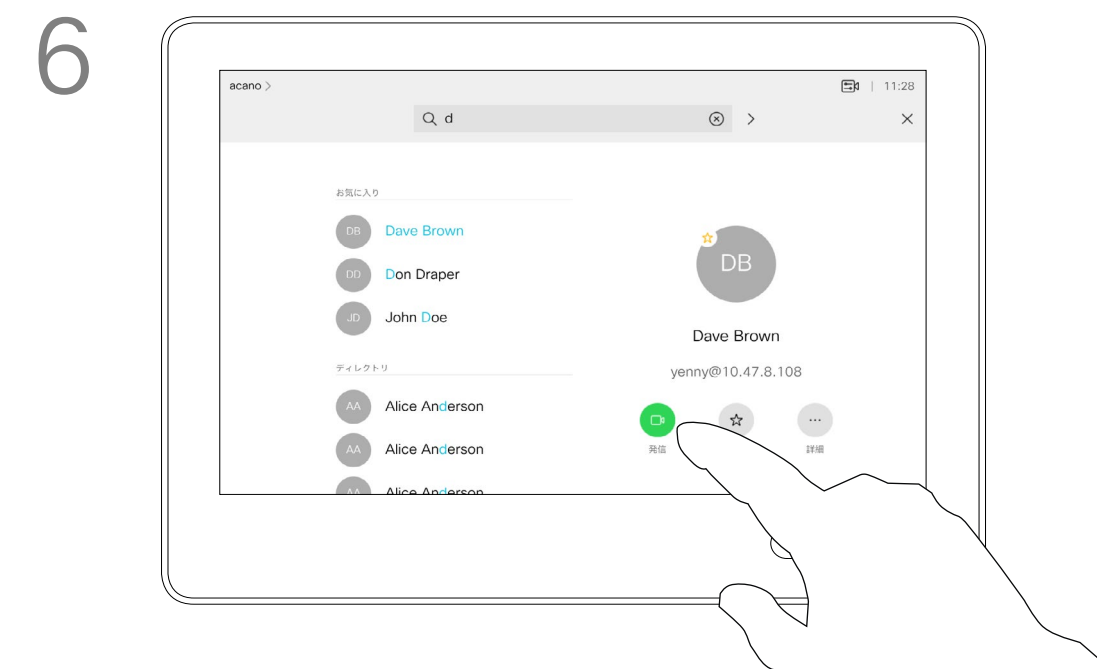
入力と同時に、一致するエントリが表示されます。

IP アドレスで使用するドットを入力するには、[*] を長押しします。



拡張数字モードを使用できます。このモードには、特殊文字が含まれています。

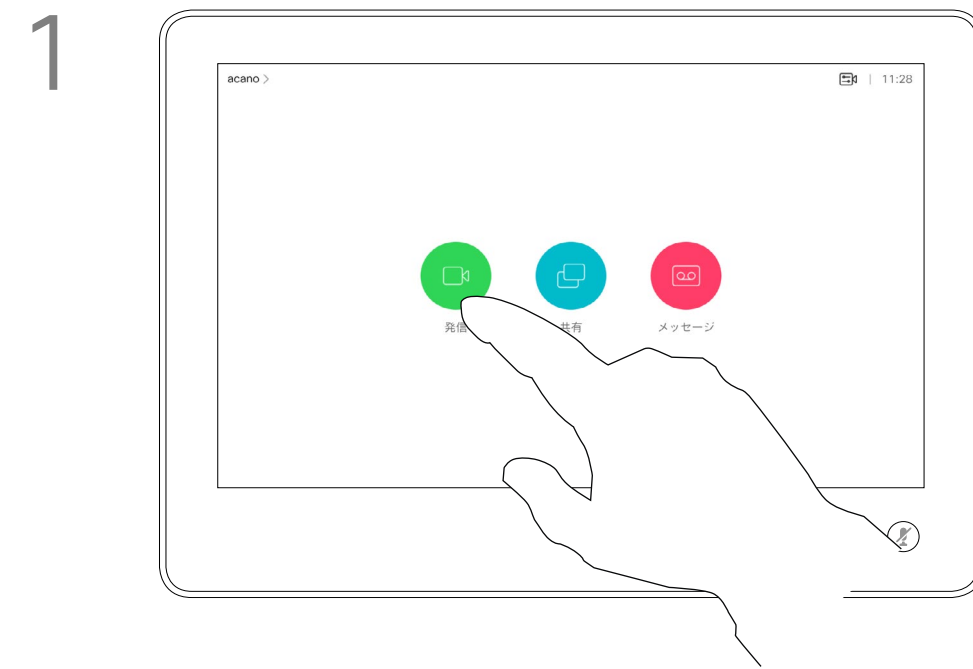
英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下にあるキーをタップします。



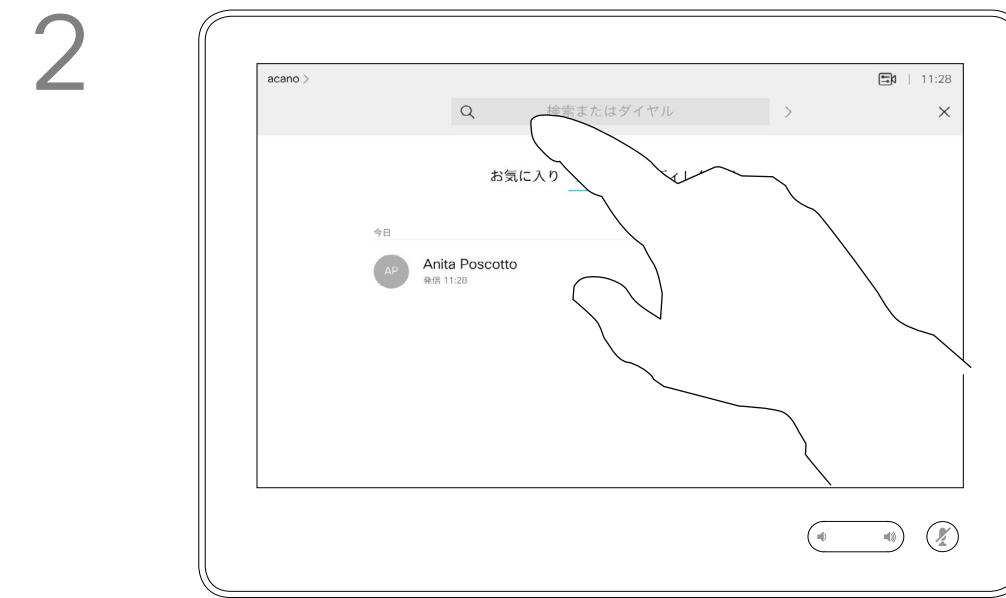
通話先が見つかったら、名前をタップし、緑色の【発信 (Call)】 ボタンをタップします。

ビデオ電話 発信する前に連絡先を編集する

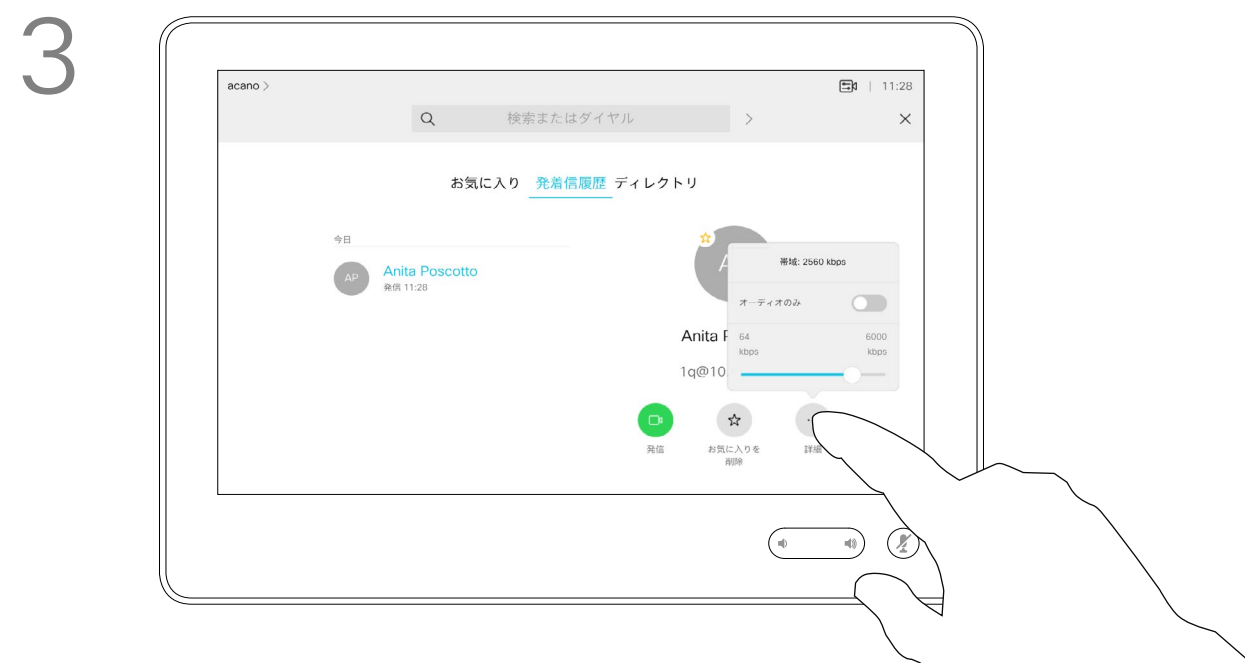
エントリ編集について



【発信 (Call)】 ボタンをタップします。



前のページに示すように、【検索またはダイヤル (Search or Dial)】 フィールドをタップするか、いずれかのリストをスクロールします。



エントリが見つかったら、タップして【発信 (Call)】メニューを表示します。図のように【発信 (Call)】メニューで【編集 (Edit)】をタップします。



必要に応じて編集し、緑色の【発信 (Call)】 ボタンをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

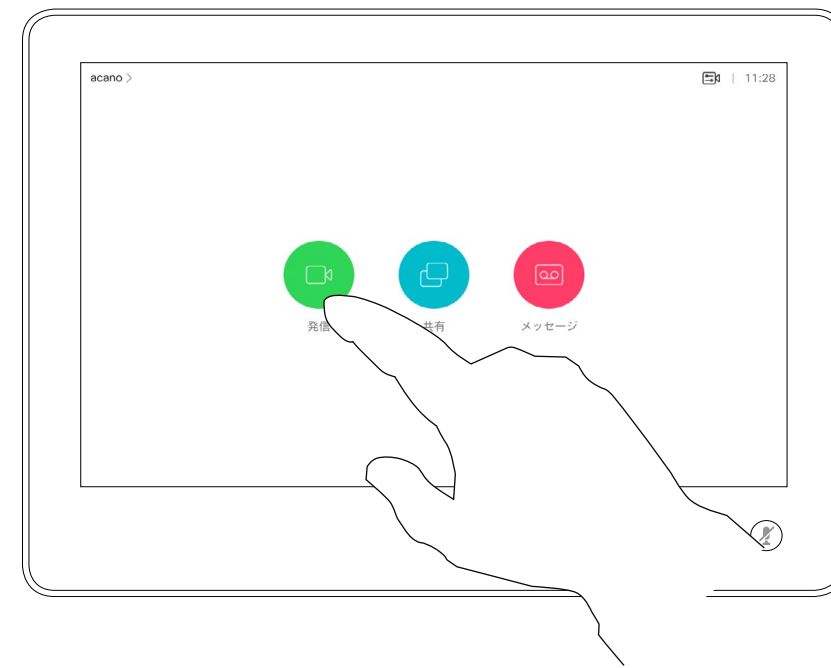
発信する前に、連絡先リストのいずれかのエントリを編集する必要がある場合があります。正常に完了するために、プレフィックスまたはサフィックスを追加したり、エントリを変更したりする必要がある場合があります。

ビデオ電話

名前、番号、または IP アドレスを使用して発信する

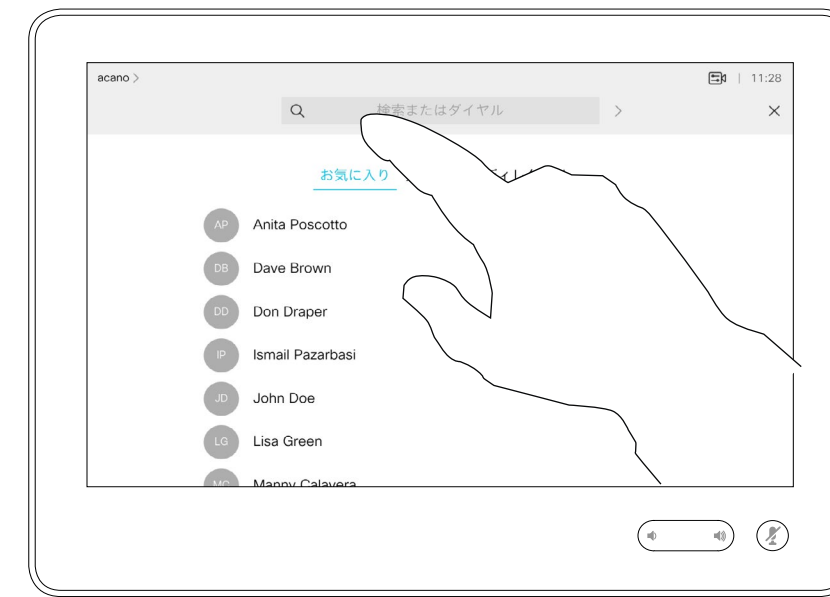
発信について

1



[発信 (Call)] ボタンをタップします。

2



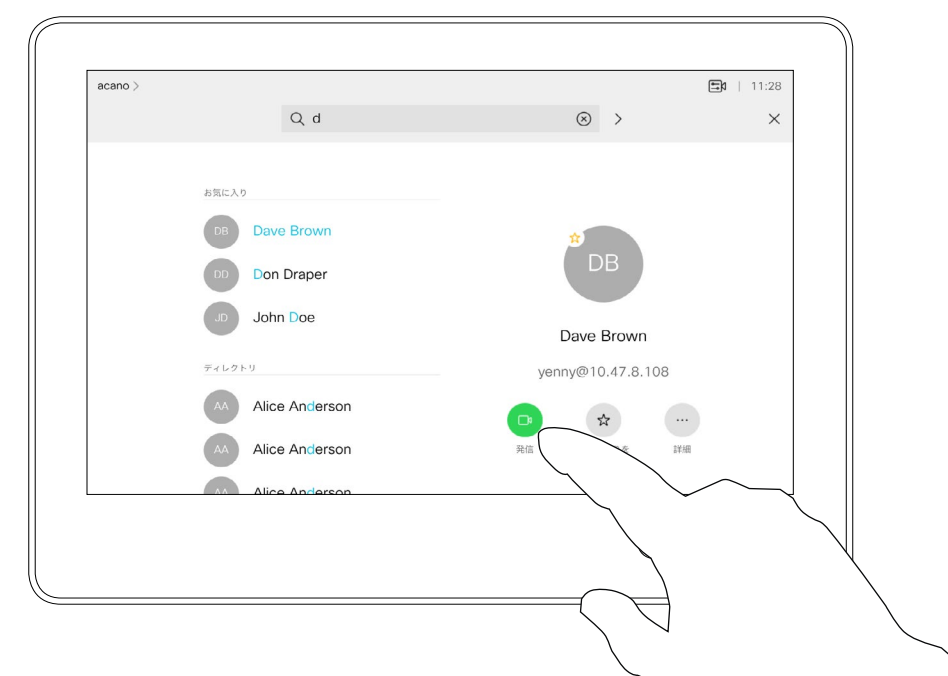
[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドをタップします。キーボードが呼び出されます。

3



名前、番号、または住所を入力します。入力に合わせて、一致すると考えられるものが表示されます。リストに目的の発信対象が表示されたら、それをタップします。表示されなかったら入力を続けます。

4



通話先を入力または特定できたら、名前をタップしてから、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップして発信します。

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

これまでの発信先または着信元がすべて [発着信履歴 (Recents)] リストに表示されます。これらの発信先または着信元は [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

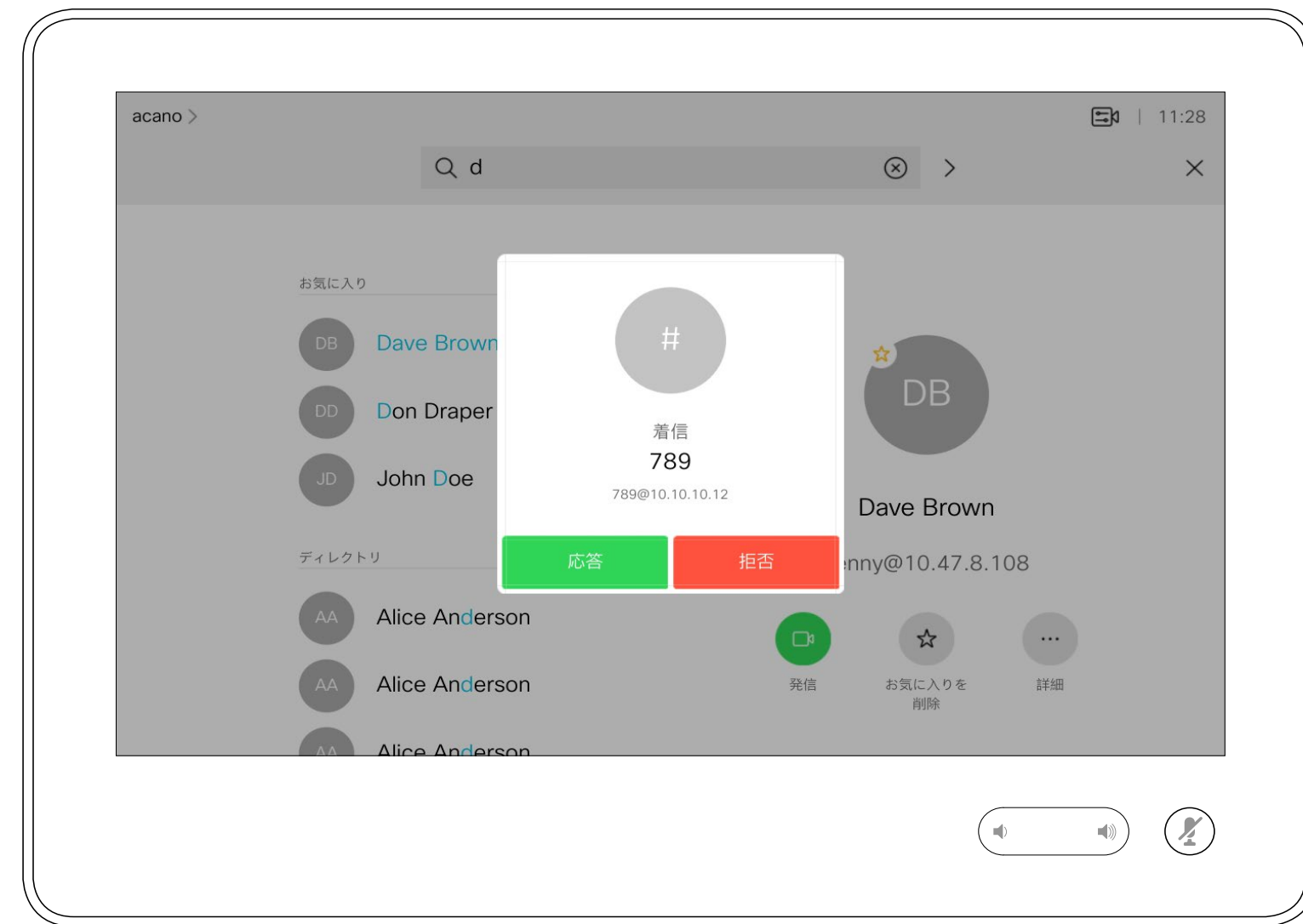
通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[トーン信号 (Touch Tones)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

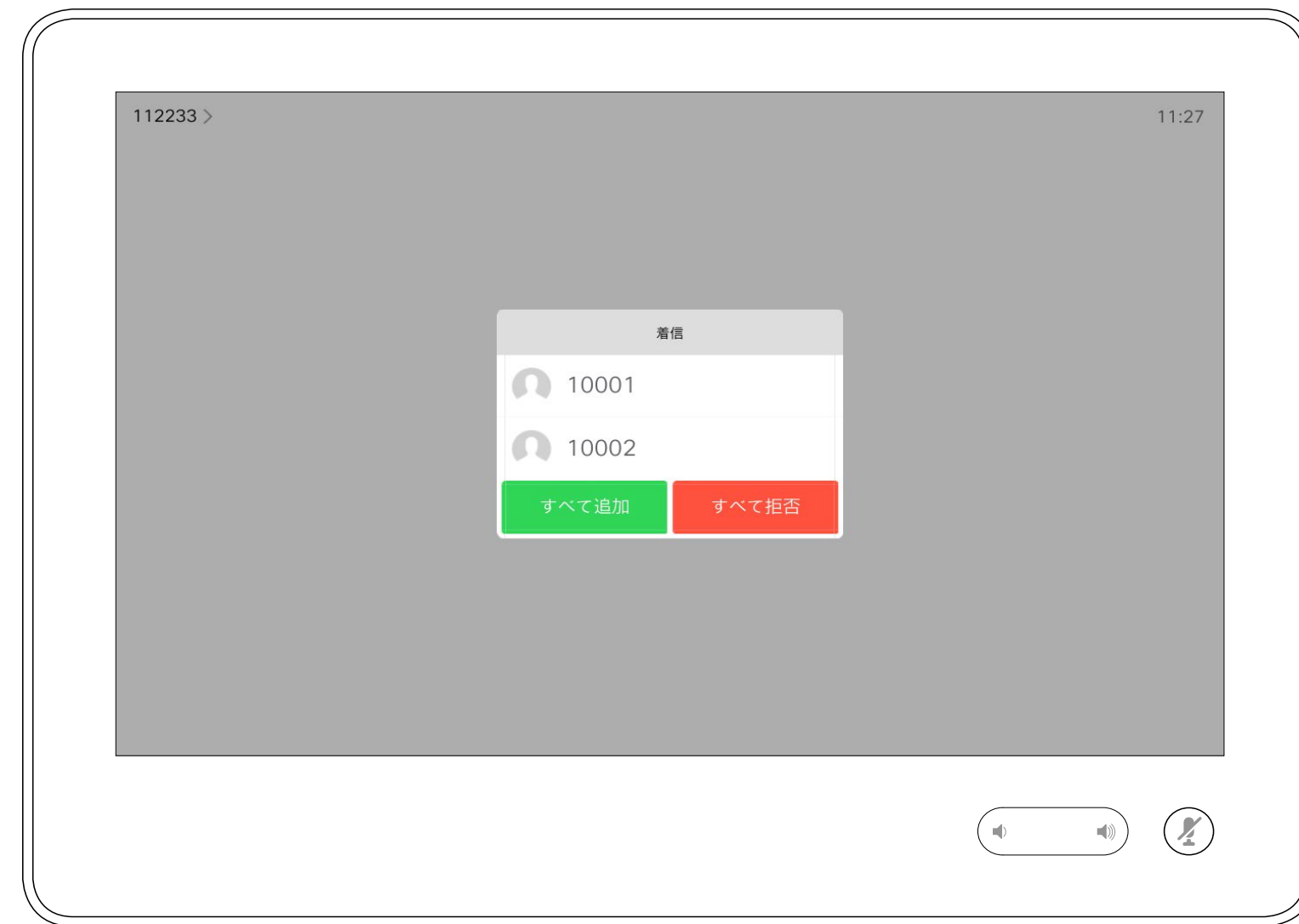
発着信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ電話 受信－非通話時

着信があった場合



着信コールは応答または拒否できます。



複数の着信コールを受信できるシステムでは、すべて追加またはすべて拒否できます。

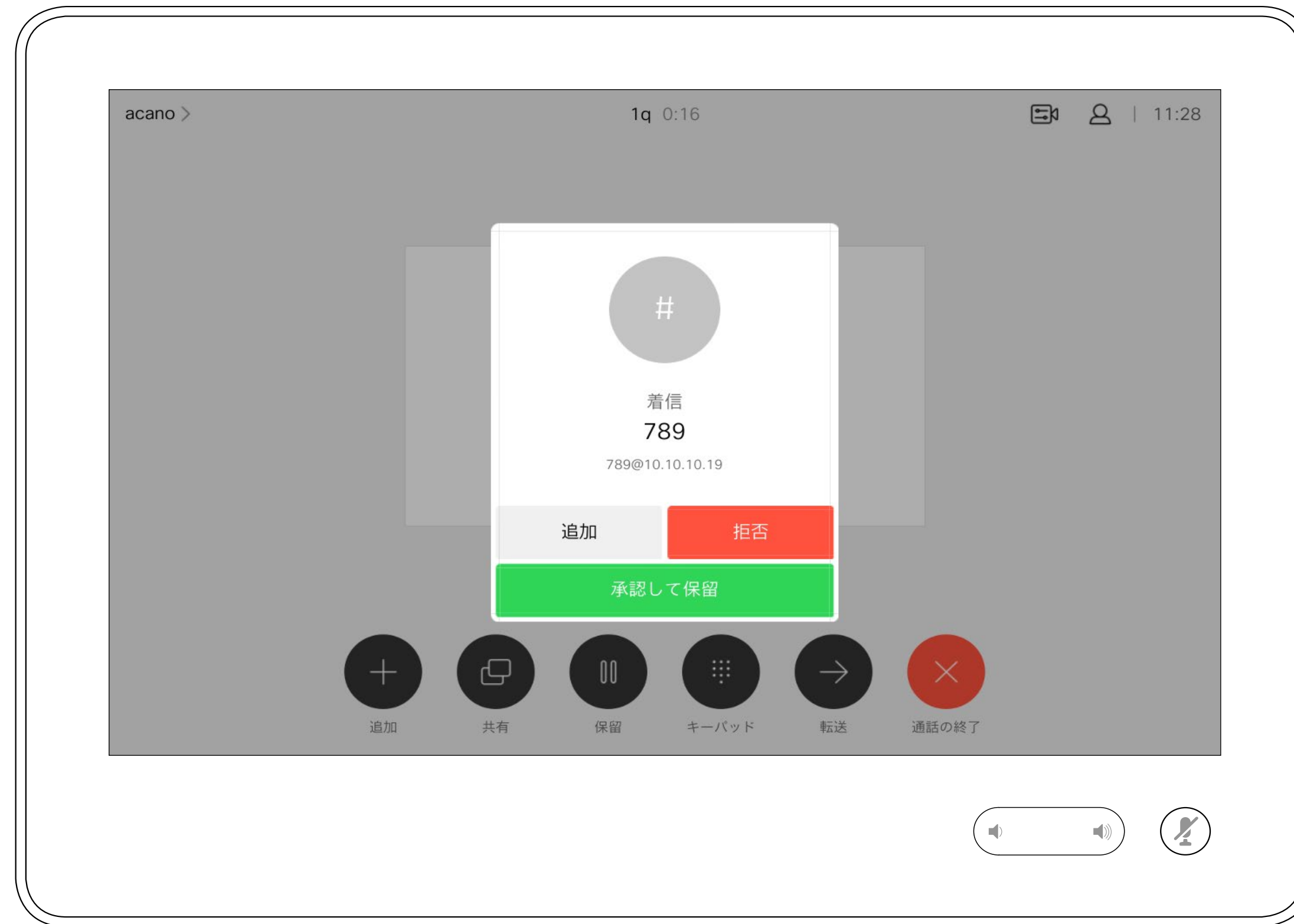
- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信コールを受信できます。必要に応じてビデオ サポート チームに問い合わせてください。

ビデオ電話

通話中に別の通話に応答する

着信があった場合

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



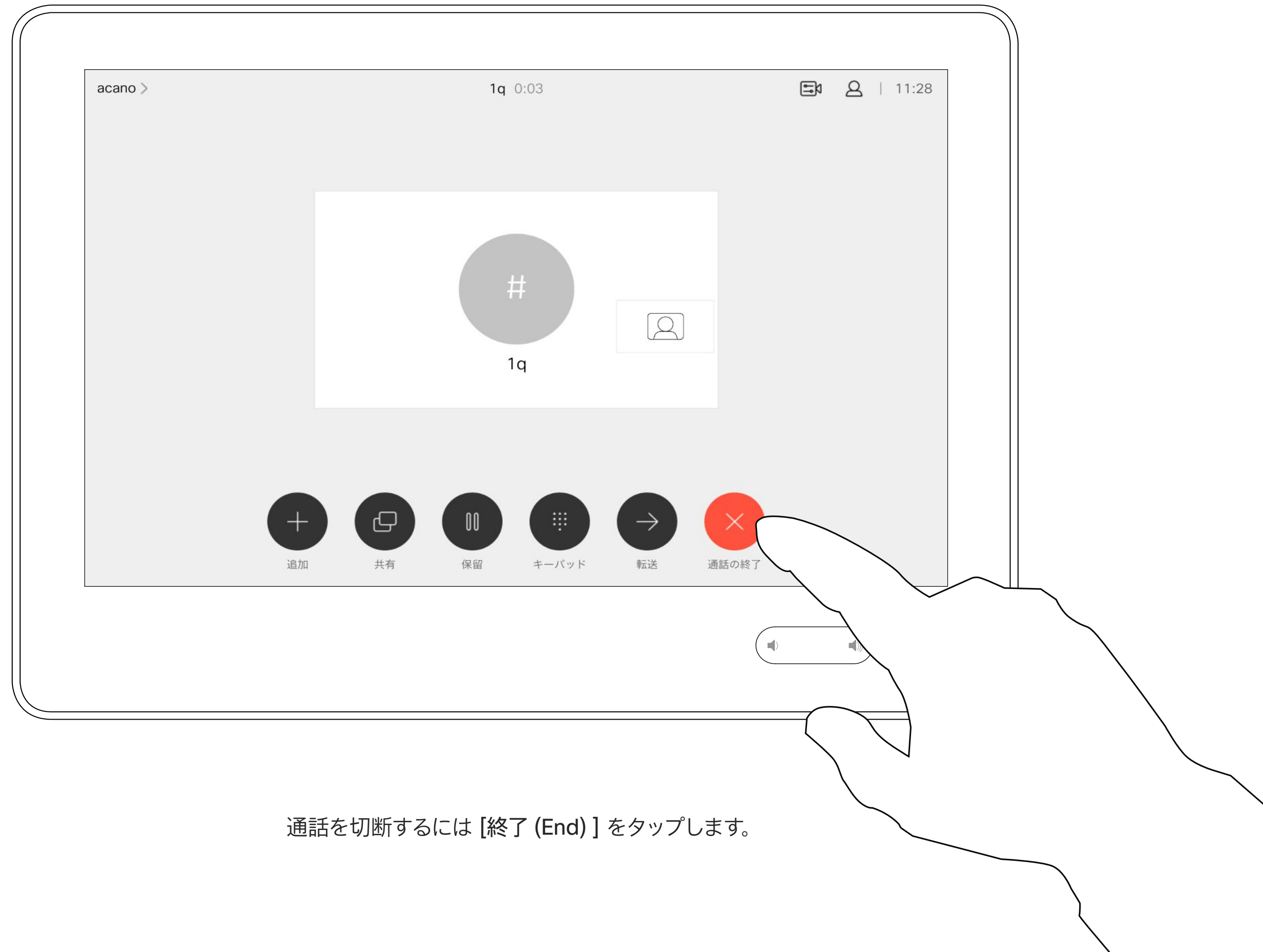
ビデオ電話 通話の切断

切断について

通話中に [終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。2 つの相手のみと通話中の場合、これにより、通話が終了されます。

複数の参加者がいる電話会議では、[終了 (End)] をタップすると、自分が通常の参加者である場合にのみ、自分の参加が終了されます。

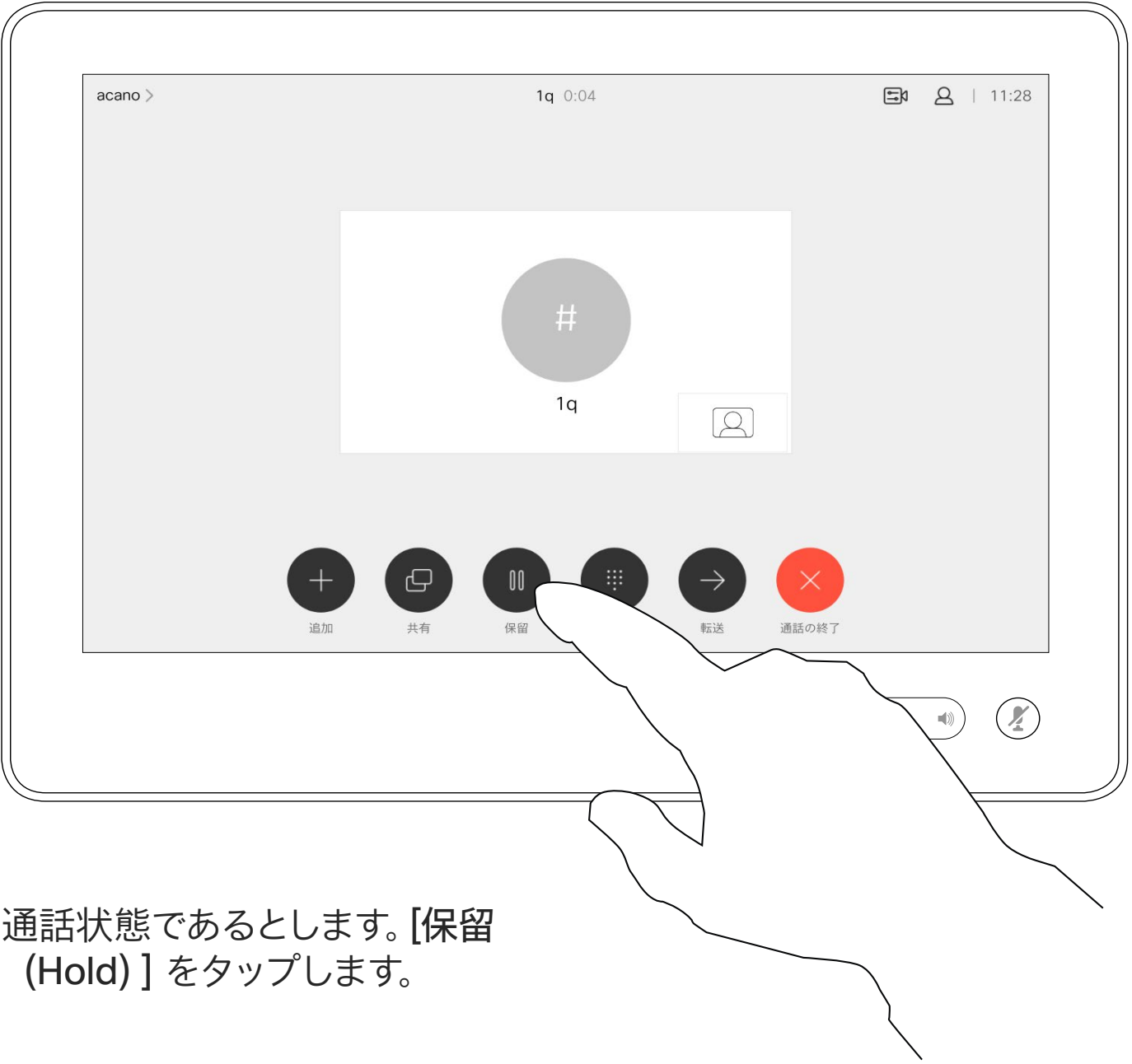
ただし、自分がこの会議のホストである場合、[終了 (End)] をタップすると、会議の種類によっては、会議全体が終了することがあります。



通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について

1



通話状態であるとして、[保留 (Hold)] をタップします。

2



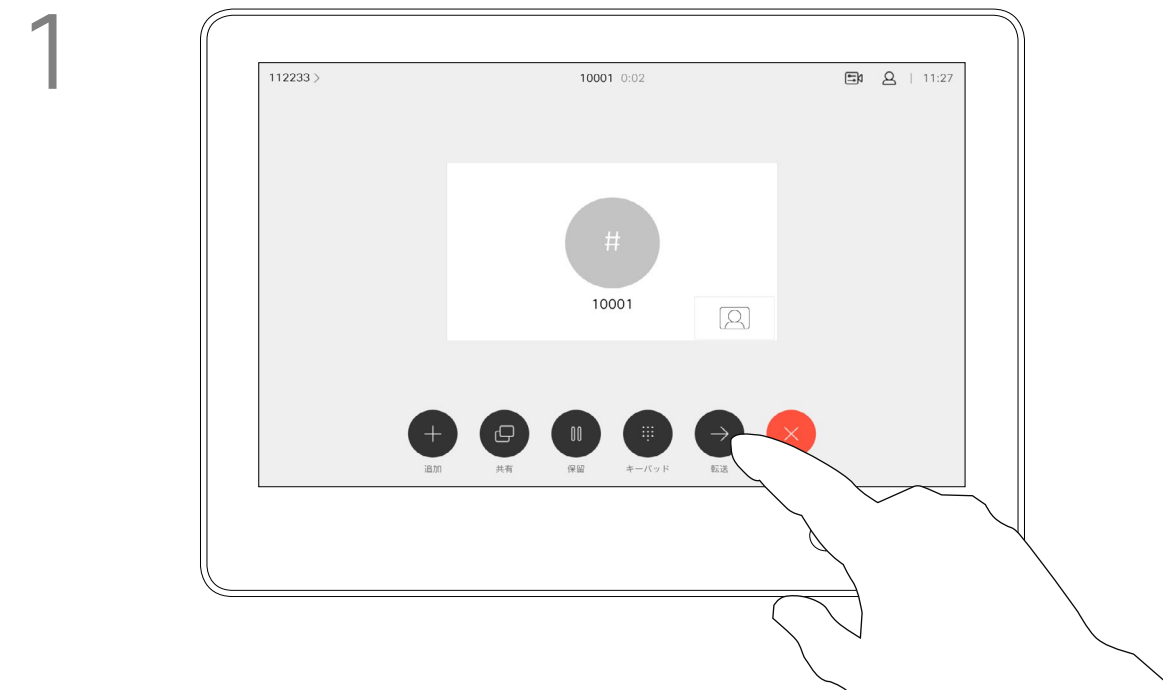
[再開 (Resume)] をタップして、通話状態にあった相手に戻ります (元の操作に戻ります)。

通常、相手を保留にする操作は、誰かを他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止を含むミュートの代わりとしても使用できます。

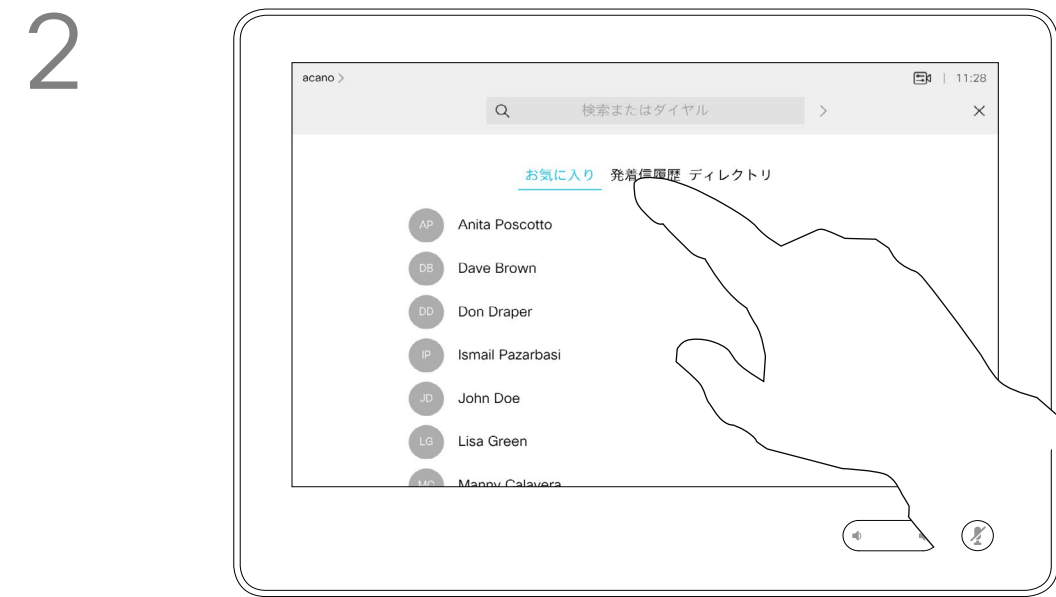
ビデオ電話 対応中の通話の転送

転送について

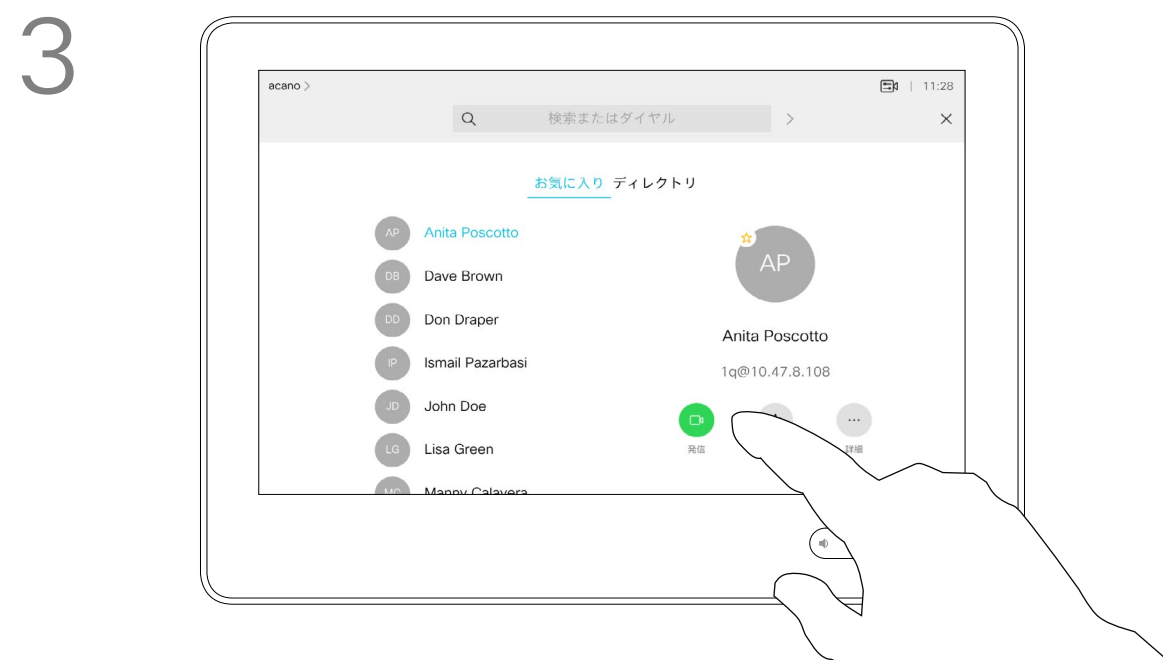
対応中の通話を別の人に転送することができます。転送する場合には必ず打診します。つまり、転送する前に転送先の人と話すことができます。



【転送 (Transfer)】 ボタンをタップします。現在の通話が保留になります。



通常の方法で、発信先を探します。



緑色の【発信 (Call)】 ボタンをタップします。転送してよいかどうか確認します。転送先では保留中のままになります。

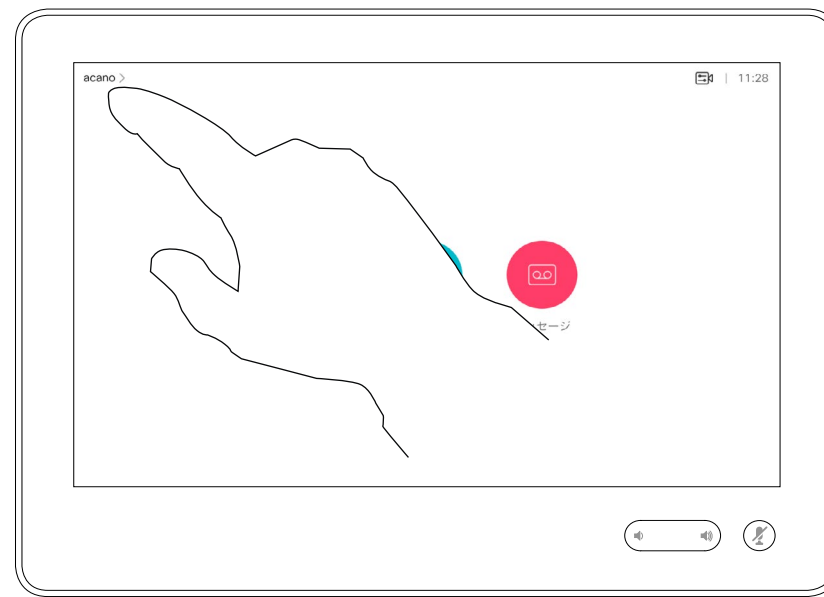


【転送完了 (Complete Transfer)】 をタップします。

ビデオ電話 応答不可をアクティブ化する

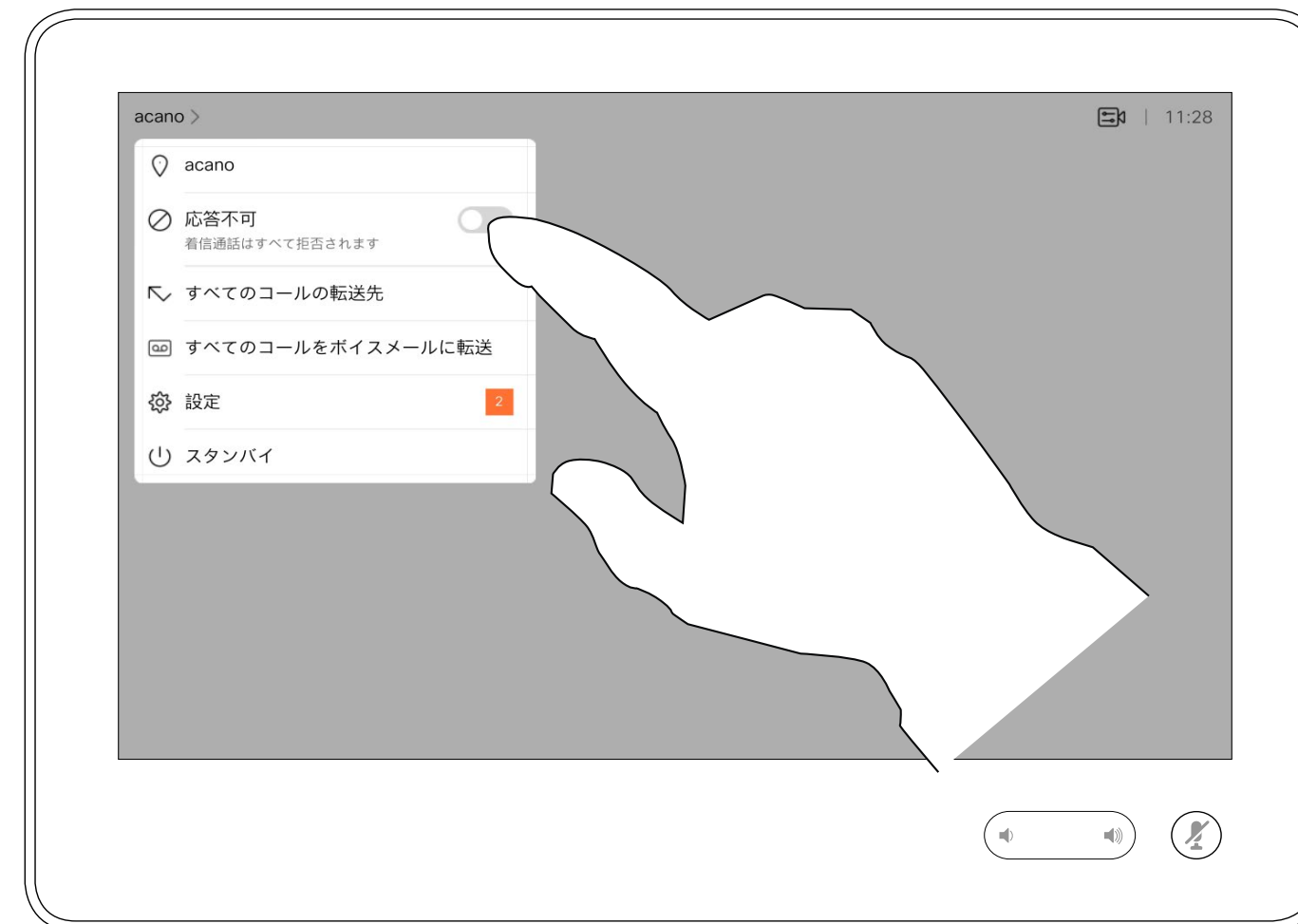
応答不可について

1



図のように、左上をタップします。

2



図のように [応答不可 (Do not disturb)] をタップします。この機能を非アクティブにするには、同じ手順を繰り返します。

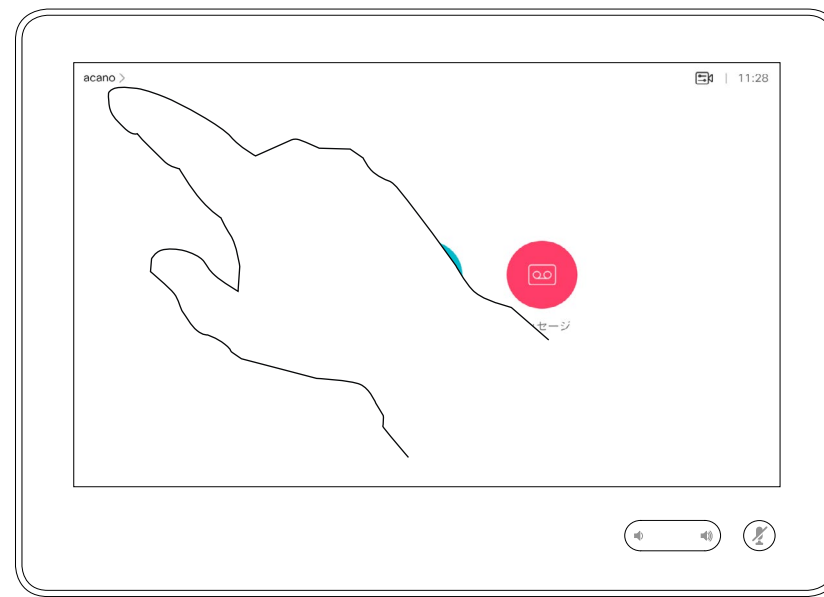
着信に応答しないように、システムを設定することができます。ただし、他者に自由に発信するためにこれを使用することもできます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ電話 すべての通話の自動転送

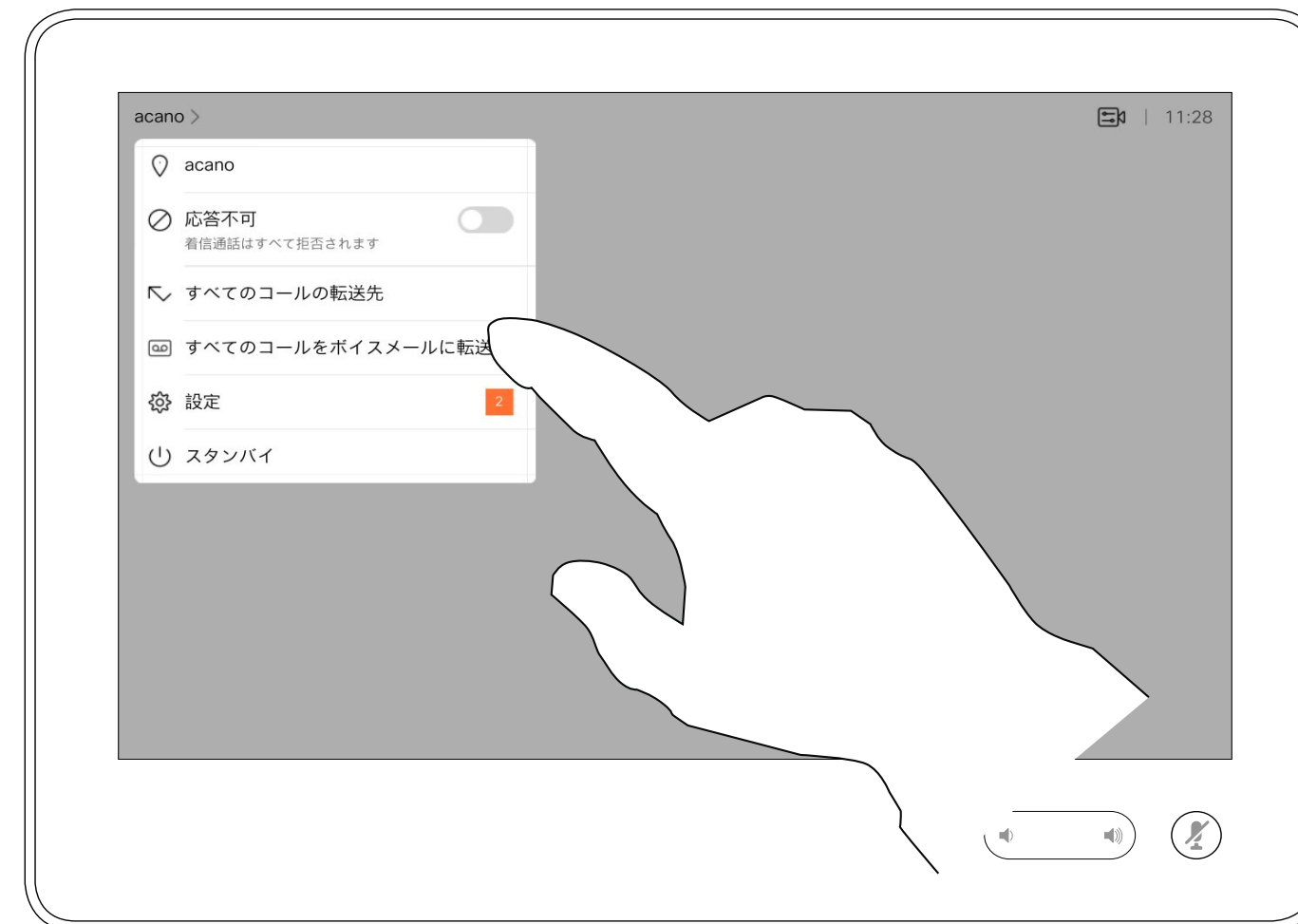
通話の転送について

1



図のように、左上をタップします。

2



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

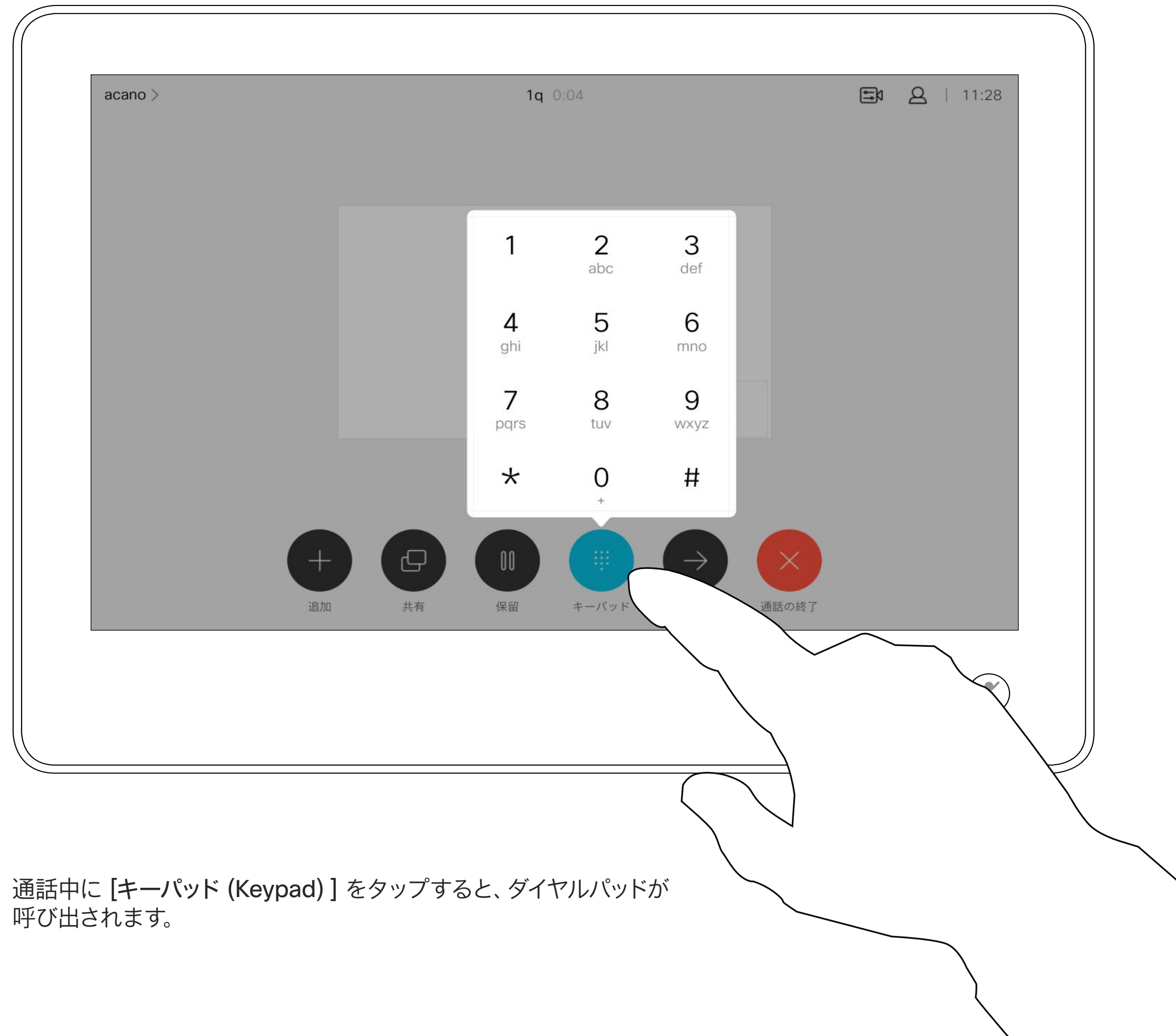
[すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] をタップすると、いつもの [発信 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

通話中にキーパッドを表示する

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線にアクセスできるようにしたり、(暗証番号コードなどで) 何かに入る資格を得たりするために、番号を送信するように要求される場合があります。

これを送信できるようにするには、タッチ スクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。

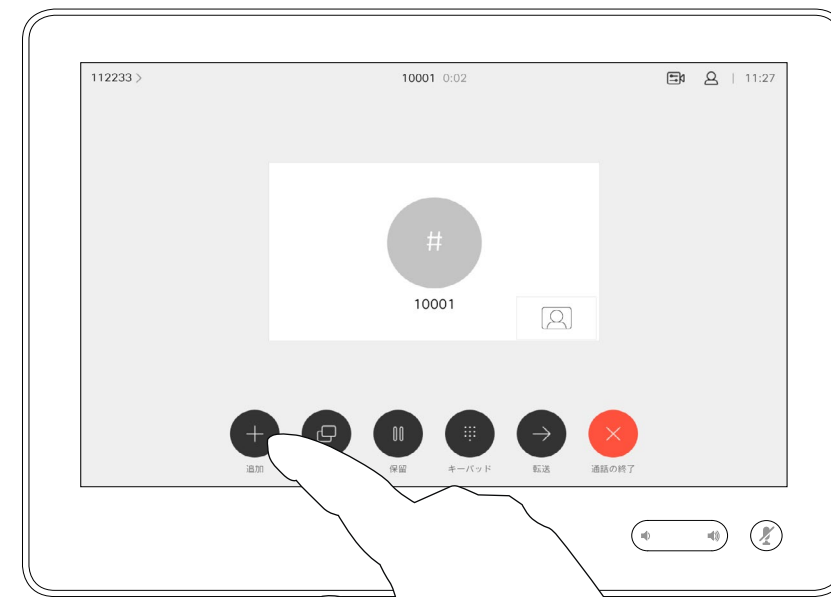


通話中に [キーパッド (Keypad)] をタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

ビデオ電話 既存の通話に参加者をさらに追加する

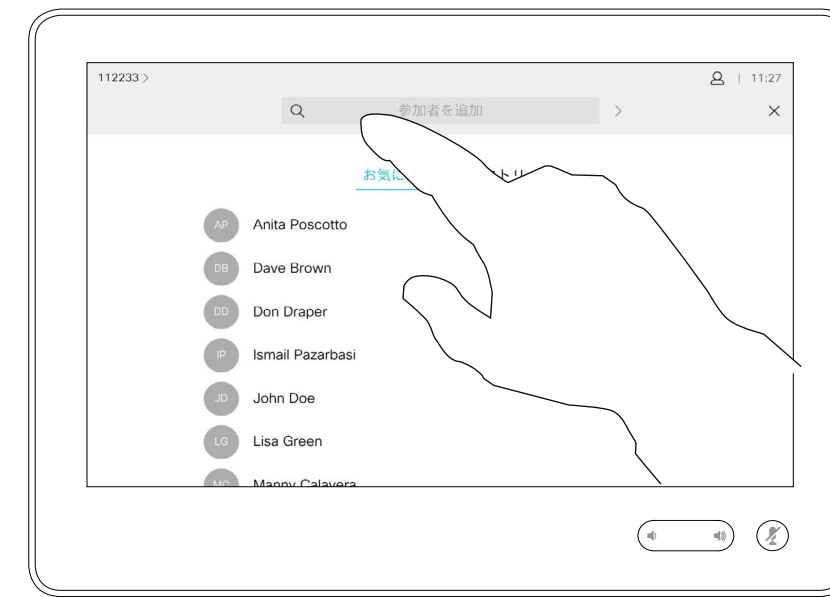
ビデオ会議について

1



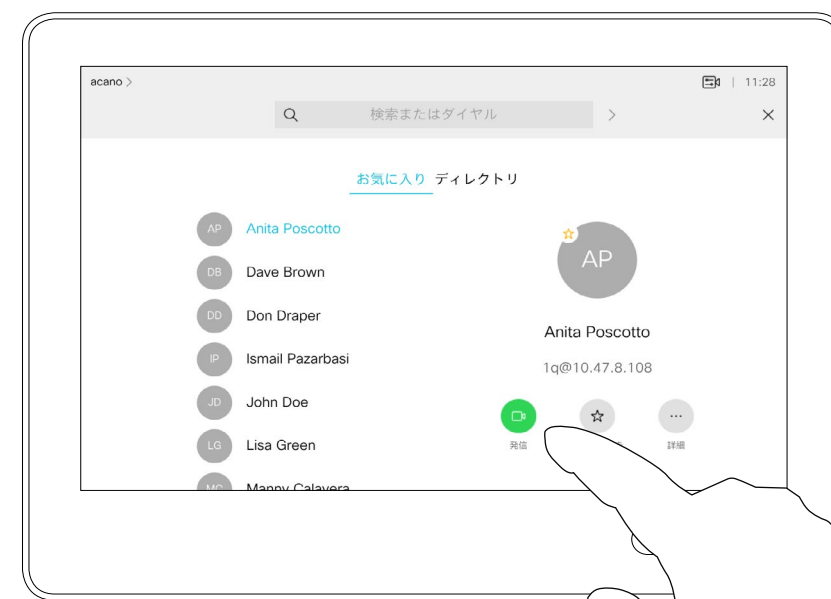
すでに通話中であるとして。この通話は、あなたか別の person (他の person があなたに発信した場合) が開始しました。[追加 (Add)] をタップします。

2



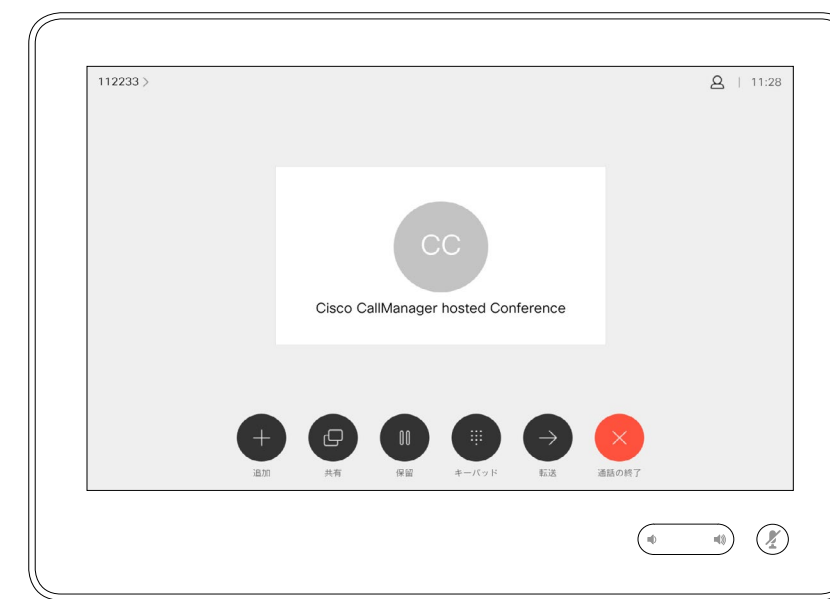
通常の方法で、発信先を探します。

3



通常の方法で発信します。

4



この新しい通話が既存の通話に追加され、会議が確立されます。

この手順を繰り返して、ビデオ インフラストラクチャが許容する範囲まで参加者を追加できます。

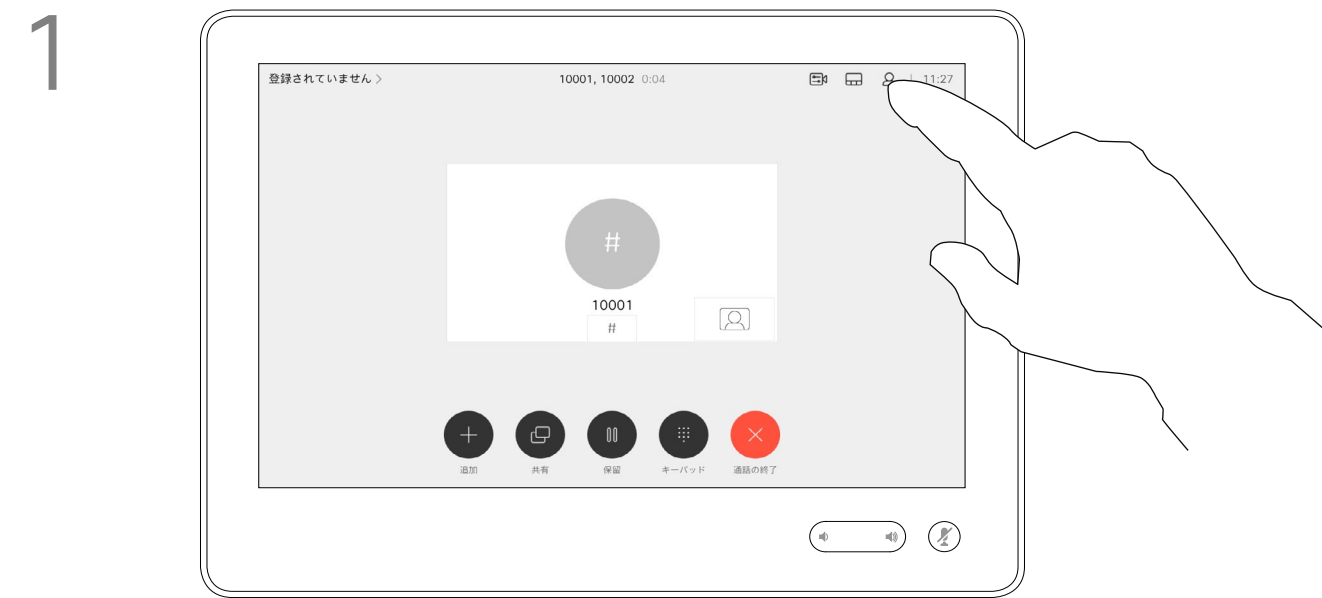
お使いのビデオ システム ネットワークが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

ビデオ システムがサポートしている参加者の最大数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって異なります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームに問い合わせてください。

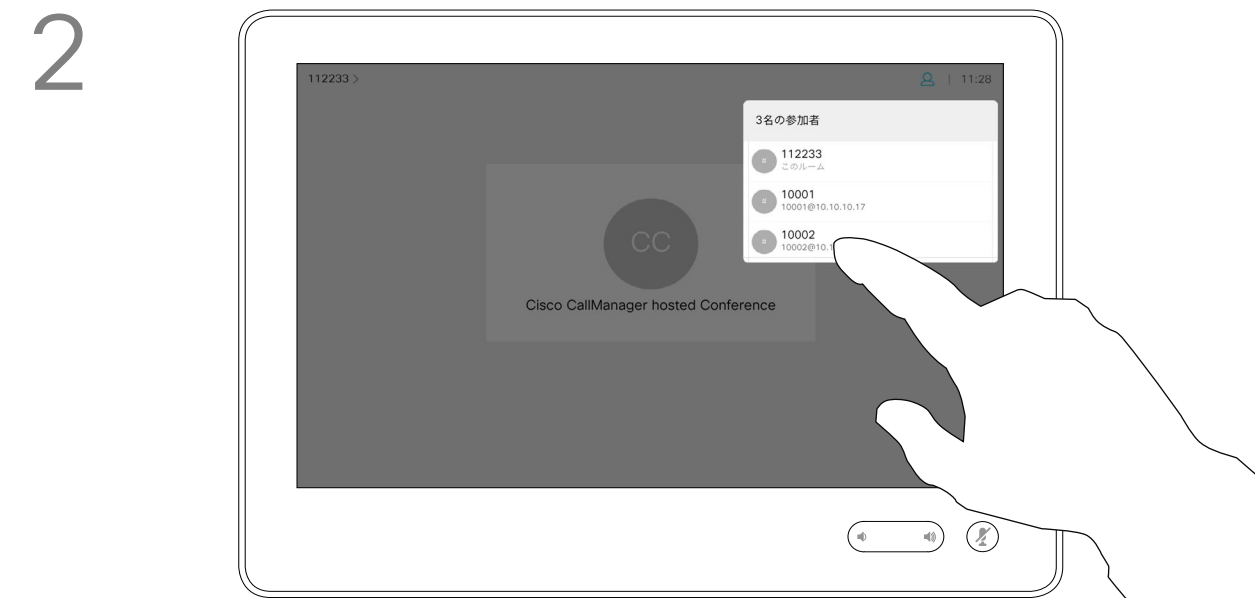
ビデオ会議を開始する場合は、参加者に 1 人ずつ発信する必要があります。

ビデオ電話 電話会議から参加者を切断する

ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



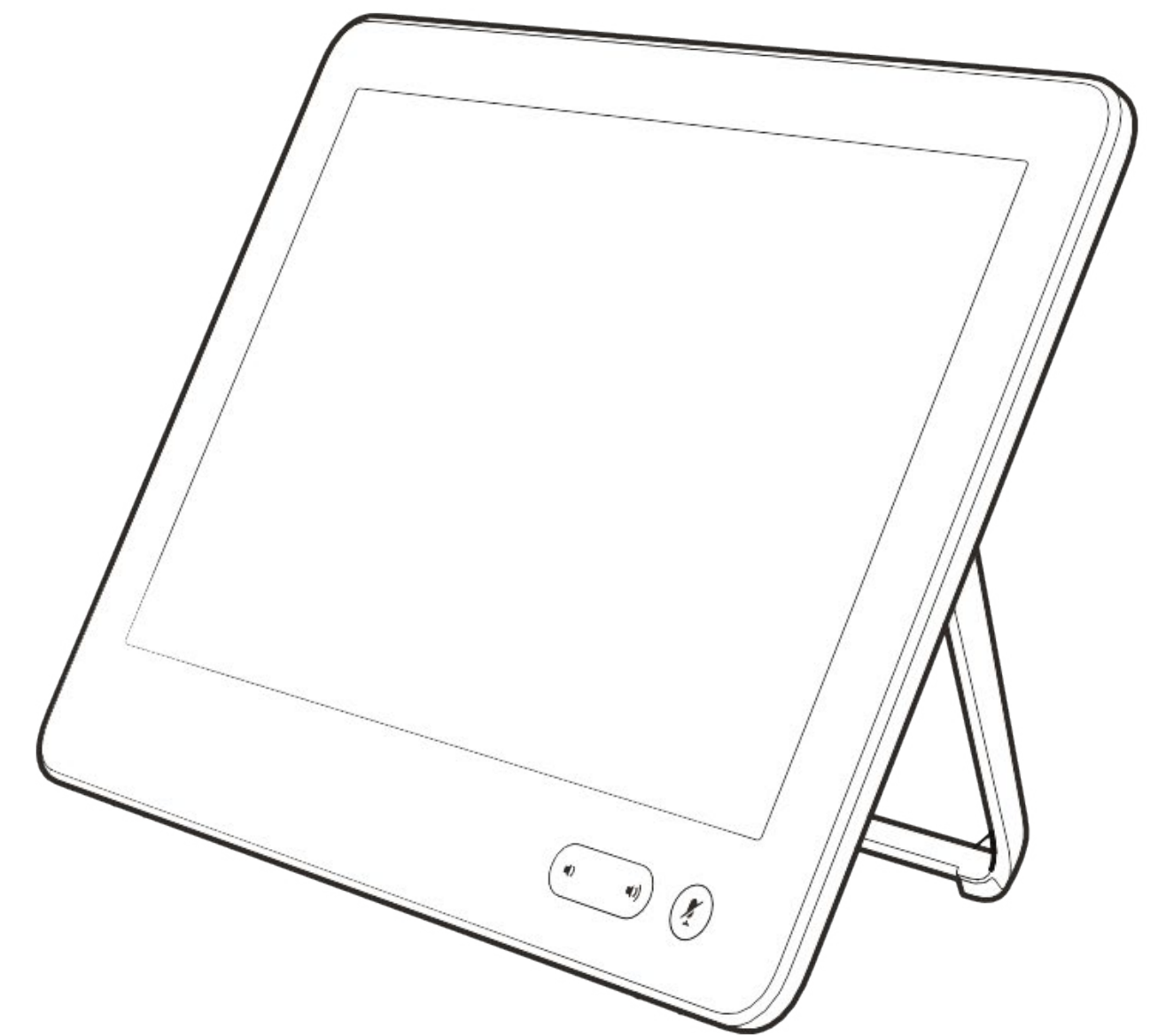
電話会議から切断する参加者をタップします。



[ドロップ (Drop)] をタップします。

ビデオ システムからビデオ会議を行う機能はオプションの機能です。お使いのシステムで使用できる場合と使用できない場合があります。

会議から参加者を切断できるのは会議のホストのみです。



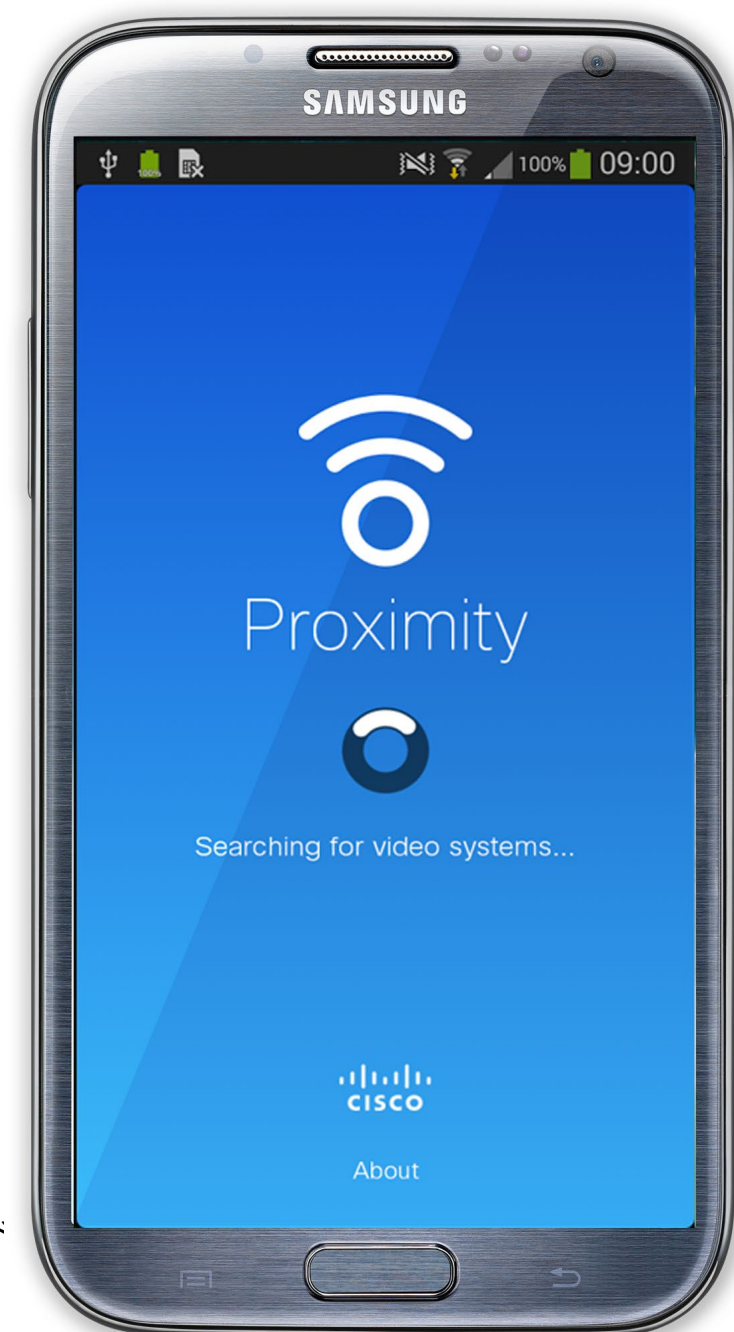
Intelligent Proximity

シスコの Proximity の超音波信号

シスコのビデオ システムは、Proximity 機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波にさらされる量の制限値のガイドラインは国によって大きく異なりますが、シスコの Proximity 信号によって発せられている 75 dB は 20 kHz の周波数帯域での現状の最小制限値です。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。



これらのガイドラインには、120 dB 未満の音圧レベルが永続的または一時的な聴力損失を引き起こした例は示されていないと記載されています。

グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco WebEx Boards では、ディスプレイの前方 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音について会議スペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が Proximity の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いため、Proximity の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンド ノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたという報告はありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオ コーデックをサードパーティ製のスピーカー システムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。ただし、過剰な外付けアンプを接続したり、スピーカー システムで高周波数の応答を強化したりすると、制限レベルを超える可能性があります。

Proximity について

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元の端末（スマートフォン、iPad、Android タブレット、PC または Mac）でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有できます。

また、自分の端末（スマートフォンとタブレットのみ）を使用してビデオ システムの通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション（無料）をダウンロードする必要があります。

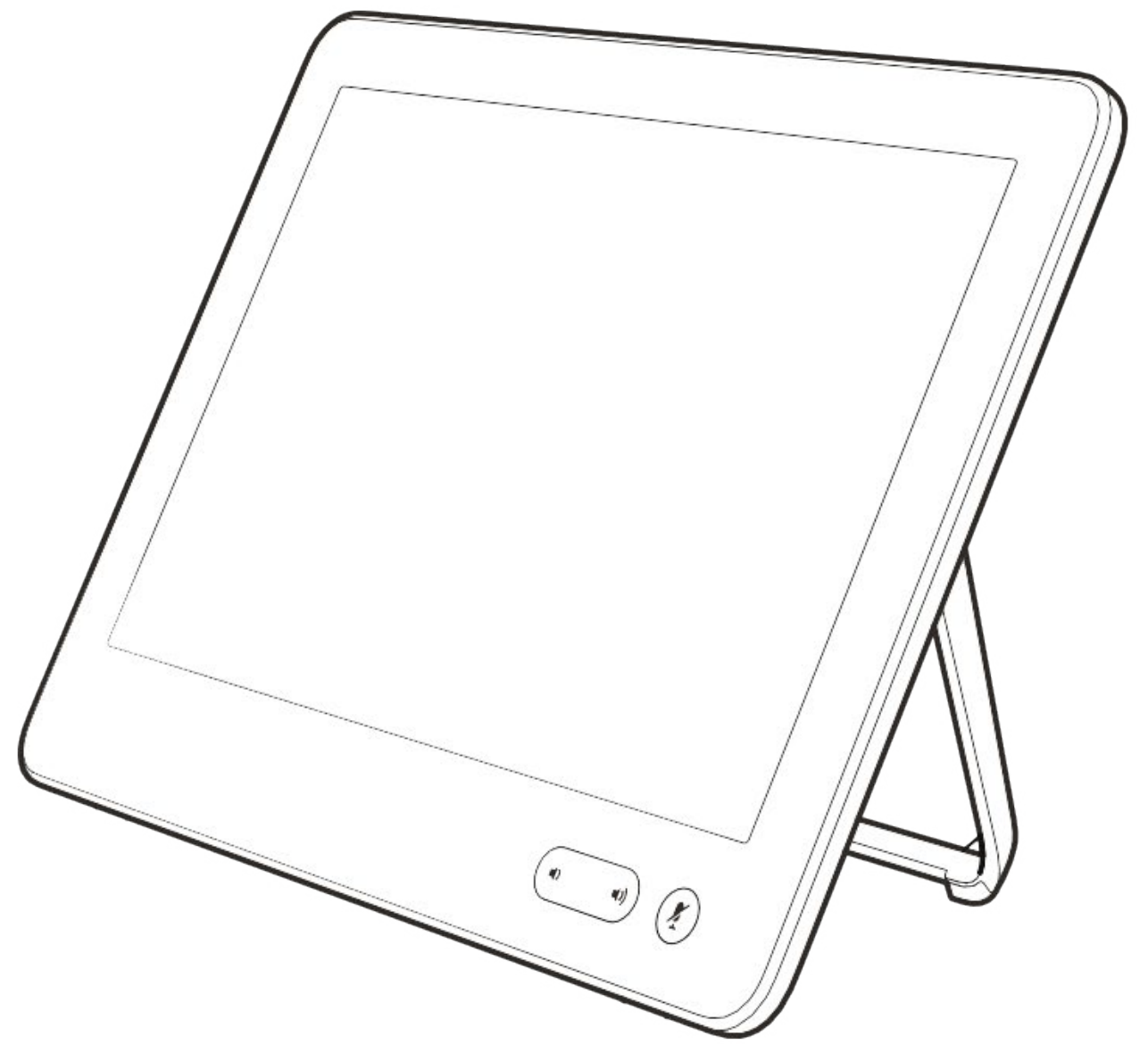
Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオ サポート チームは、すべての機能を無効にしている場合、すべての機能を有効にしている場合、または一部の機能だけを有効にしている場合があります。

Intelligent Proximity は、ユーザの接続時に超音波を利用します（詳細は左記参照）。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室のドアが閉じられた状態では、会議室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

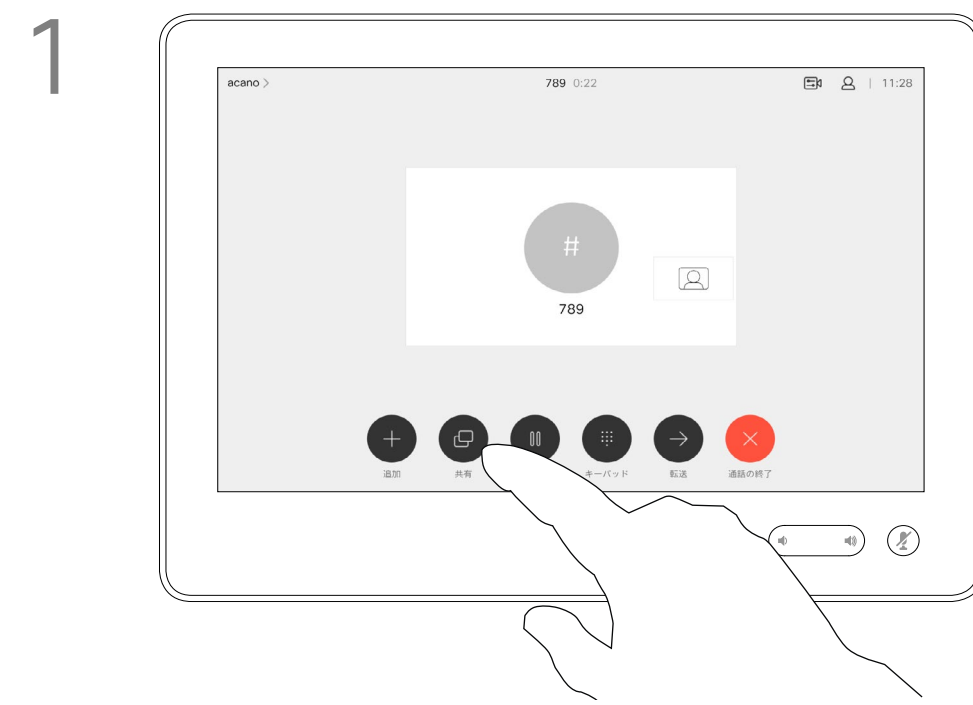
プライバシー上の必要がある場合は、会議室の入口を閉めて、隣室に音が漏れないようにします。



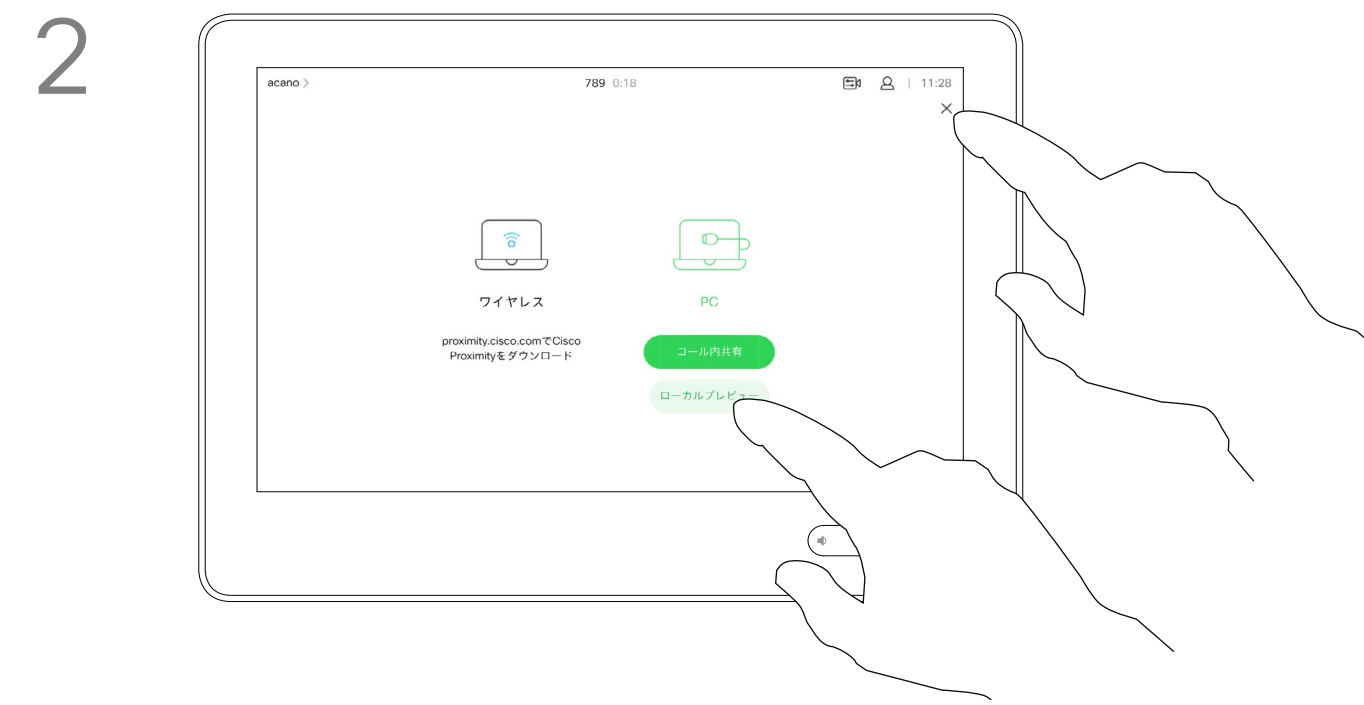
コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話中にコンテンツを共有する

コンテンツの共有について

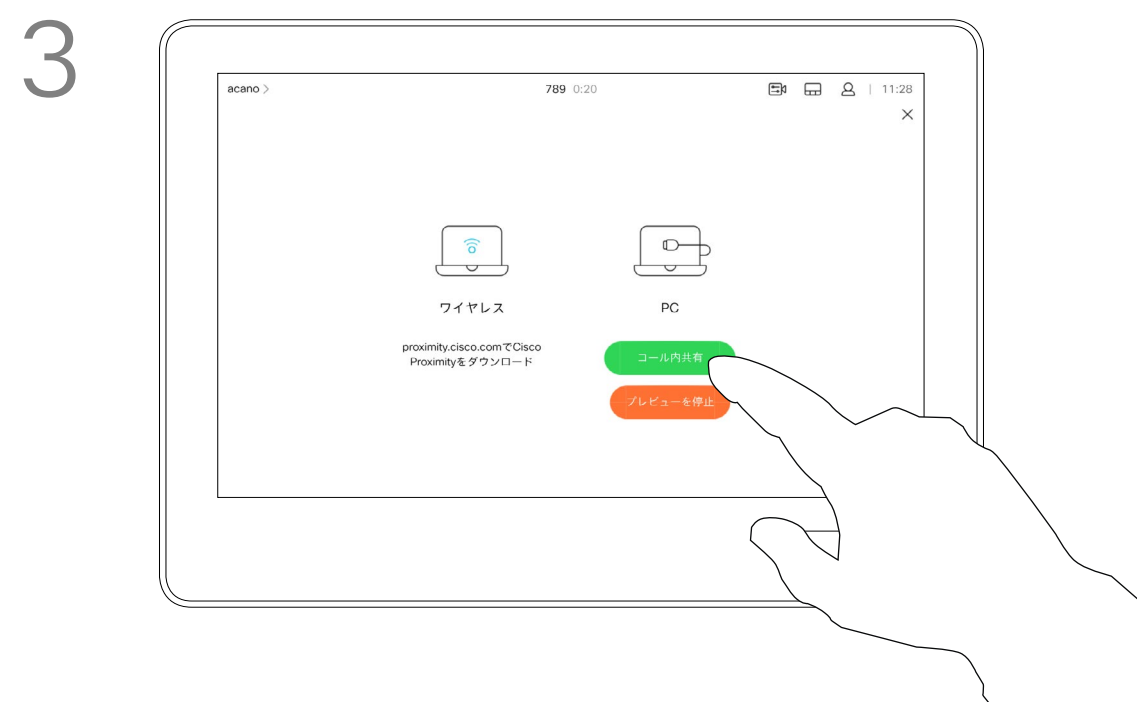


送信元とビデオ システムを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認してから **[共有 (Share)]** をタップします。



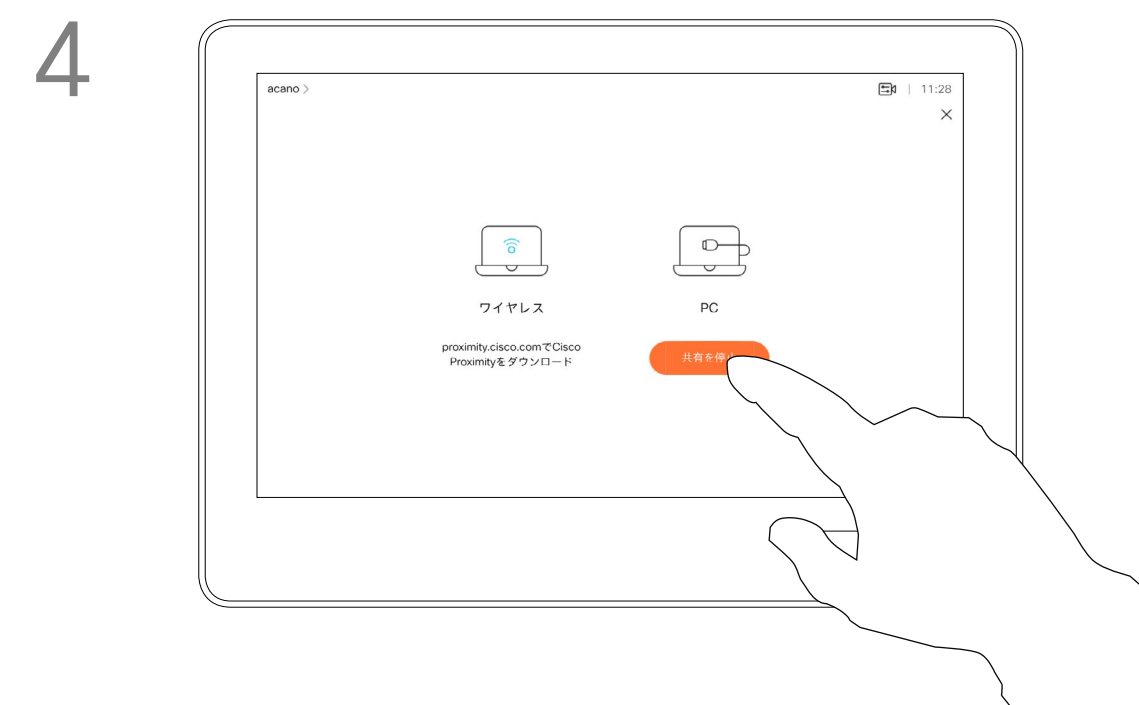
共有するコンテンツを自分のビデオ システムだけで表示するには、**[ローカル プレビュー (Local preview)]** をタップします。これはリモート参加者とは共有されません。

前の表示に戻るには、図のように右上隅の **[X]** をタップします。



プレビューを中止するには、**[プレビューを中止 (Stop preview)]** をタップします。

リモート参加者とコンテンツを共有するには、**[通話中に共有 (Share in call)]** をタップします。



リモート参加者とのコンテンツ共有を中止するには、**[共有を停止 (Stop Sharing)]** をタップします。

ビデオ システムは、ビデオ通話でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

ソース デバイスが Intelligent Proximity に対応している場合、デバイスの Proximity をオンにし、デバイスをビデオ システムとペアリングするだけでコンテンツをワイヤレスで共有できます。

プレゼンテーション中にレイアウトを変更できます。これについては、次のページを参照してください。

注:ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP 保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダなどからビデオを視聴できるようにシステムが構成されている場合があります。

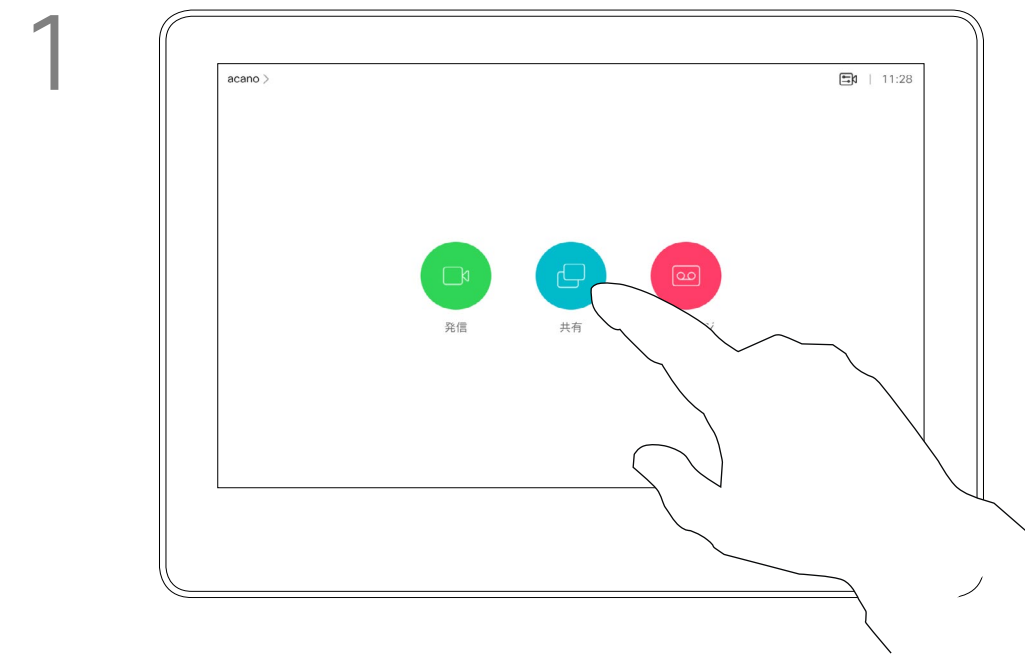
この機能を使用できるのは非通話時のみです。

通話中にこの特定のビデオ コネクタからコンテンツを共有しようとしても、コンテンツの共有は行われません。代わりに、HDCP を維持するために、通常、コンテンツ共有に割り当てられた画面の一部が黒表示になります。

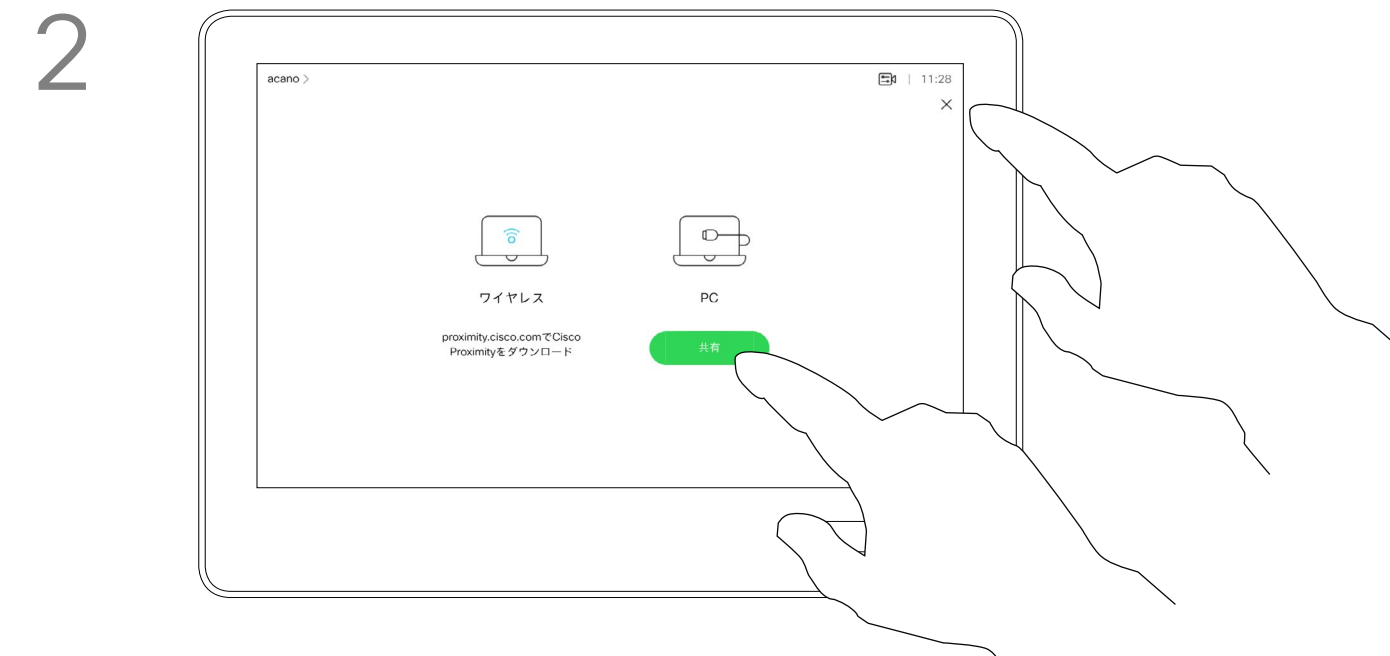
この入力コネクタを使用して通話中にコンテンツを共有しようとすると同じ動作になります。HDCP 保護されていても、されていなくても同じです。

コンテンツ共有 非通話時にコンテンツを共有する

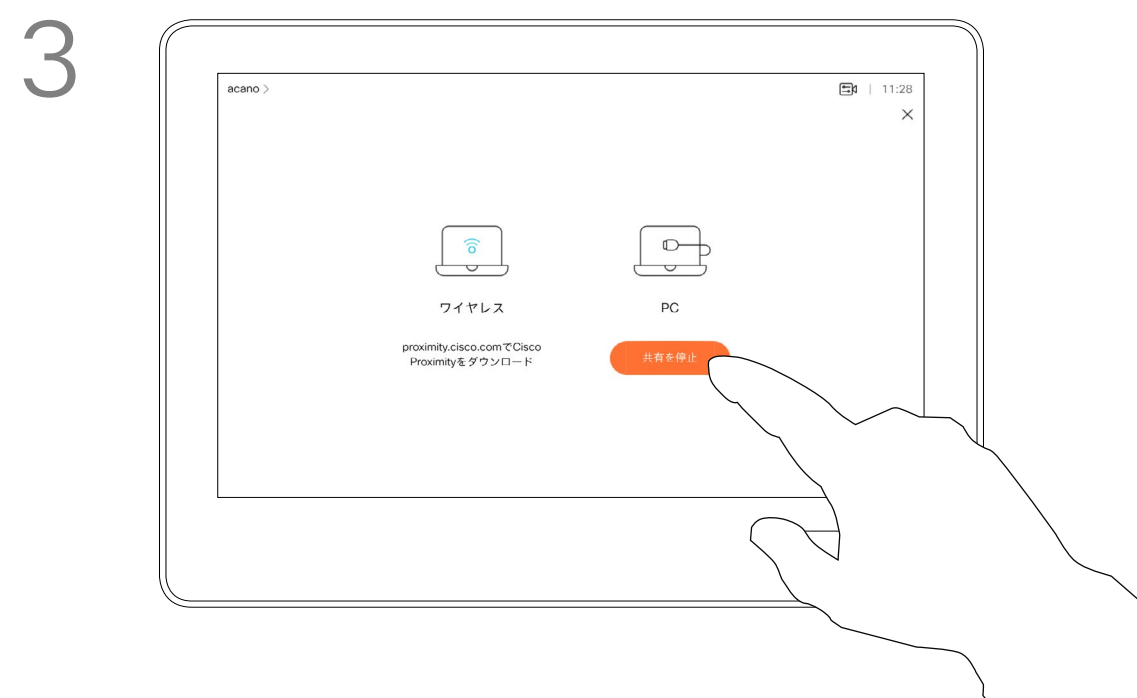
ローカル コンテンツの共有



送信元端末とビデオ システムを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認してから [共有 (Share)] をタップします。



ビデオ システムの画面内容を表示するには、[共有 (Share)] をタップします。
前の表示に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。



セッションを終了するには、[共有を停止 (Stop Sharing)] をタップします。

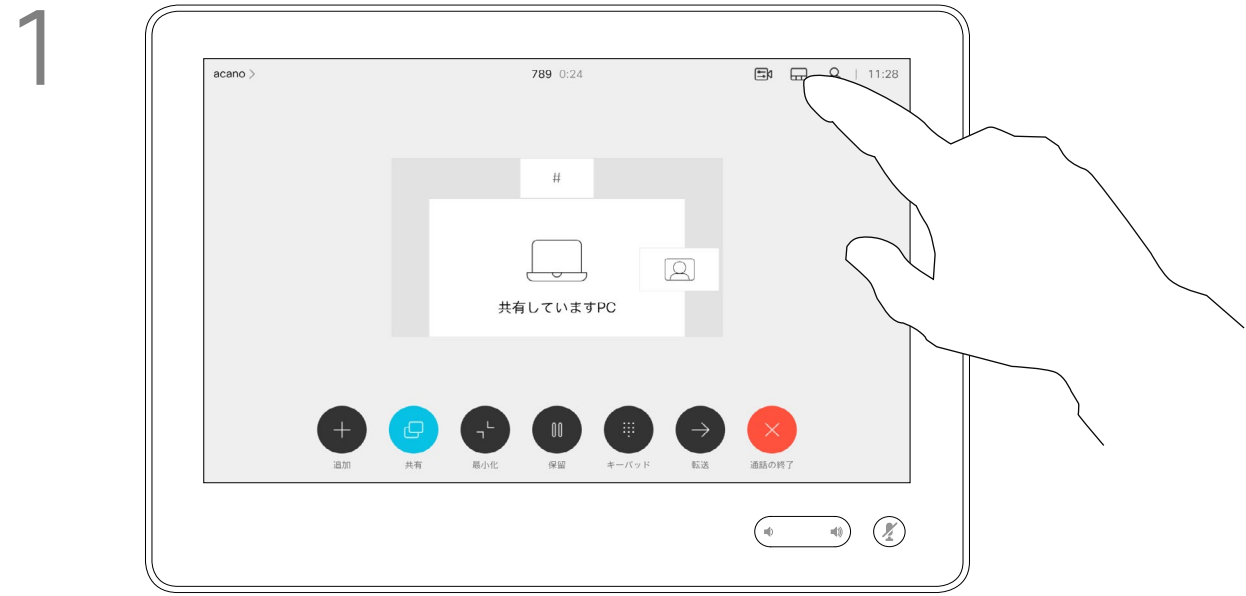
また、ローカルな会議でビデオ システムを使用して、非通話時にコンテンツを表示して共有することもできます。

ソース デバイスが Intelligent Proximity に対応している場合、デバイスの Proximity をオンにし、デバイスをビデオ システムとペアリングするだけでコンテンツをすぐに共有できます。

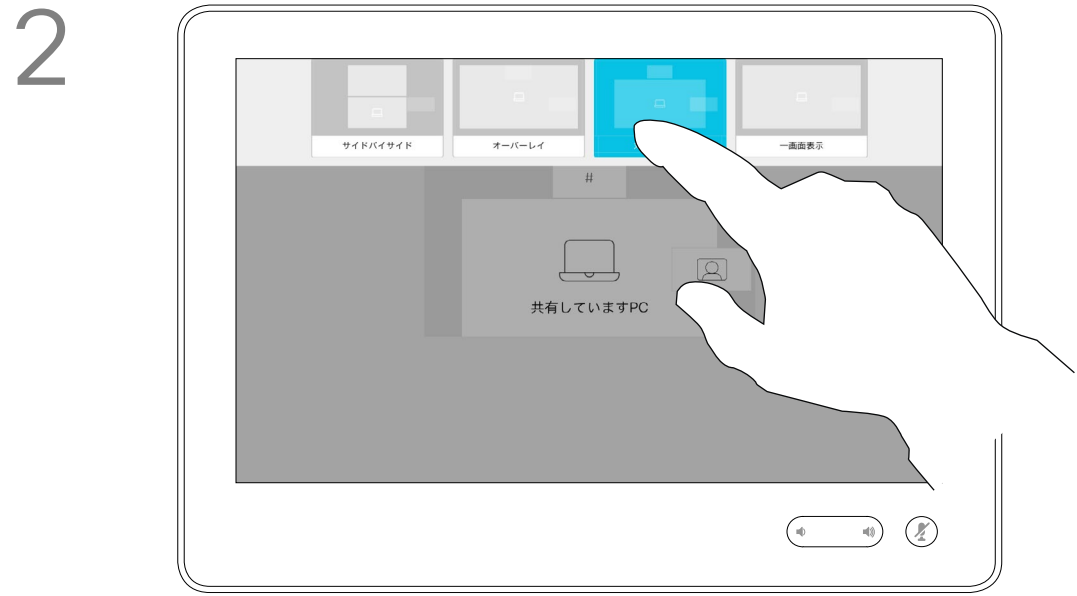
注: ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP 保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダなどからビデオを視聴できるようにシステムが構成されている場合があります。詳細については、前のページも参照してください。

コンテンツ共有
 通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて



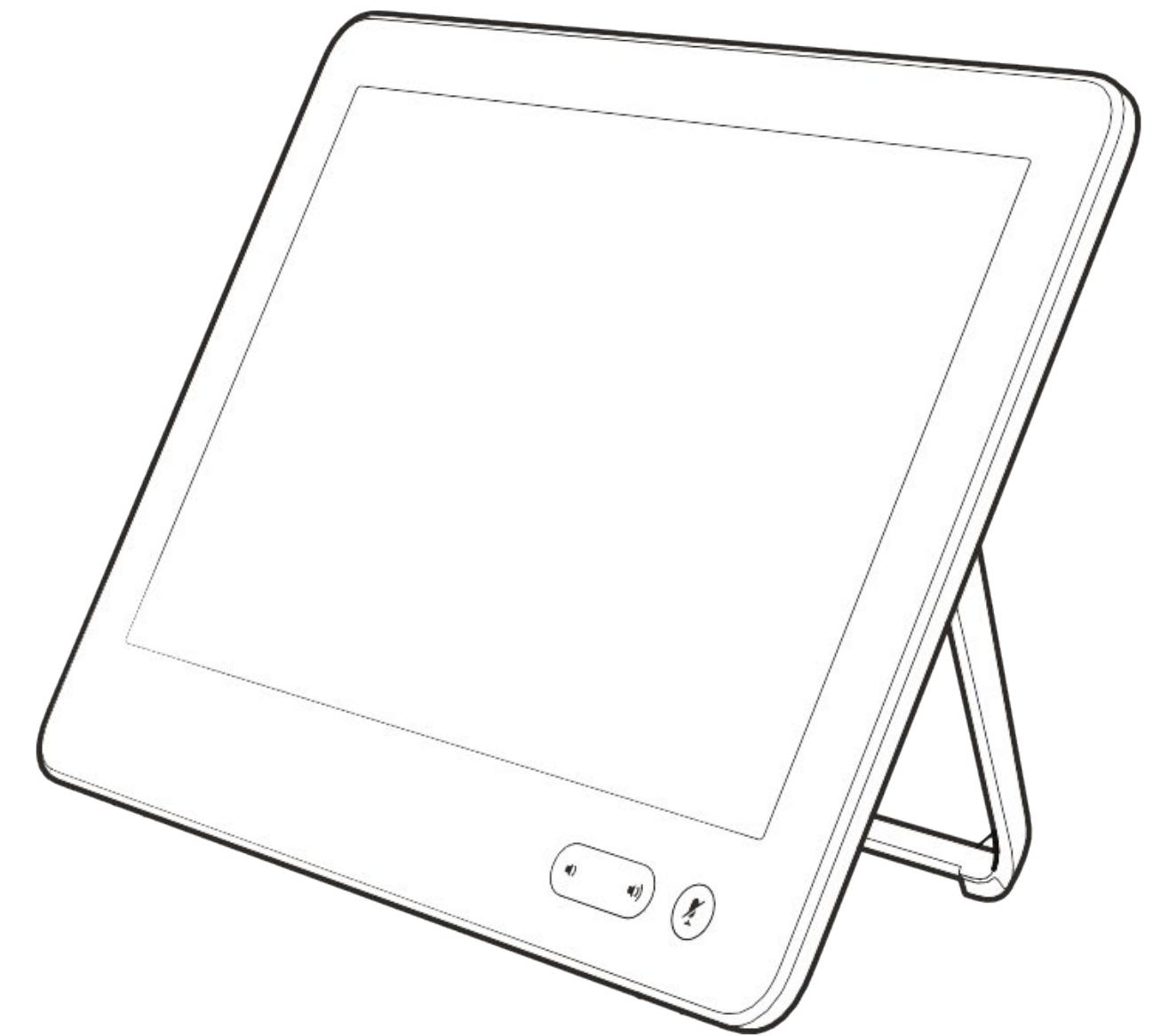
図のようにレイアウトアイコンをタップします。



使用するレイアウトをタップします。完了したらフィルムストリップ以外の場所をタップします。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンターを表示するかどうか、およびプレゼンターを PiP (ピクチャ イン ピクチャ) と PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) のどちらで表示するかを選択できます。

システムで使用可能なレイアウトのオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、常に、選択可能なレイアウトが表示されます。



スケジュールされた会議

スケジュールされた会議

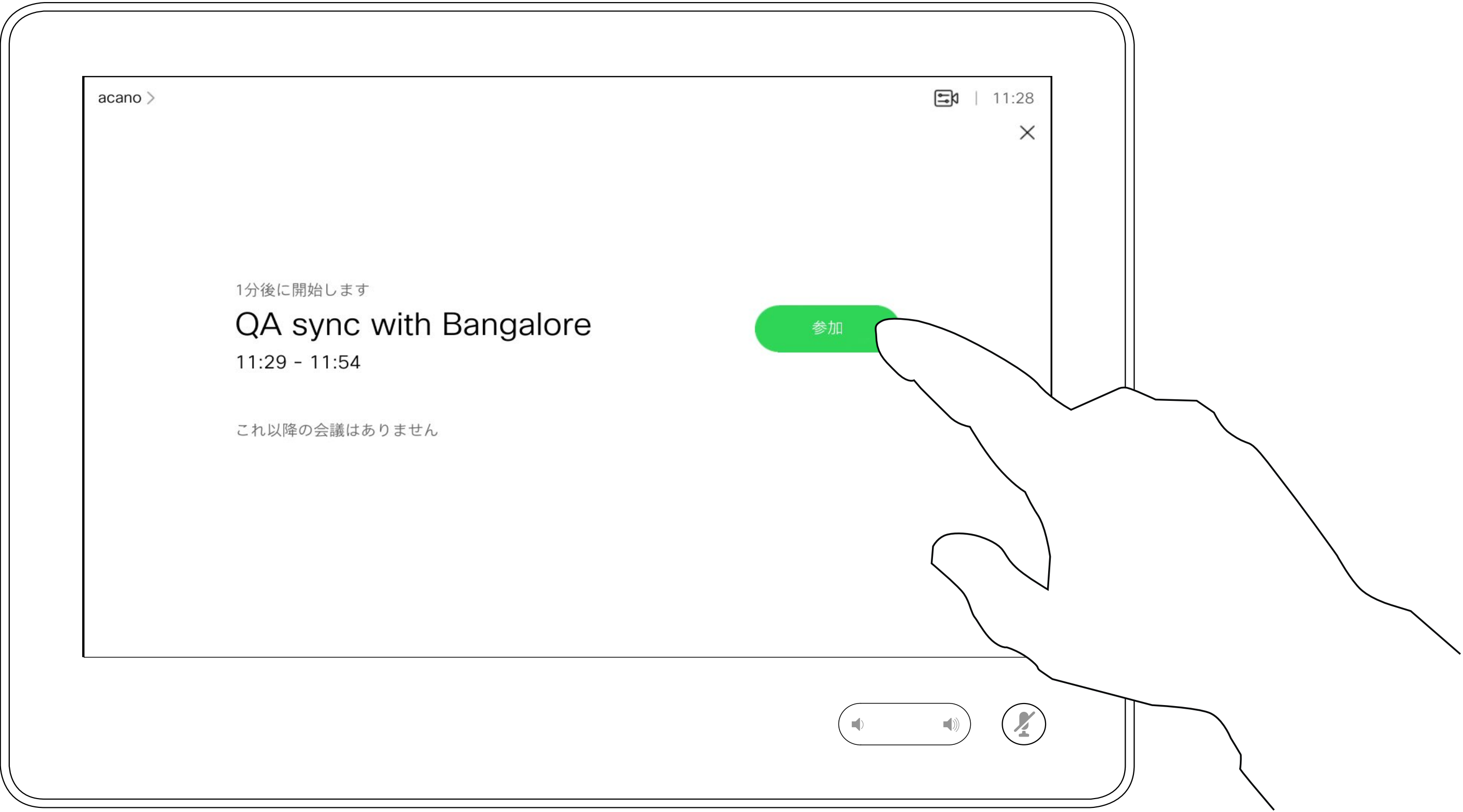
スケジュールされた会議に参加する

会議への入室

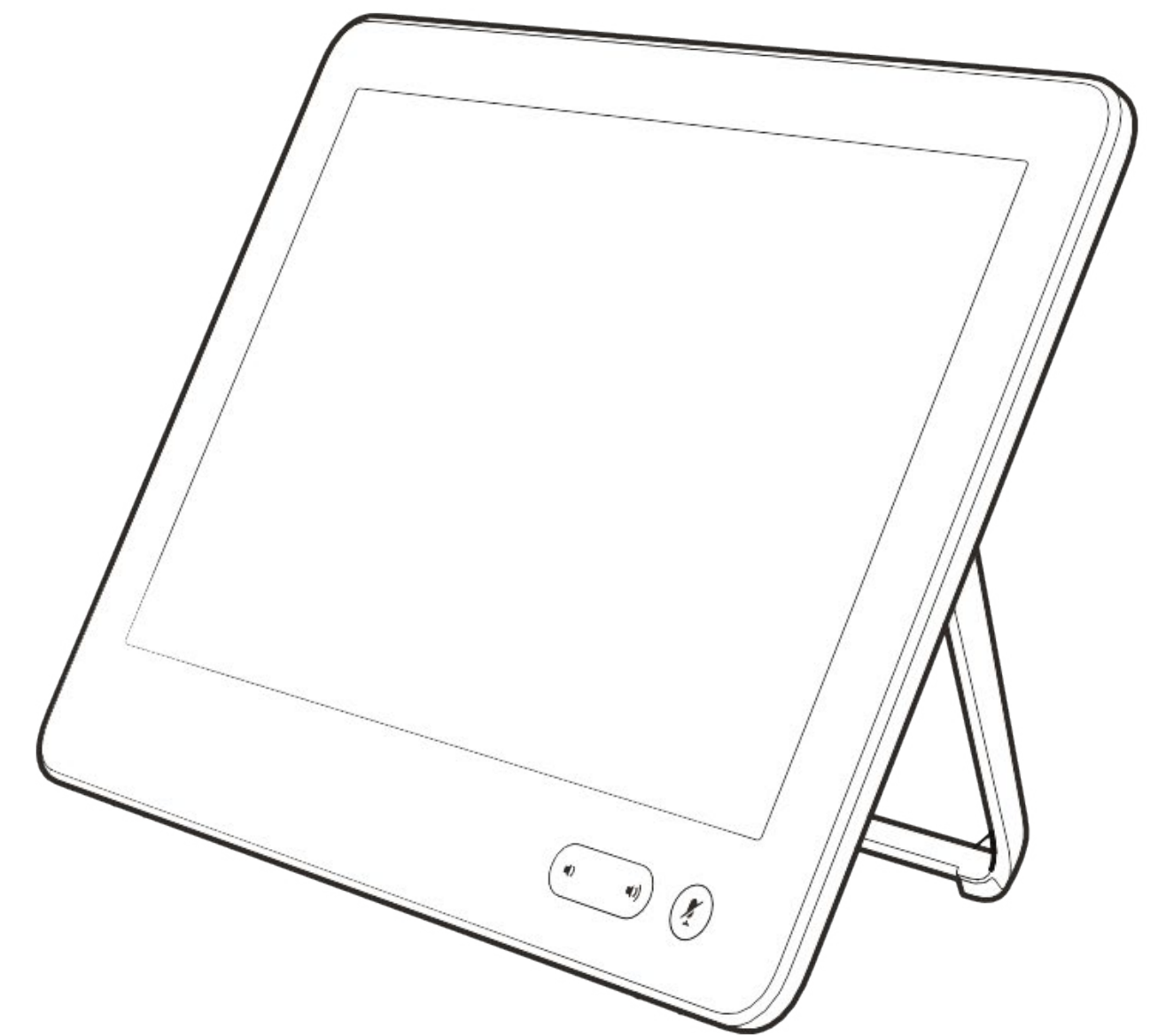
ビデオ会議をスケジュールすることが
できる管理システムに、ビデオ システムを
接続することができます。スケジュールさ
れた会議は左図のように表示されます。

会議に参加するには [参加 (Join)] をタ
ップします。

会議がすでに始まっても参加でき
ます。



時間になると、会議への参加を促すプロンプトが表示されます。[参加 (Join)] をタップします。



コンタクト

コンタクト

お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ

連絡先リストについて

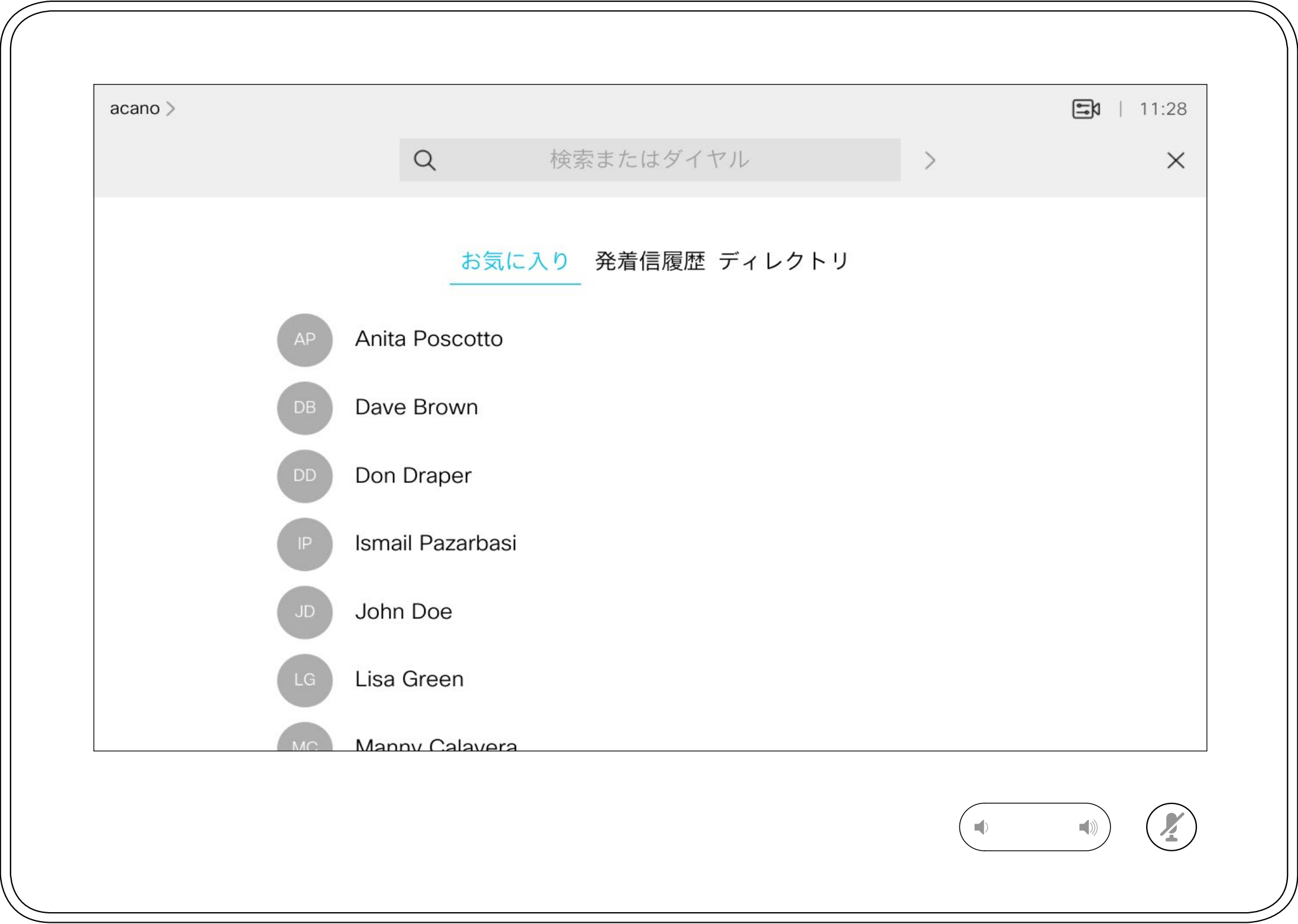
連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] 自分で [お気に入り] に追加した連絡先です。通常、これらのエントリは頻繁に通話する相手か、便利な方法で迅速にアクセスする必要がある人です。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

[発着信履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

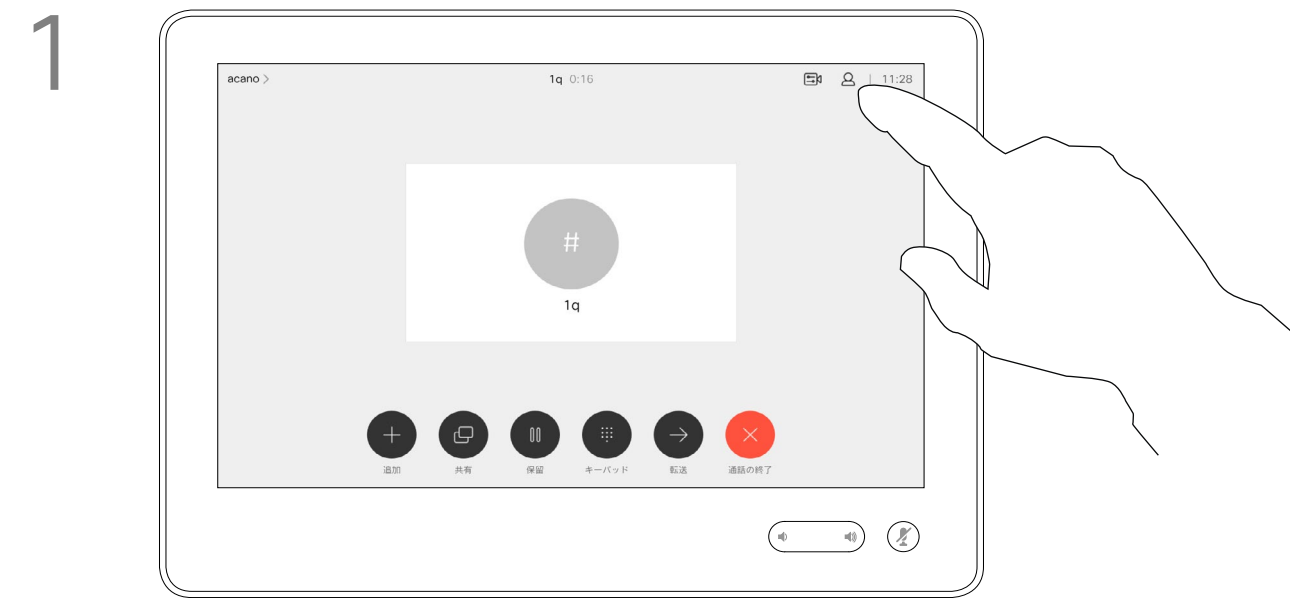


コンタクト 通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する

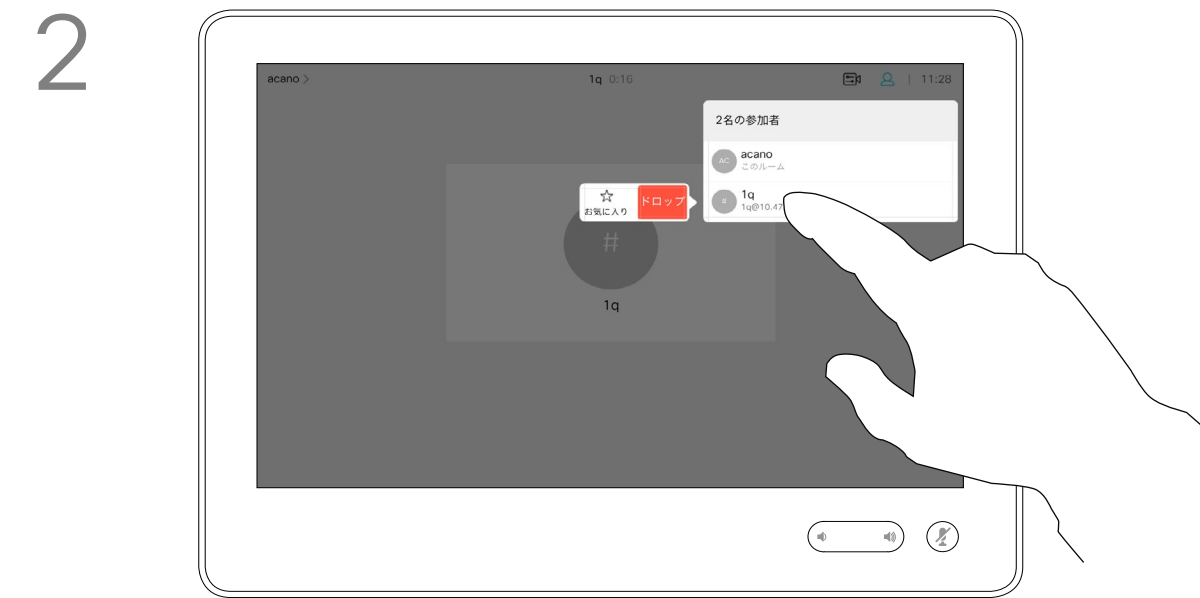
お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

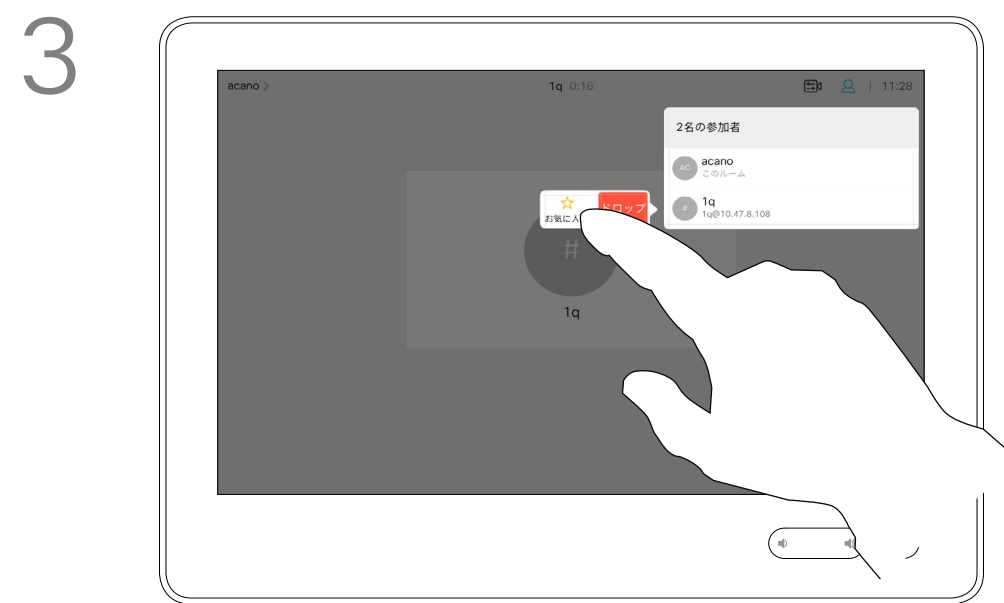
[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



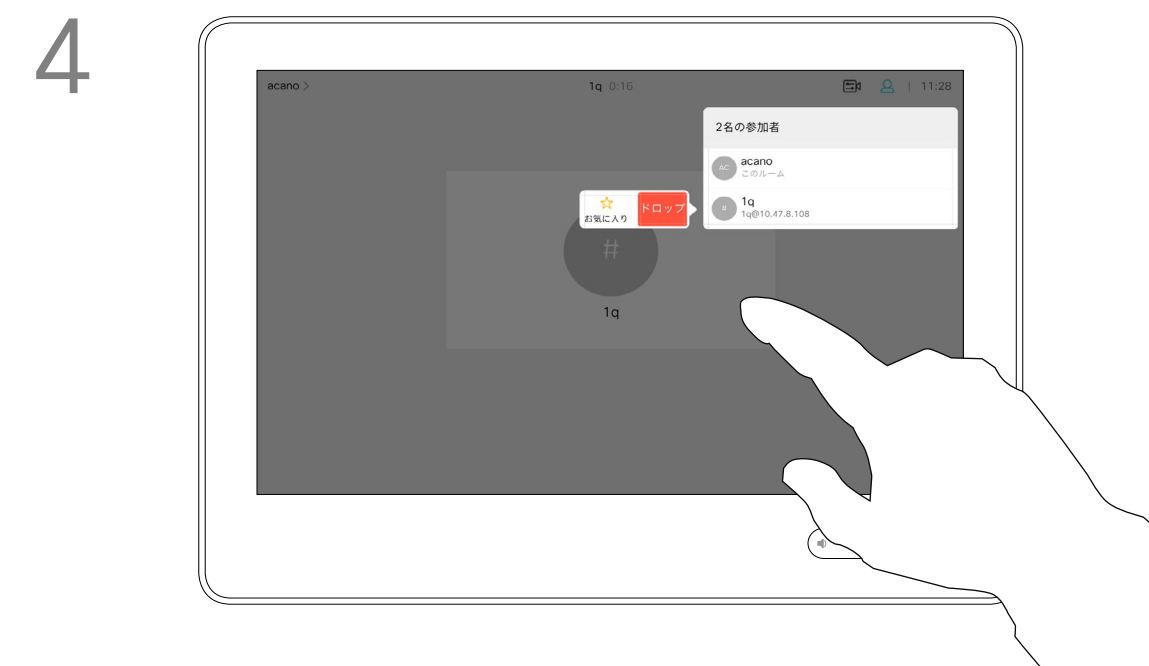
通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



参加者のリストで、誰かをタップするとその人が [お気に入り (Favorite)] に追加されます。



[お気に入り (Favorite)] をタップします。



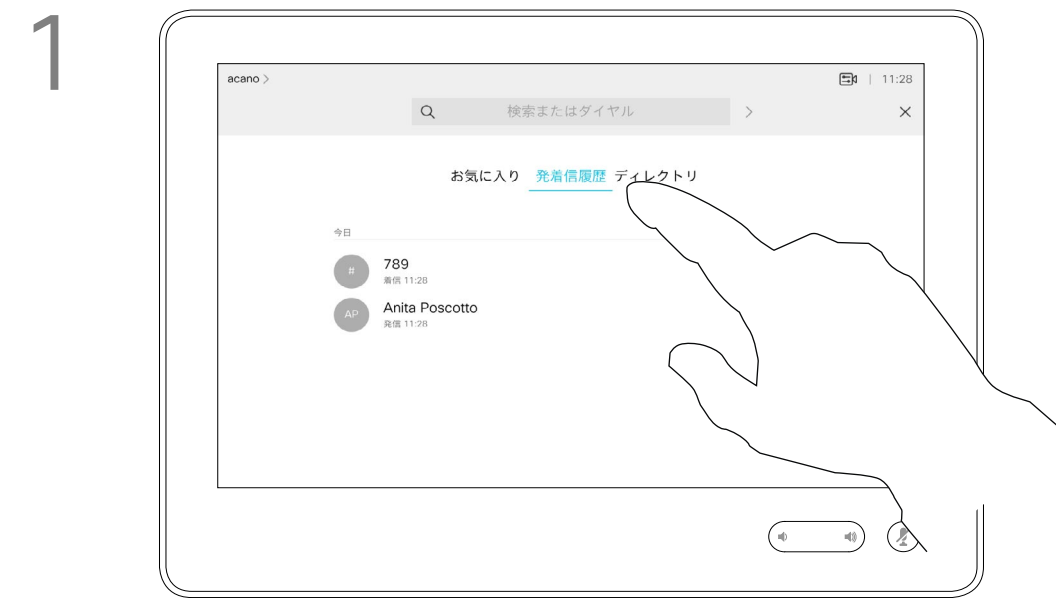
その参加者は [お気に入り (Favorite)] のリストのメンバーになります (星印が金色に変わります)。

[お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先 (Contacts)] 中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

完了したらメニュー以外の場所をタップします。

コンタクト 誰かを非通話時にお気に入りに追加する

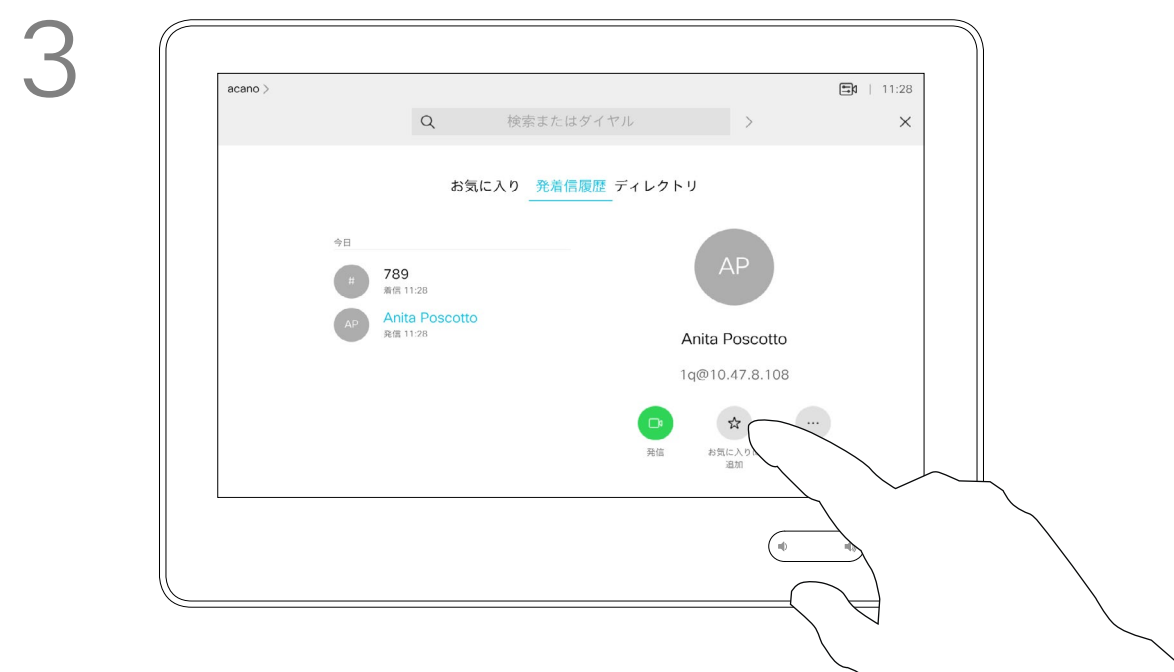
この機能について



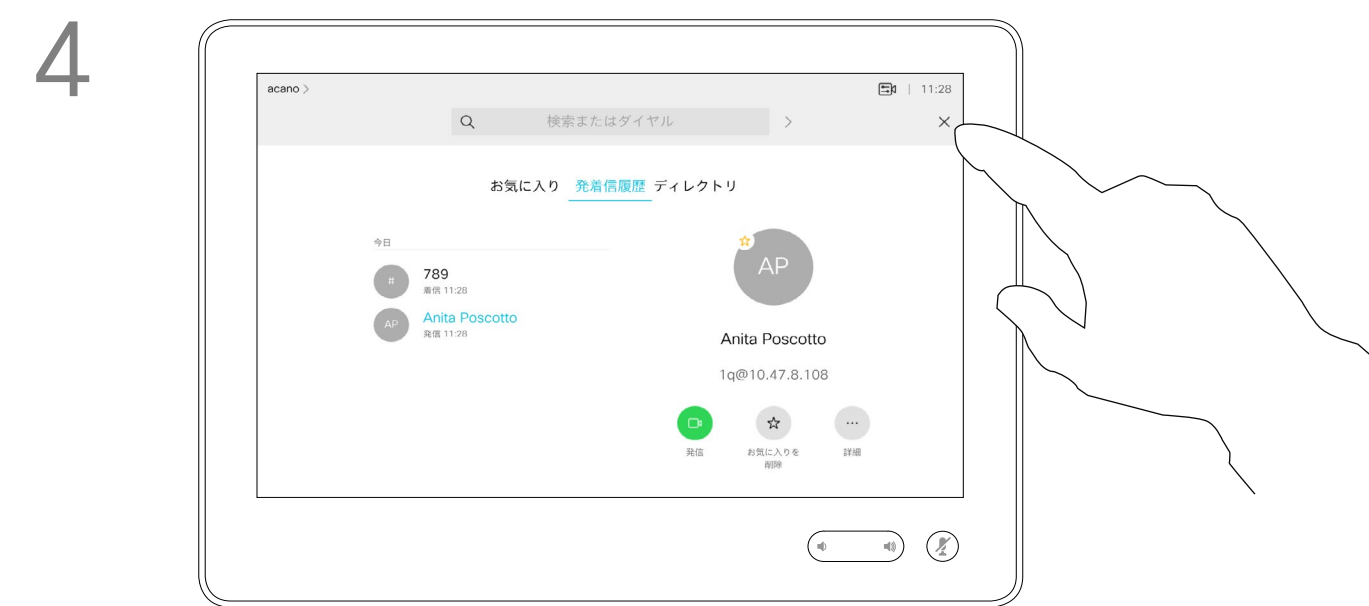
図のように、[発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。



エントリをタップし、[お気に入り (Favorite)] に追加します。上記の画面が表示されます。



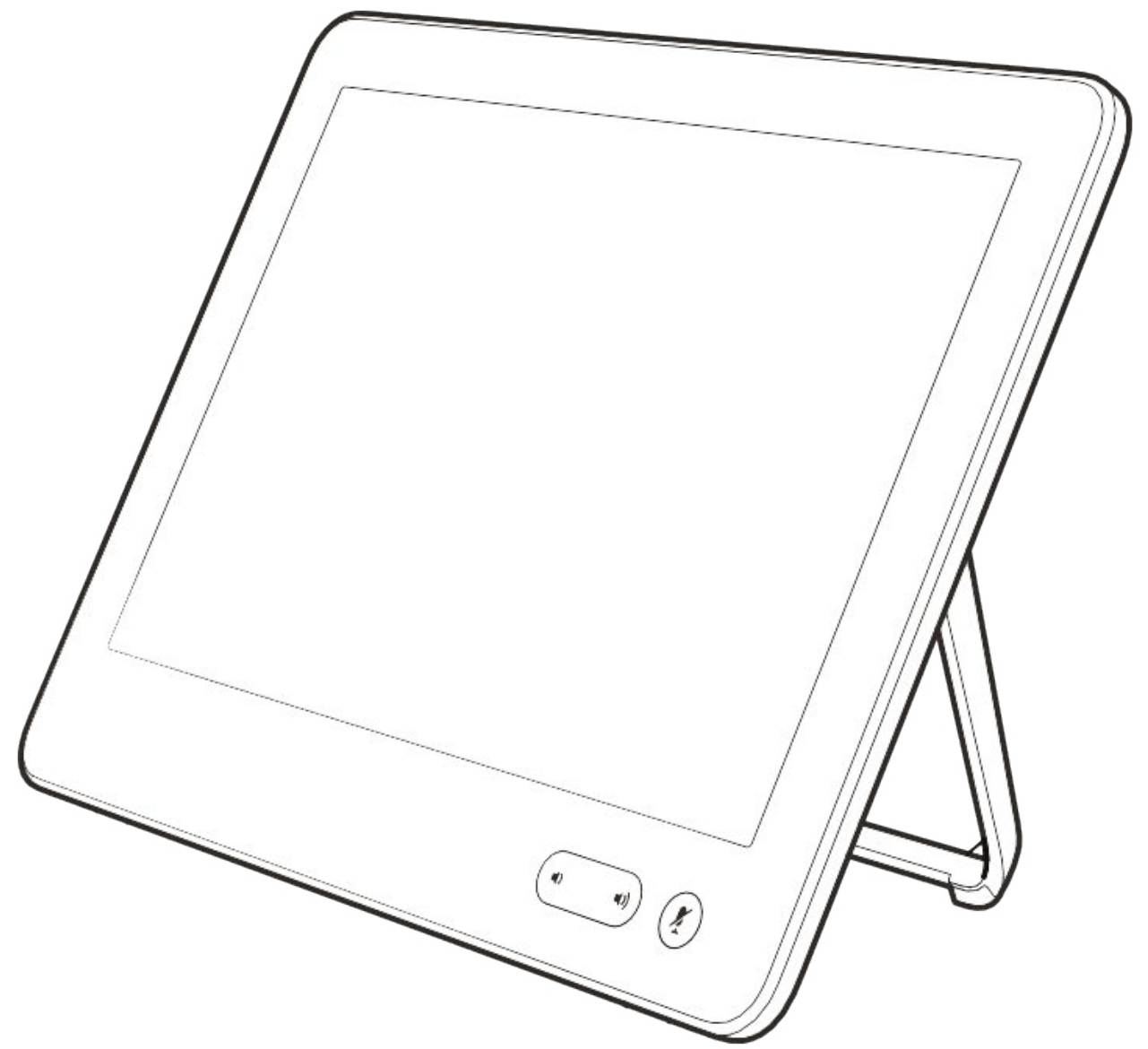
[お気に入りに追加 (Add to Favorites)] をタップします。そのエントリが [お気に入り (Favorite)] に追加されます。



図のように、[お気に入り (Favorite)] が金色の星印で表示されます。

[お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、この手順を繰り返します。

このメニューを終了するには、図のように [X] をタップします。

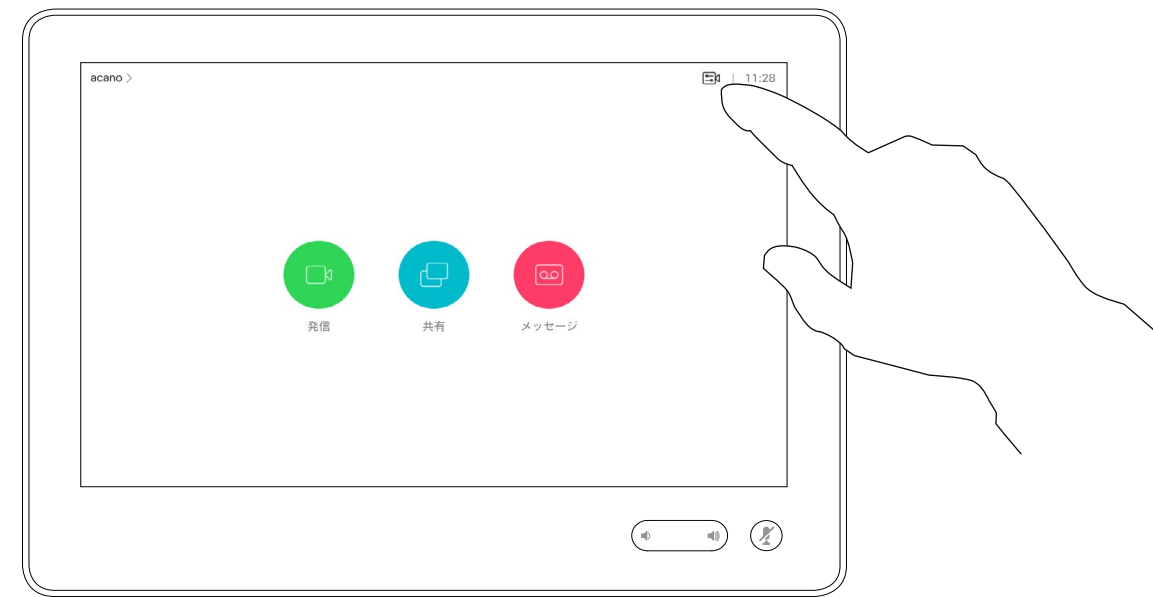


カメラ

カメラ

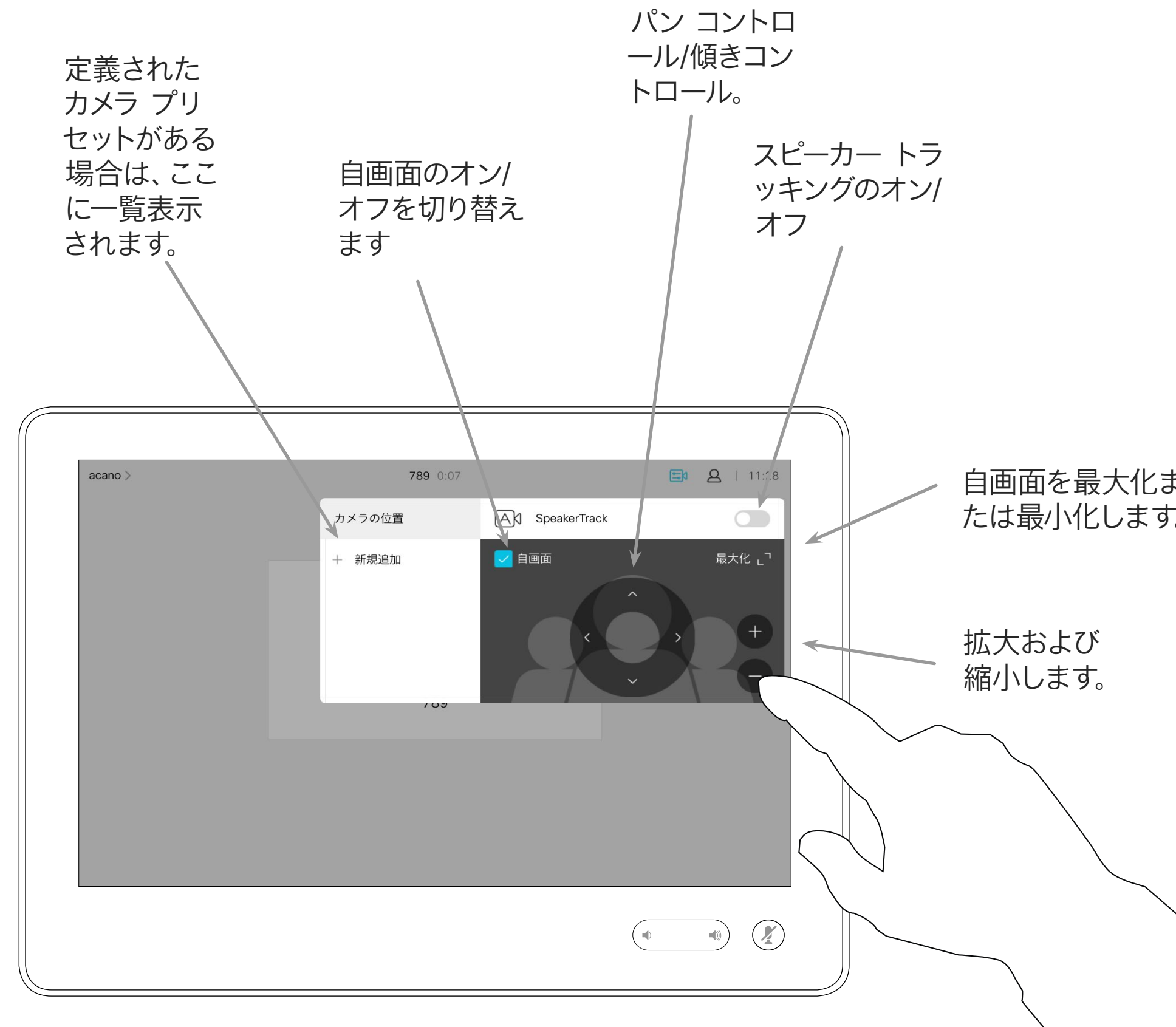
カメラ設定の表示

1



カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



カメラ操作について

カメラ設定では、カメラのズーム、パン、および傾きの操作に加えて、カメラ位置プリセットの定義および編集を行うことができます。

さらに、自画面（システムから他者に見える画像）のオン/オフに加えて、自画面の最大化/最小化を行うことができます。

自画面が画面上の画像の重要な部分を遮っている場合は、自画面の位置を移動できます。

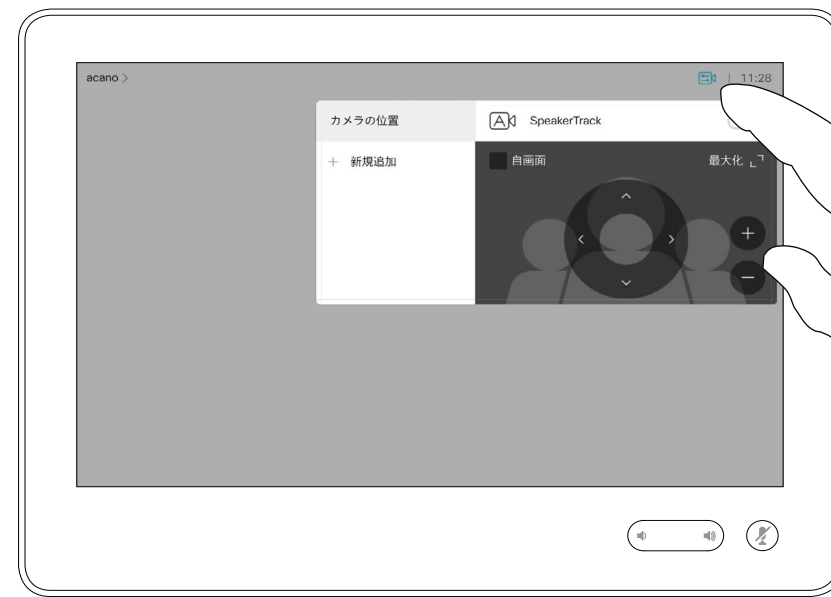
スピーカー トラッキングを搭載したシステムでは、この機能をオンにすると、カメラ システムがプレゼンターを拡大します。

カメラ

カメラ位置プリセットの追加

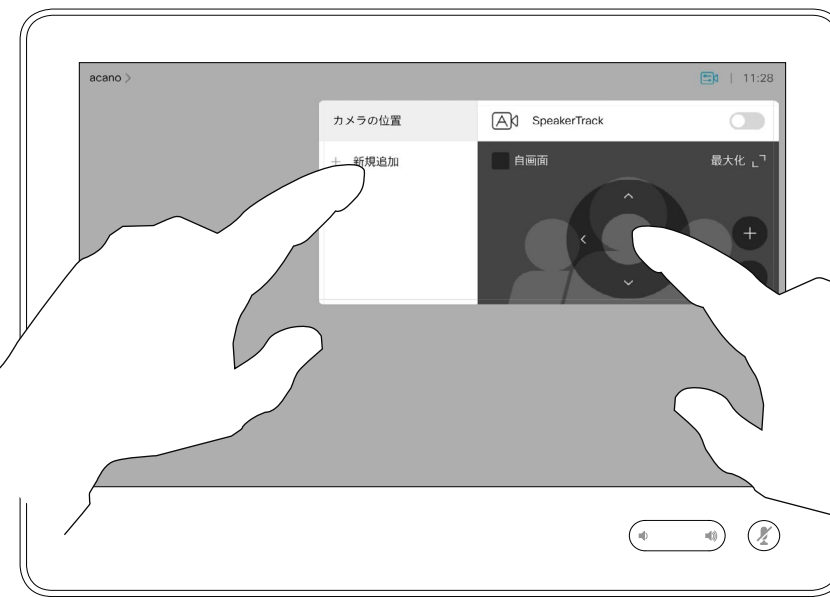
カメラ プリセットについて

1



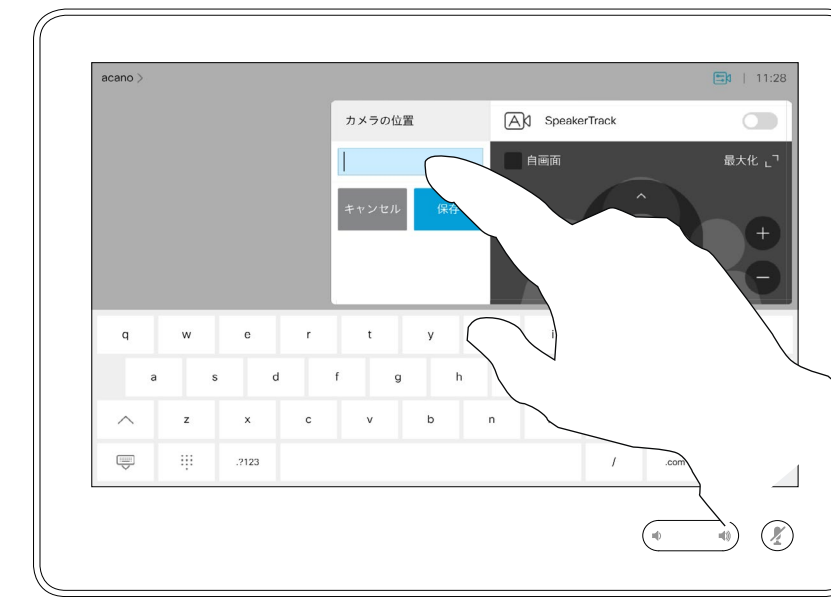
カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



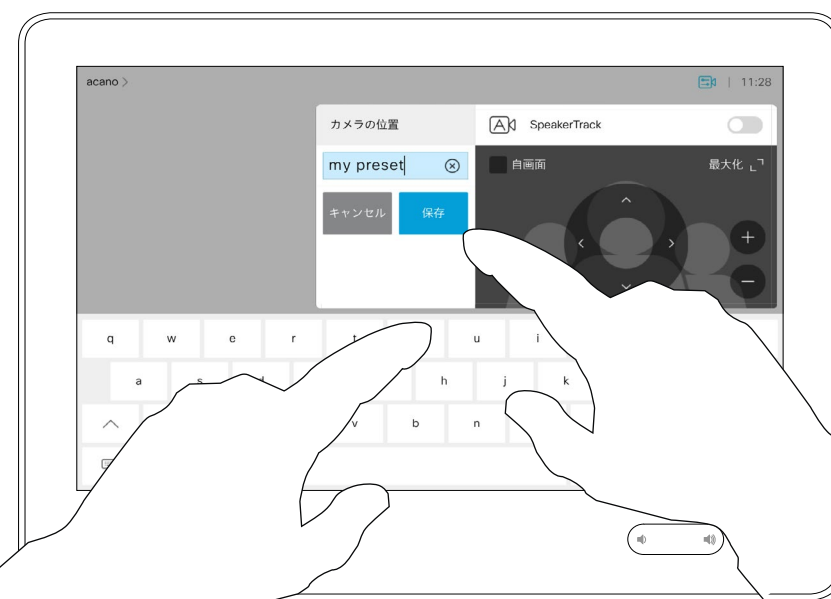
自画面は自動的にアクティブ化されます。必要に応じて、チルト、パン、ズームを調整します。次に [+ 新しく追加 (+ Add new)] をタップします。

3



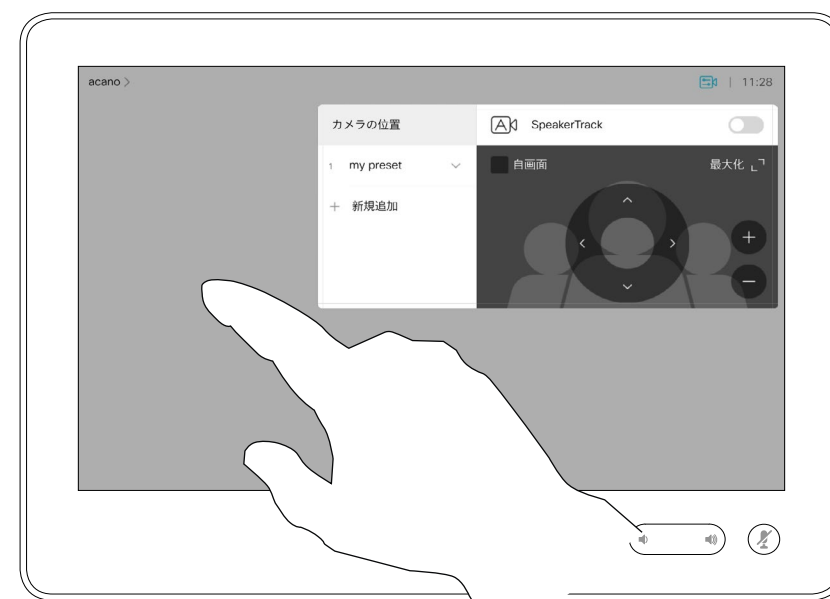
テキスト フィールドをタップします。

4



わかりやすい名前を付けて [保存 (Save)] をタップすると、変更が適用されます。

5



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

ビデオ システムでは、事前定義されたズームおよびカメラの向く方向 (パンと傾きとも呼ばれます) を作成できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。

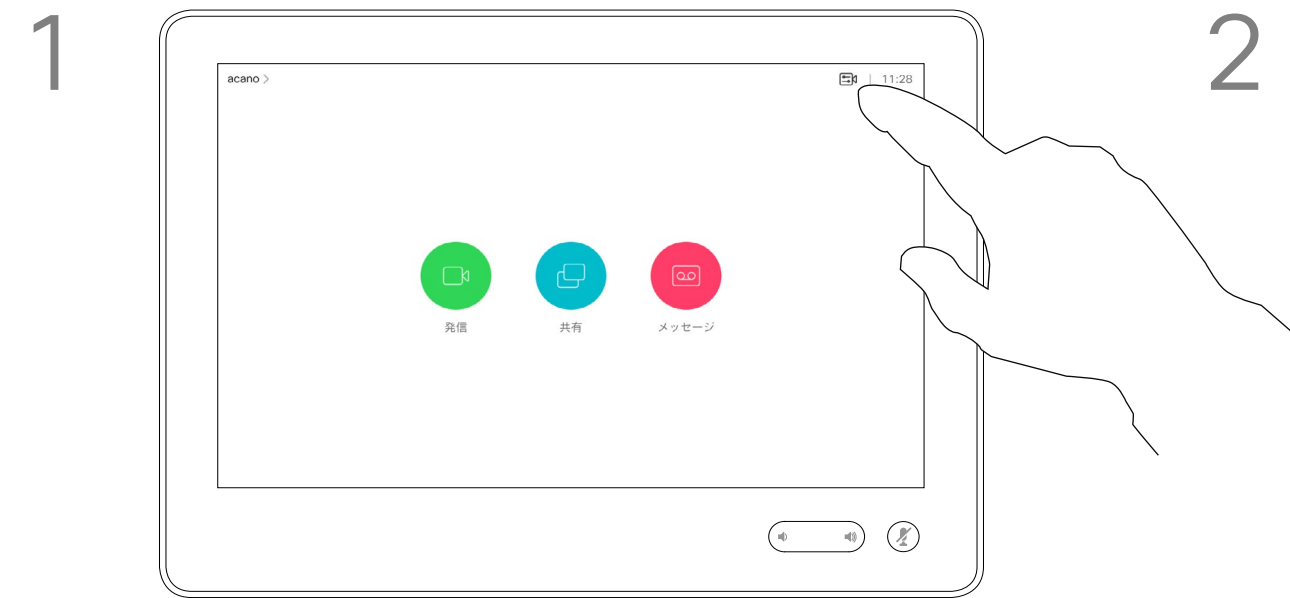
つまり、1 つまたは複数のズームイン プリセットを作成する場合は、ズームアウト (概要) プリセットも作成して、概要モードに簡単にスイッチバックできるようにする必要があります。

相手先カメラ、つまり、他のいずれかの参加者のカメラは操作できます (リモート操作可能な場合) が、それらのプリセットを定義したり、利用したりすることはできません。

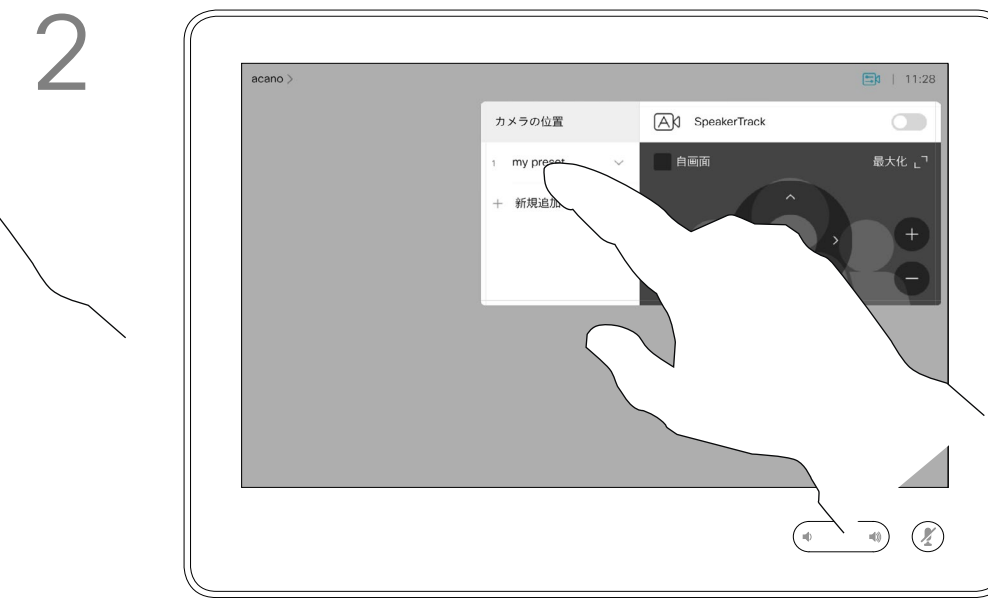
カメラ

カメラ位置プリセットの編集

プリセットの編集について



カメラをタップして、カメラ メニューを呼び出します。



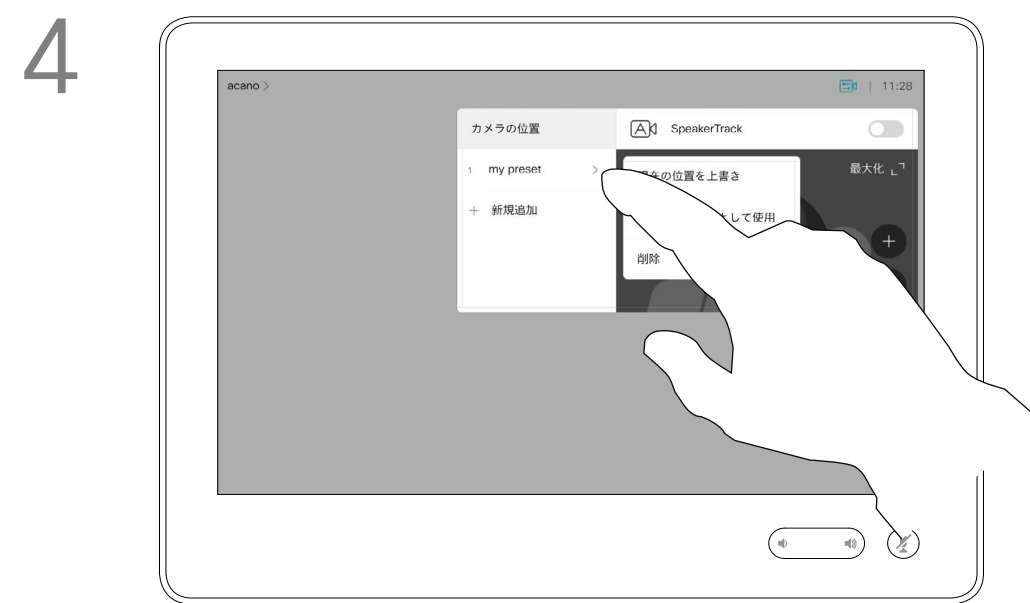
編集するプリセットをタップします。自画面は自動的にアクティブ化されます。



必要に応じて、パン、チルト、ズームを調整します。

プリセットを編集するには、既存のプリセットを取得して変更し、同じ名前で保存します。

名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、適切な名前で新しいプリセットを作成することをお勧めします。



編集するプリセットの小さな矢印をタップします。



[現在のポジションを上書き (Update to current position)] をタップして変更を適用します。

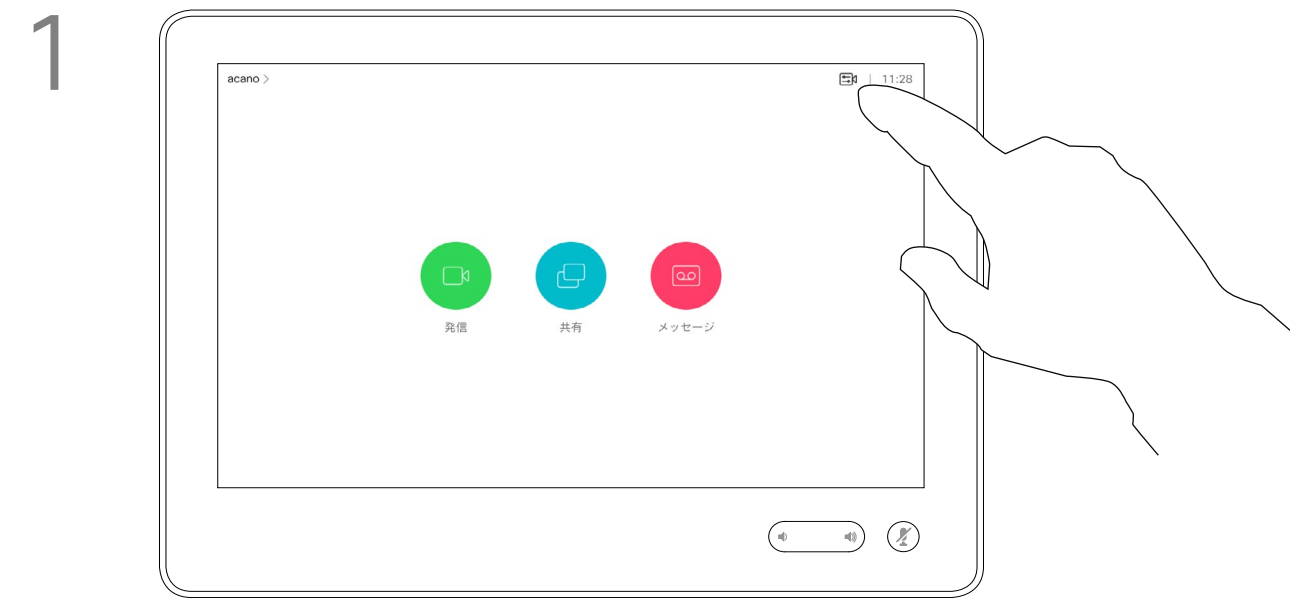
既存のプリセットを削除するには、[削除 (Remove)] をタップします。



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

カメラ スピーカー トラッキング

スピーカー トラッキング について



[スピーカー トラッキング (Speaker Tracking)] を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



右上隅にあるボタンをタップして、スピーカー トラッキング機能をアクティブにします。



メニュー以外の場所をタップして終了します。
スピーカー トラッキングを非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカー トラッキング カメラ システムを搭載したシステムでは、ビルトインマイク アレイと連動するカメラを使用します。システムがプレゼンターを追跡して表示するので、[カメラ操作 (Camera Control)] メニューや [カメラプリセット (Camera Presets)] を使用して拡大または縮小する必要はありません。

スピーカー トラッキングがアクティブになっても、カメラ位置プリセットは使用できません。スピーカー トラッキングをオフにして、プリセットにアクセスできるようにします。

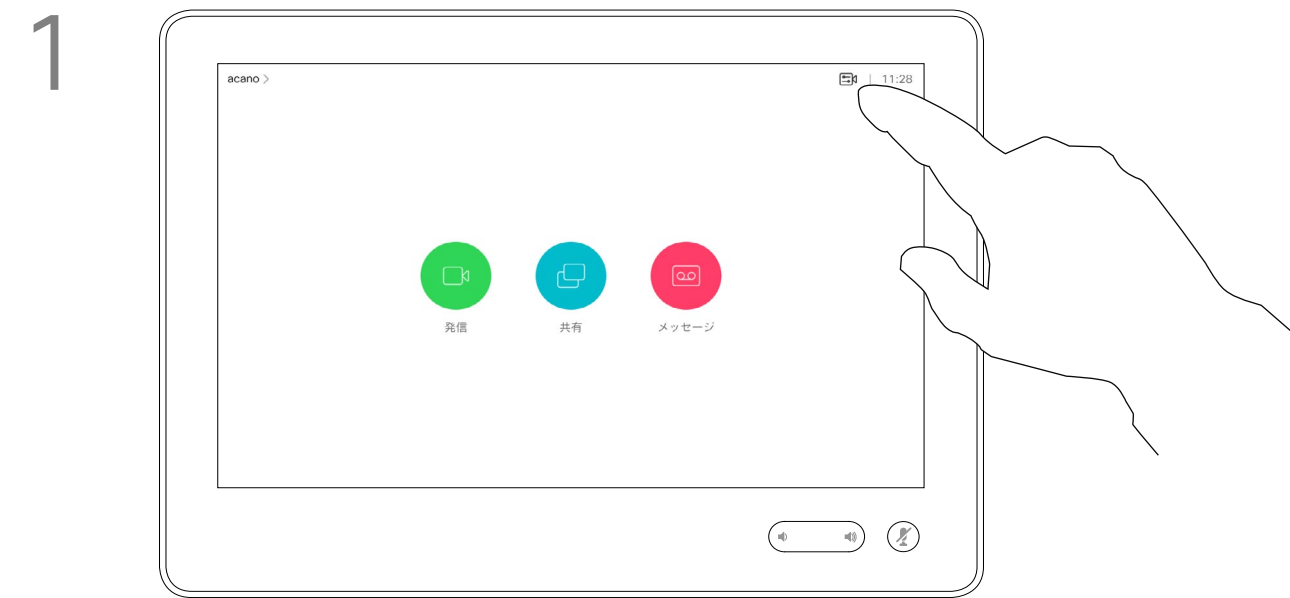
必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカー トラッキングをアクティブにします。

注意 マイクがミュートにされている場合、スピーカー トラッキングは動作しません。

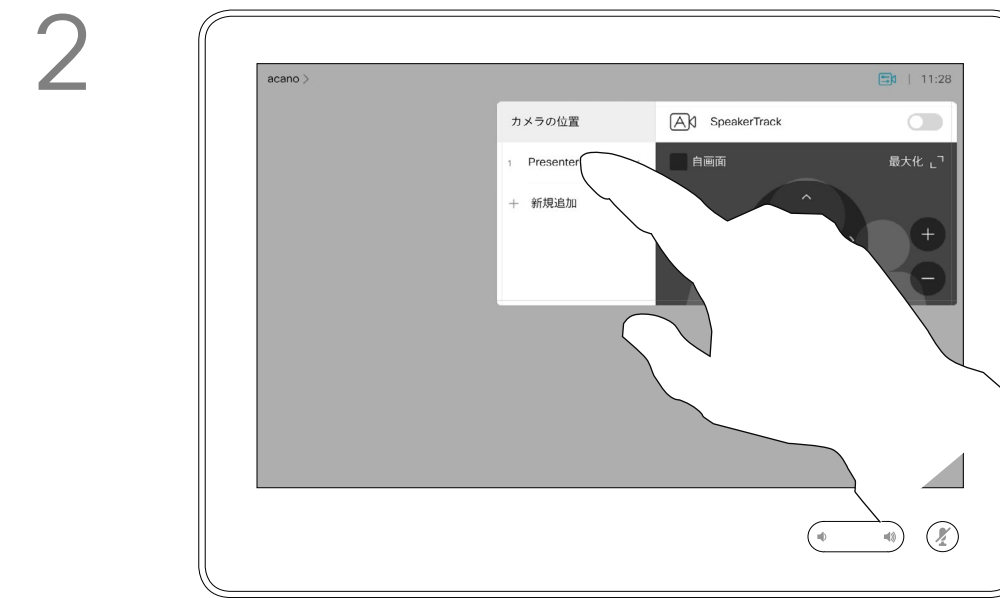
スピーカー トラッキングを拡張して、ホワイトボードにスナップ機能やプレゼンター トラッキング機能を含めることができます。その方法については、次のページで説明します。

カメラ プレゼンター トラッキング

プレゼンター トラッキング について



[プレゼンター トラッキング (Presenter Tracking)]
を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



プレゼンター トラック対応のシステムは、図の
ようにカメラ プリセットとしてこの機能を備えてい
ます。スピーカー トラッキングがアクティブになっ
ていても、カメラ プリセットにはアクセスできま
せん（詳細については、前のページを参照）。

スピーカー トラッキング対応のシステム
には、プレゼンター プリセットが含まれ
ている場合があります。このプリセットは、
ビデオ サポート チームによって動作す
るように実装されているはずです。

プレゼンター トラックを使用すると、ス
テージ上で移動しているプレゼンターを
カメラが拡大して追跡できます。ステー
ジのゾーンはビデオ サポート チームに
よって定義されます。

プレゼンターがステージから立ち去ると、
トラッキングは停止します。

この機能の設定手順およびこの機能を
サポートする製品は、当社の会議室シス
テムおよびコーデックに関する CE9.2
管理者ガイドを参照してください。

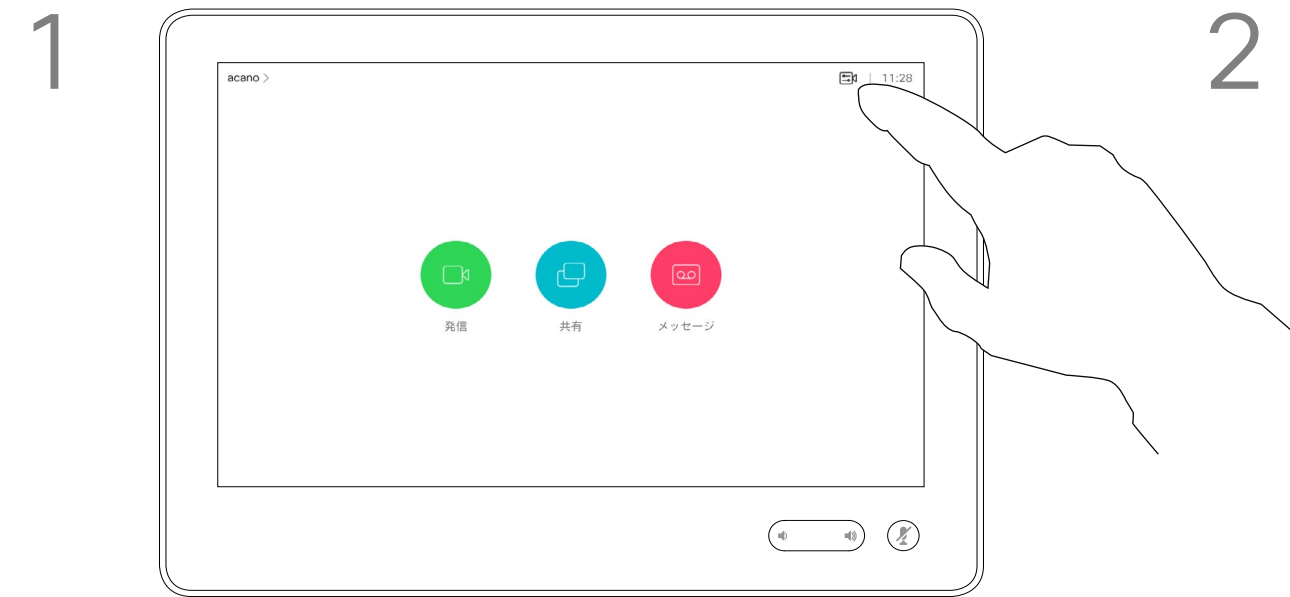


メニュー以外の場所をタップして終了します。
プレゼンター トラッキングを非アクティブにするには、
[プリセット (preset)] を再度押します。

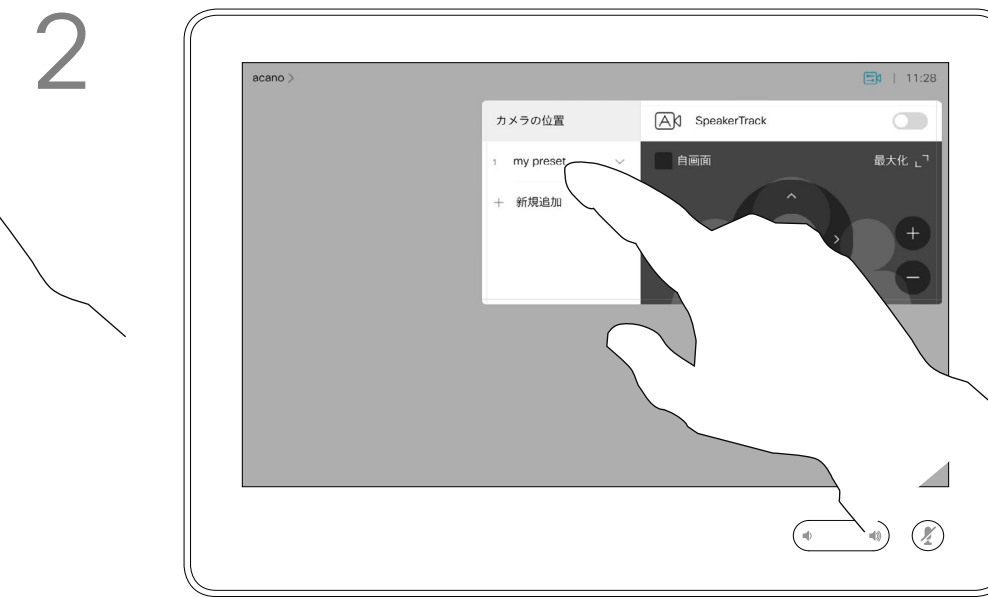
カメラ 自分のカメラを操作する

プリセットの編集について

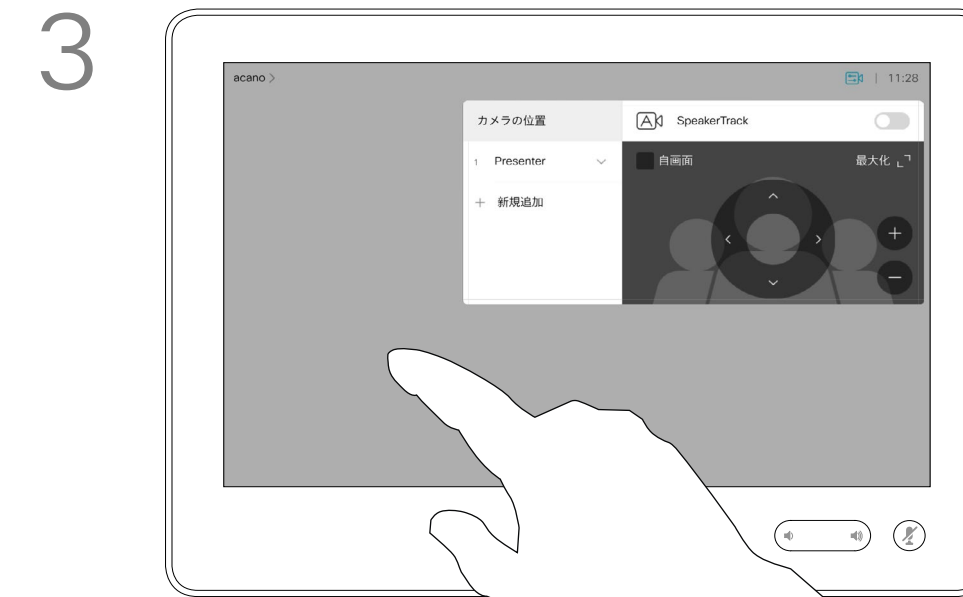
カメラ プリセットの使用



通話中または非通話時（この図）に、カメラをタップします。



使用するプリセットを選択します。



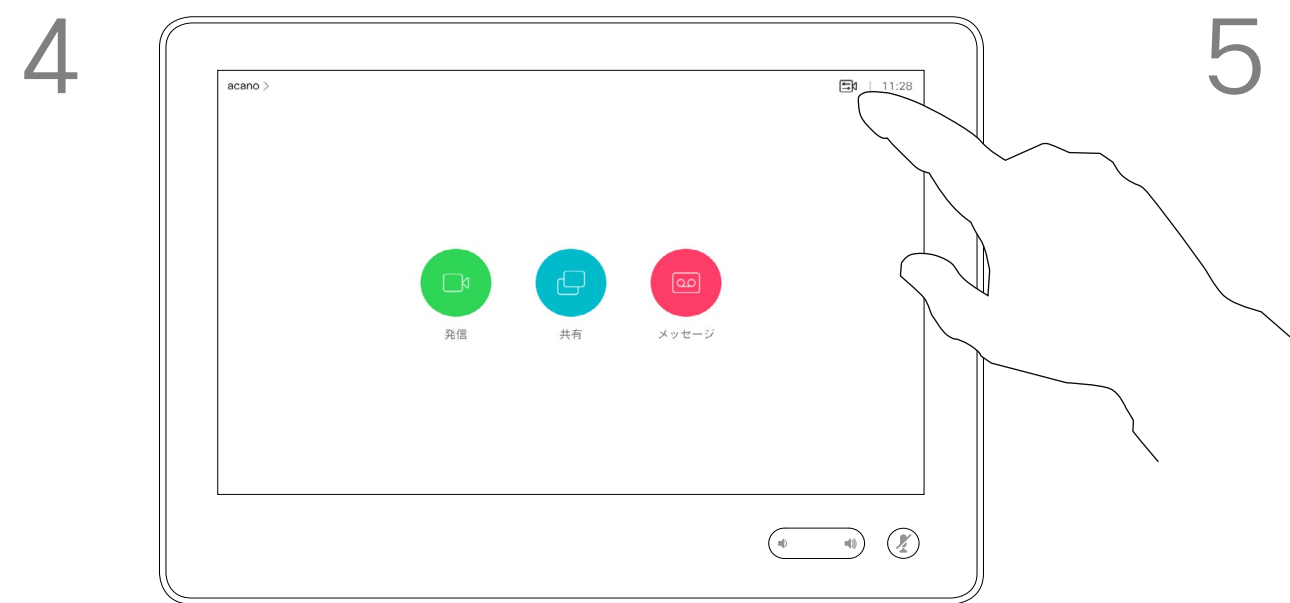
完了したらメニュー以外の場所をタップします。

通話中には、既存のカメラ プリセットをすぐに使用できます。

ビデオ システムに複数のカメラがある場合があります。たとえば、1 つのカメラで参加者を映し、もう 1 つのカメラでホワイトボードを映している場合などです。

新しいカメラ プリセットを追加するか、既存のカメラ プリセットを変更する場合は、非通話時と同じ方法で行います。プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、傾き、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。

カメラのパン、傾き、およびズームの調整



通話中または非通話時（この図）に、カメラをタップします。



パン、傾き、およびズームを調整します。自画面が一時的にオンになります。

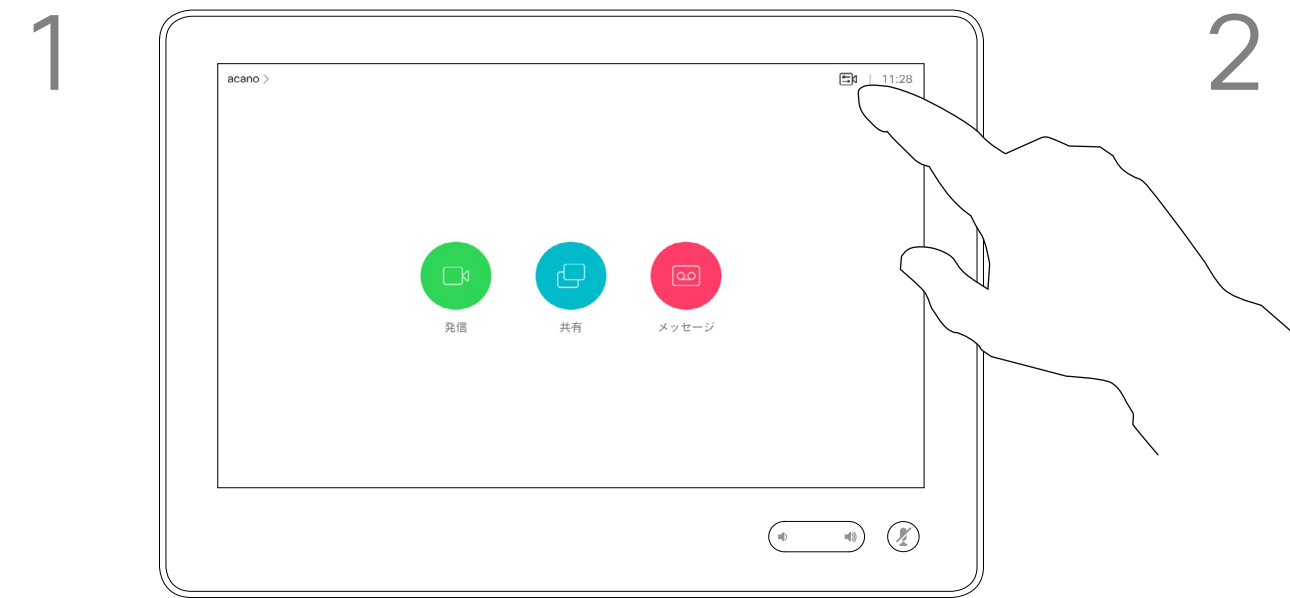


完了したらメニュー以外の場所をタップします。

カメラ 自画面の管理

プリセットの編集について

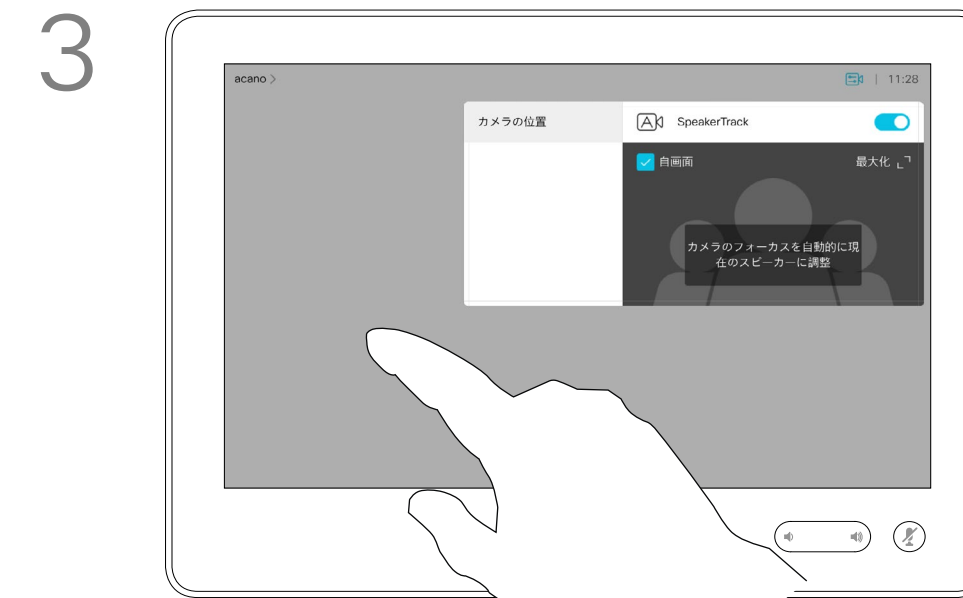
非通話時の場合



通話中または非通話時（この図）に、カメラをタップします。



【自画面 (Selfview)】をタップしてオンにします。
 これで、自画面画像のサイズを変更したり（詳細については、次のページを参照）、カメラのパン、傾き、およびズームを操作したり（詳細については、前のページを参照）することができるようになりました。
 同じ操作を繰り返して自画面を再度オフにします。



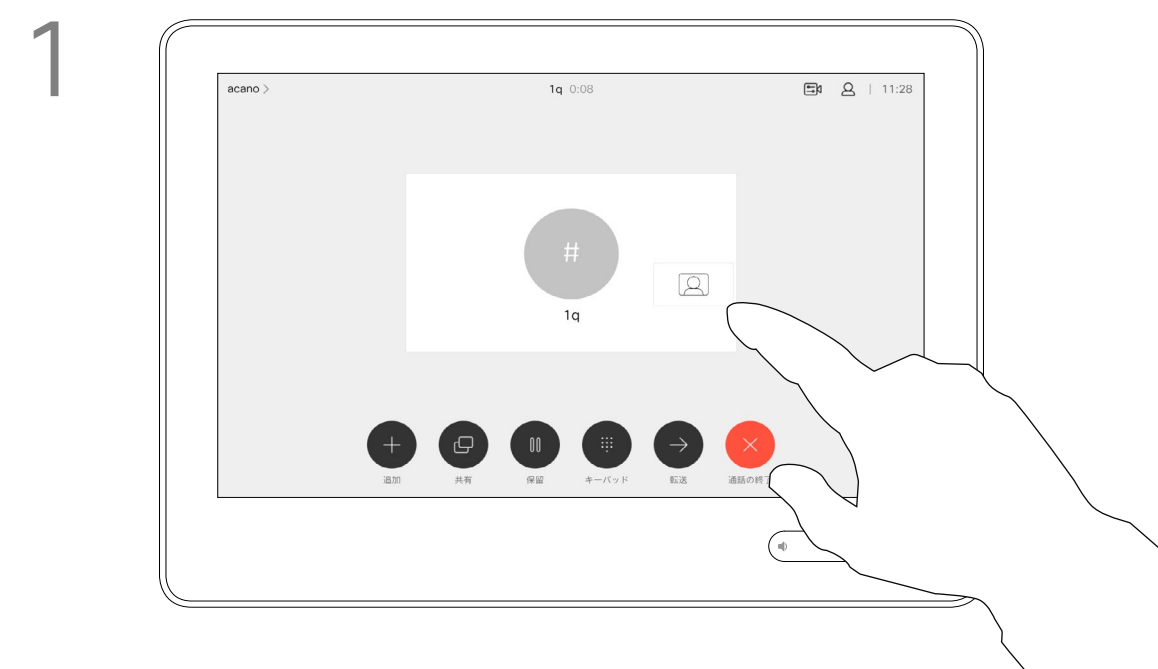
完了したらメニュー以外の場所をタップします。

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は PiP (Picture-in-Picture) として表示されますが、全画面表示で表示されます（次ページ参照）。

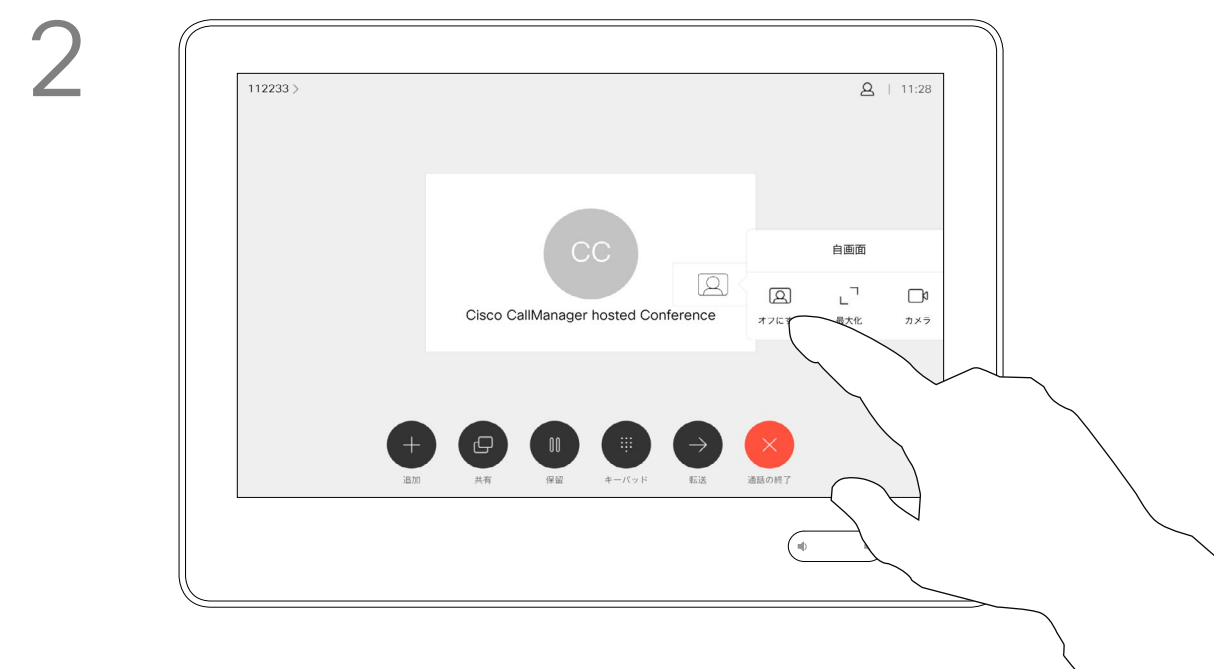
自画面 PiP の位置は、通話中でも非通話時でも変更できます。詳細については、2 ページ先を参照してください。

通話中の場合



通話中に自画面をオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、上記（非通話時の場合）で説明した操作を実行します。



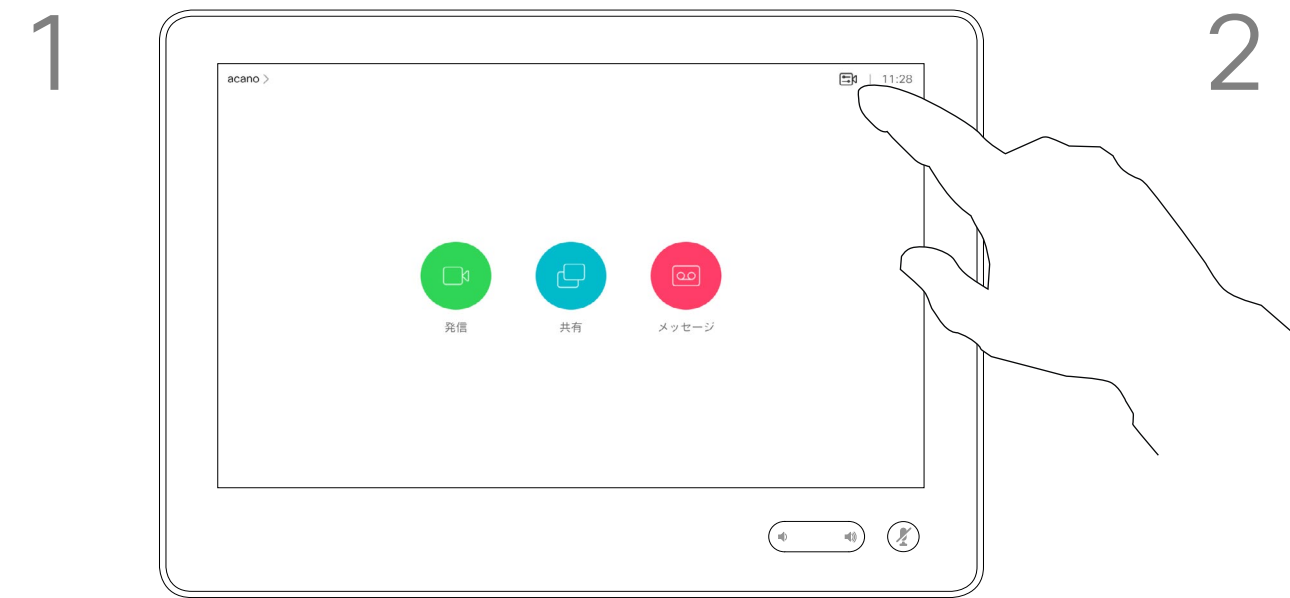
図のように【オフにする (Turn off)】をタップします。

カメラ

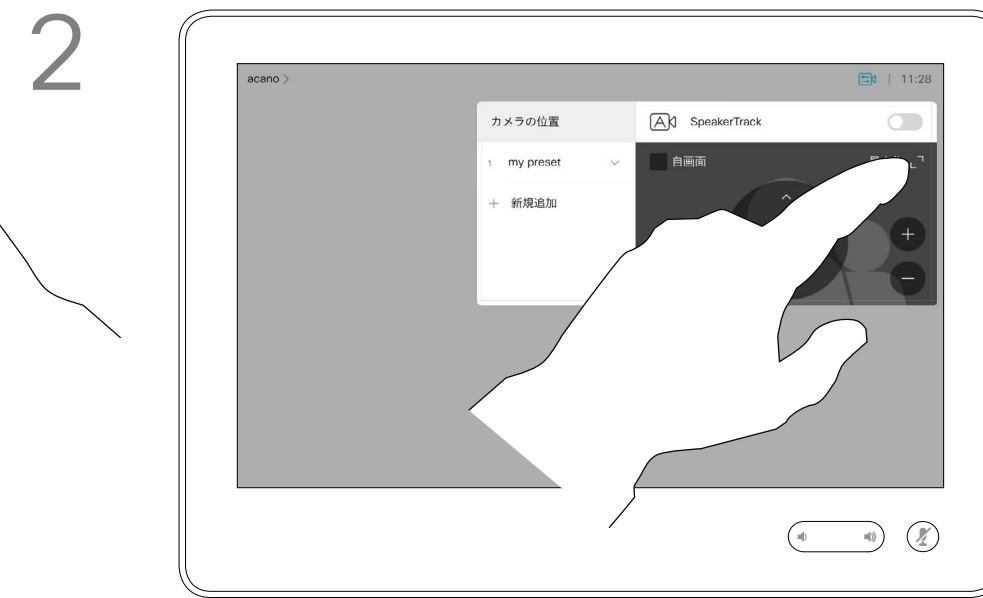
自画面 PiP のサイズを変更する

自画面のサイズを変更する理由

非通話時の場合



通話中または非通話時 (この図) に、カメラをタップします。



自画面の画像のサイズを変更するには、**[最大化 (Maximize)]** をタップします。
同じ操作を繰り返して画像を最小化します。



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

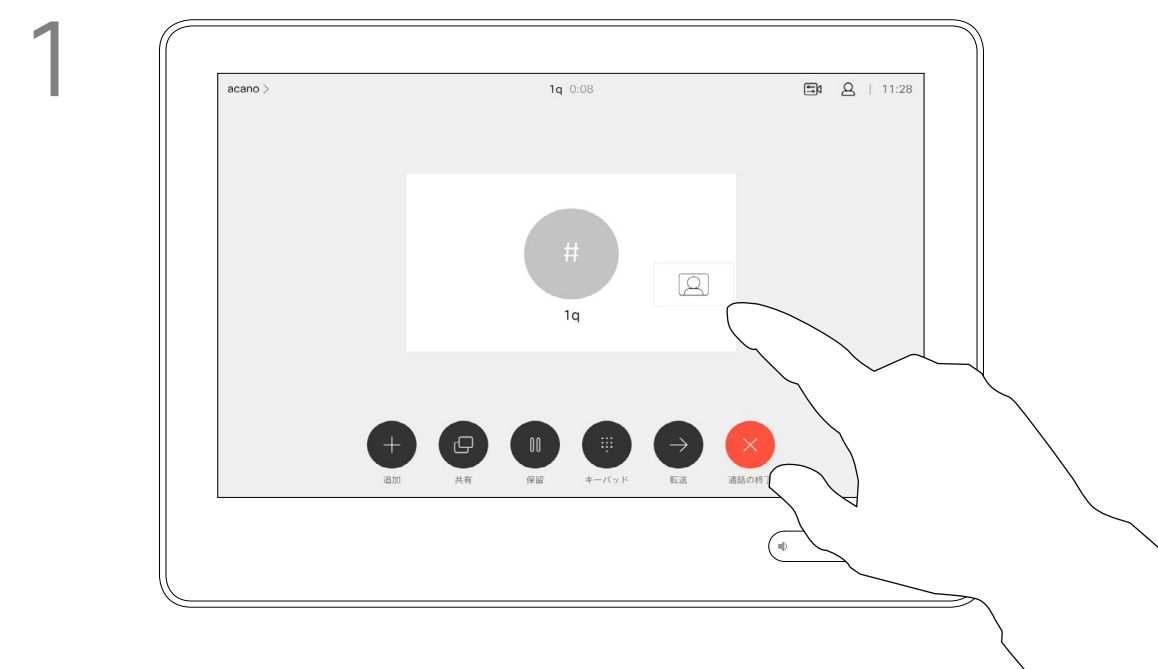
自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。

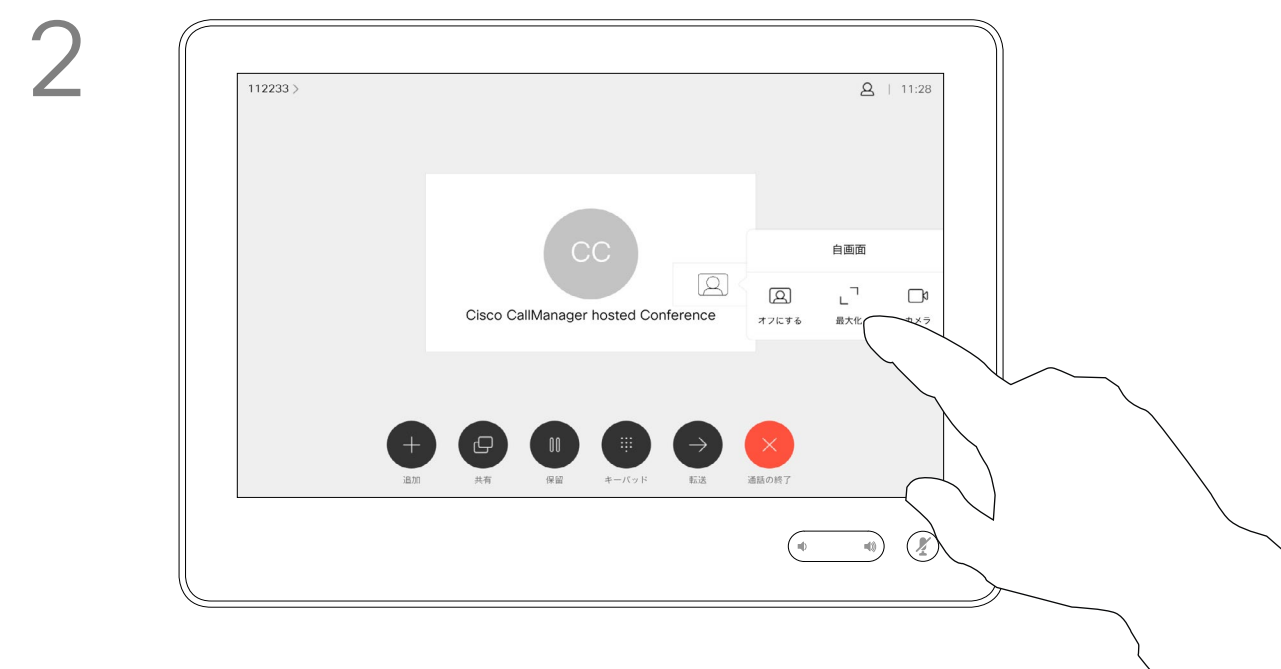
他の参加者が見やすくなるように、カメラをズーム、パン、または傾けることができます。見やすくするために、自画面を最大化できます。

通話中の場合



通話中に自画面をオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、上記 (非通話時の場合) で説明した操作を実行します。



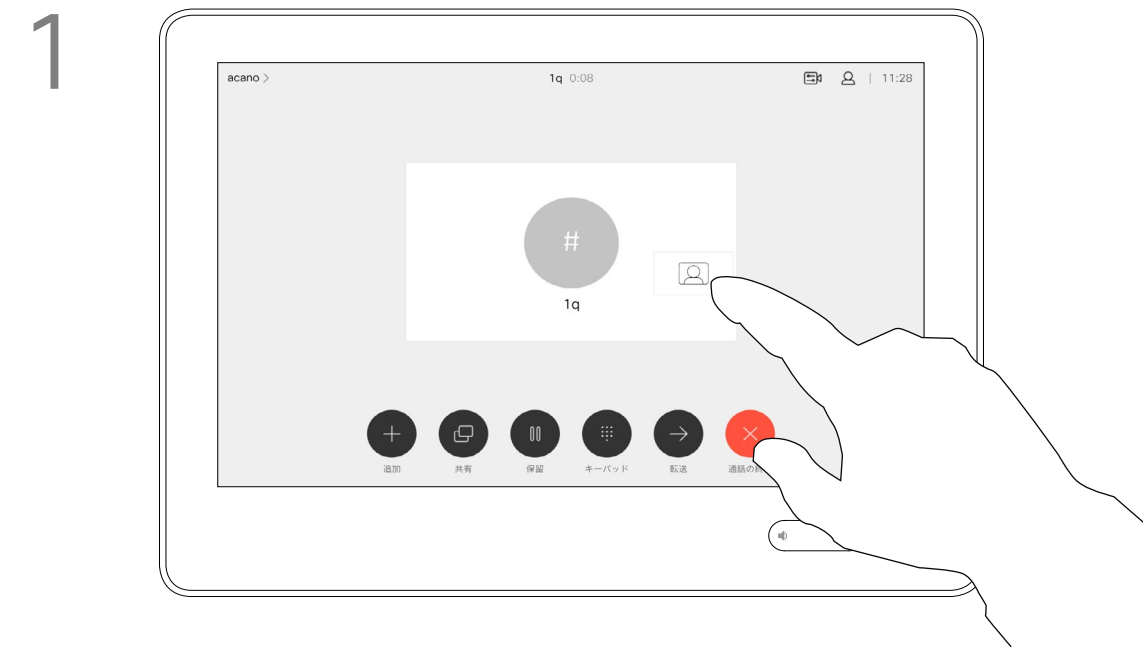
自画面の画像のサイズを変更するには、図のように **[最大化 (Maximize)]** をタップします。

同じ操作を繰り返して画像を最小化します。

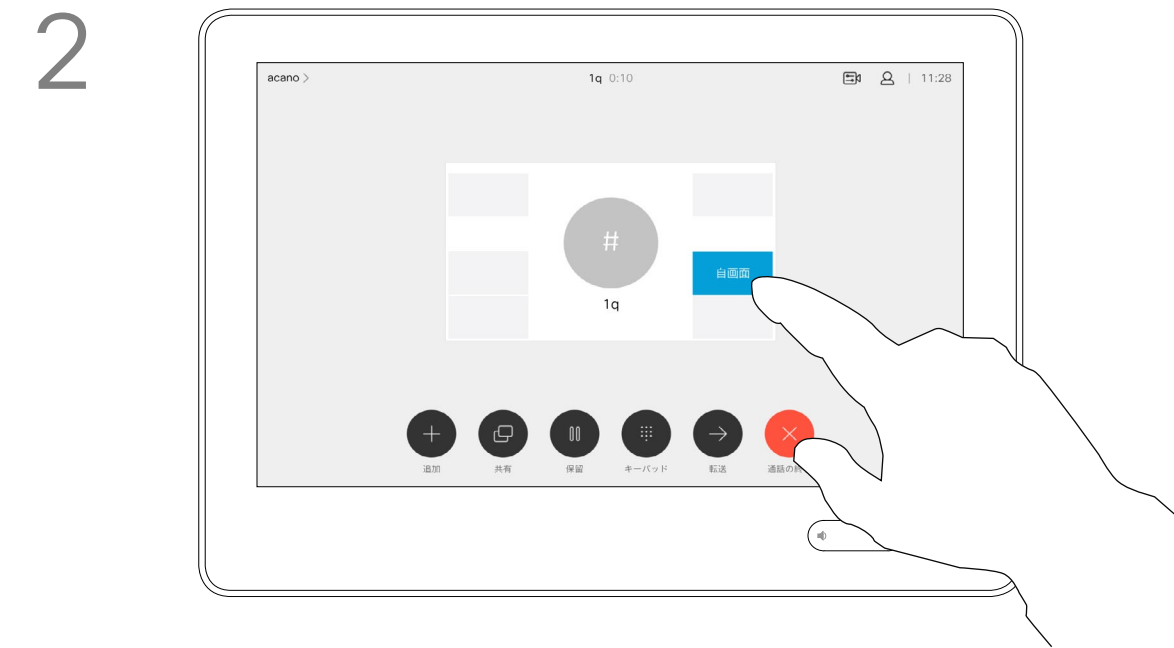
カメラ

自画面 PiP の移動

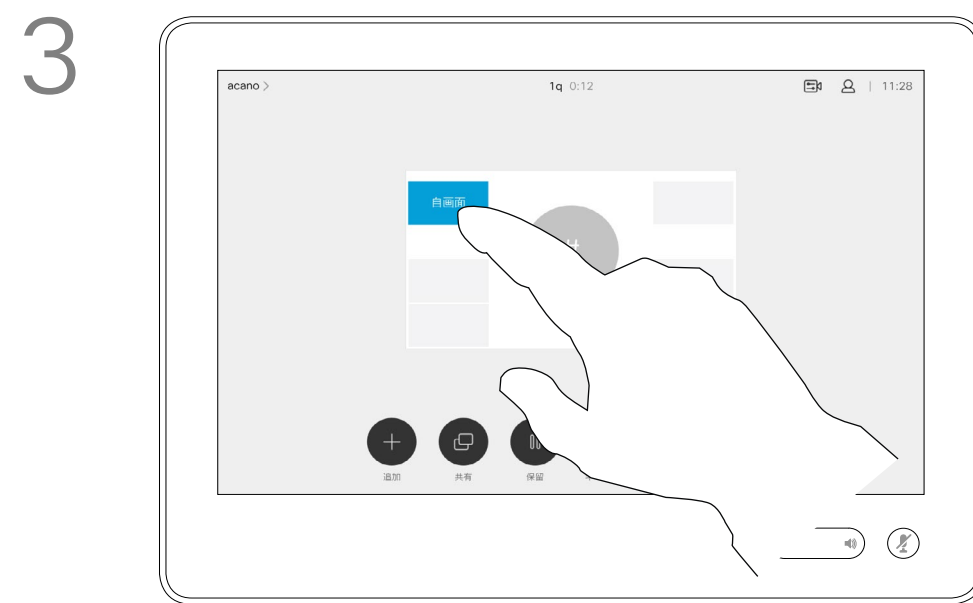
自画面を移動する理由



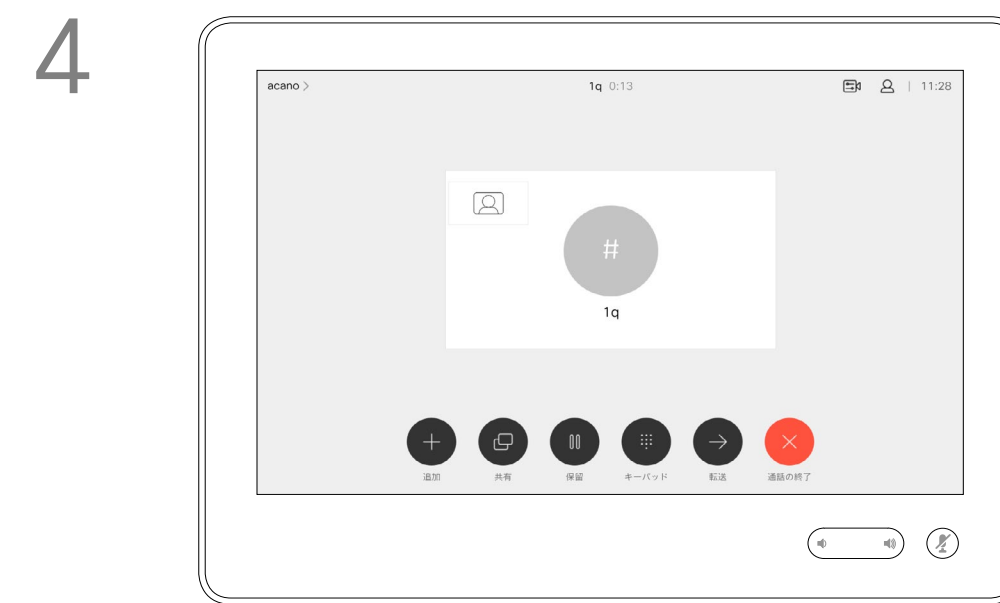
自画面の画像をタップしたままにします。



自画面の画像が青になりました。自画面の画像を移動できる位置も表示されます。画像をタップしたままにします。



画像を新しい位置にドラッグします。ここでは左上隅にドラッグします。



画面から指を放して画像をリリースします。自画面の画像が新しい位置に移動しました。

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

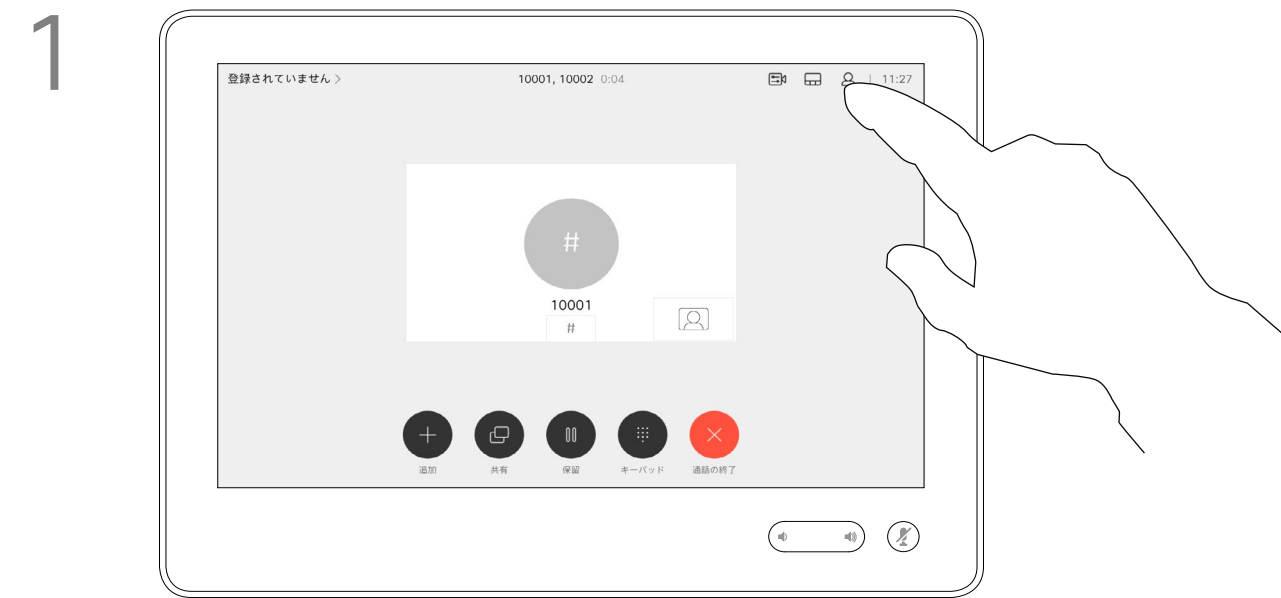
自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、画面に自分を表示したままにしたい場合です。

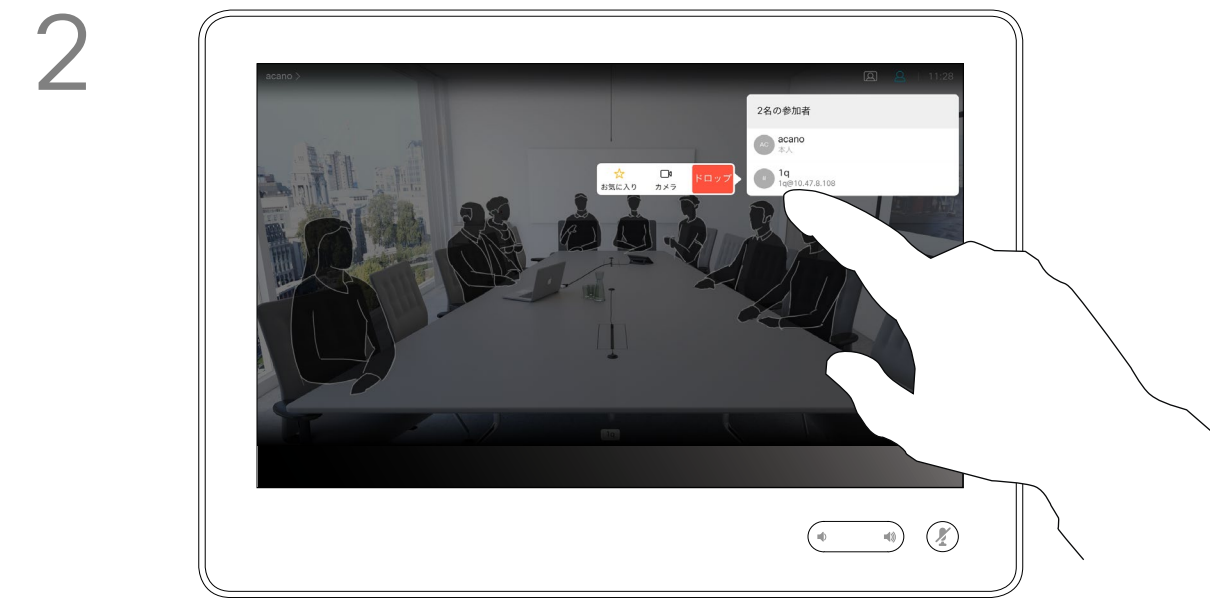
自画面の現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。

カメラ 遠端カメラ制御

カメラ操作について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



制御対象のカメラを持つ出席者をタップします。

ビデオ通話中に、1 つ以上の通話先のビデオ システムにリモート制御可能なカメラがある場合があります。

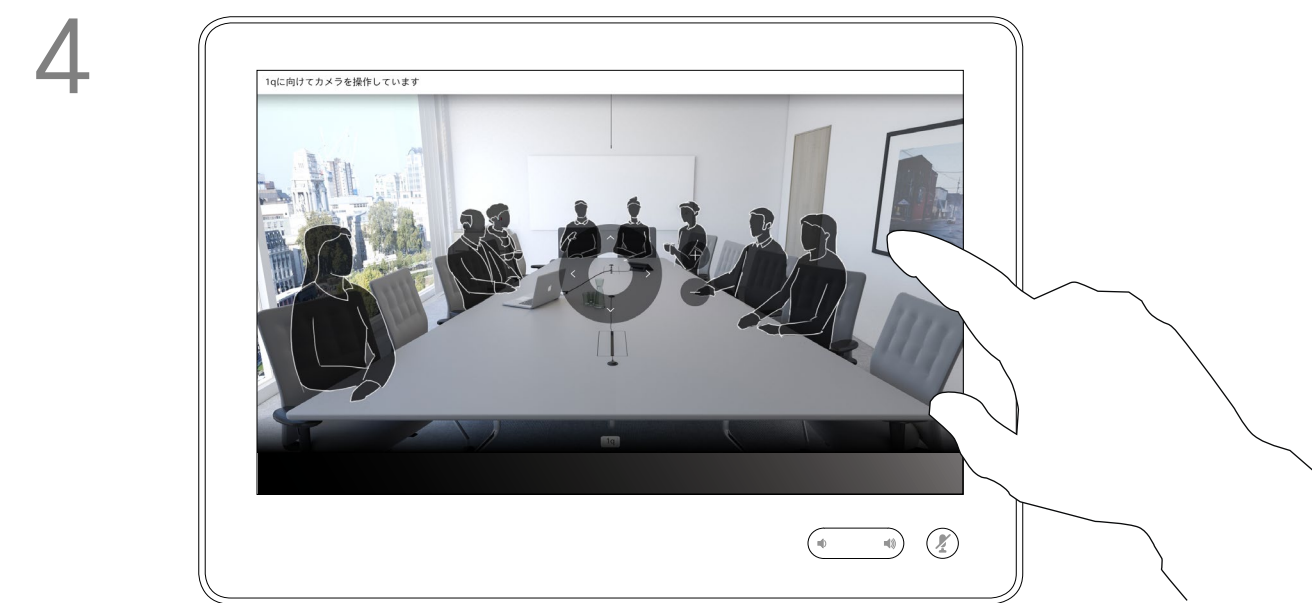
この場合、そのカメラを自分のビデオ システムから制御できます。これは遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムによってカメラ トラッキングがアクティブ化されている場合 (この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは提供されません。

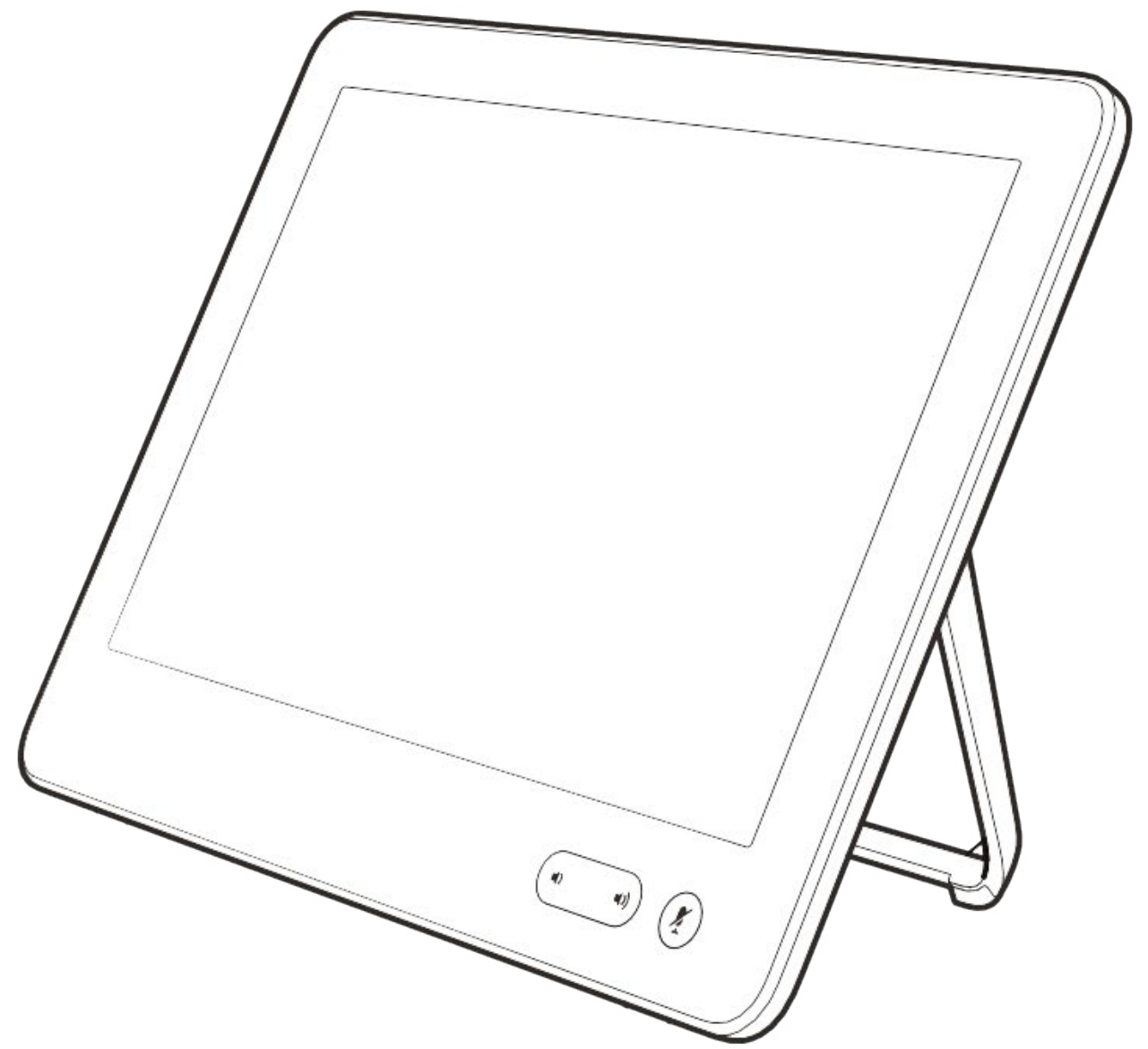
リモート カメラ プリセットにアクセスすることはできません。



カメラをタップします。



リモート カメラを調整します。完了したらカメラ制御ボタン以外の場所をタップします。



設定

設定

設定にアクセスする

バージョン情報管理

1



2



詳細設定を行う必要がある場合、Web インターフェイスからシステムにアクセスする必要があります。そのためには、管理者の資格情報が必要です。

[システム情報 (System Information)] ページには、IP アドレス、MAC アドレス、SIP プロキシ、インストールされているソフトウェアのバージョン、デバイス名などの情報が表示されます。

また、便利な設定を行う際に役に立つ一連のウィザードが含まれています。



アメリカ本社
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋地域
Cisco Systems(USA)Pte. Ltd.
シンガポール

Europe Headquarters
Cisco Systems International BV Amsterdam,
The Netherlands

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト(www.cisco.com/go/offices/)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における商標です。シスコの商標のリストは、www.cisco.com/go/trademarks に記載されています。その他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)